



JET SKI® ULTRA LX

ウォータクラフト

JETSKI
watercraft 取扱説明書

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

最初にお読みください！

▲ 警告

ウォータクラフト“ジェットスキー”を安全にご使用いただくため、操縦する前にこの取扱説明書を読んで内容を十分に理解してください。この取扱説明書には緊急な注意を促すための警告と、その他の重要な情報が記載されています。

ウォータクラフトを安全にお使いいただくために、次の事項を必ずお守りください。

- 乗船者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用して下さい。ライフジャケットは体に合ったものを使用してください。



DA03044E 3

- 乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔（臆や肛門）内に水が入り負傷する恐れがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必

ず着用してください。ウェットスーツは水が透過する速度を著しく遅らせる厚い材質（ネオプレン）でできています。通常の水着では身体を十分に保護できませんが、このような負傷を防ぐことができる水上・水中スポーツ用ウェアもあります。水の力で位置がずれるような水着では身体を保護できません。材質的には厚手のもの、布目の詰まったもの、発水加工を施したもの、身体にフィットするものほど防護機能が高くなります。止むを得ずウェットスーツパンツ以外のものを着用する場合は、最大限に身体を保護できるようなデザインの衣服を着用してください。シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)も着用してください。

- 操縦には、特殊小型船舶操縦士免許が必要です。操縦免許証を持って乗船してください。
- 操縦者が落水したときにエンジンが停止するようエンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供や他の人が使えないようにエンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）をウォータクラフトから外してください。

- 自分の操縦技量をよく知り、無理な航走はしないでください。
自分の操縦技量を超えた航走をすると、思い通りに操縦できなかつたり、落水や衝突の可能性が増えたりします。急旋回や波のジャンプは背骨/脊髄、顔、足やくるぶし等を損傷あるいは骨折する恐れがあります。ジャンプは行わないでください。
- ウォータクラフトの背後に人がいるときはスロットルを開けないでください。
エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをする恐れがあります。



0A03045B 5

- エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないでください。
長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりする恐れがあります。
- 飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。

- 取扱説明書を必ず読んで、よく理解してからご使用ください。

ウォータクラフトの事故では衝突が多く死傷につながっています。

次の事項を守り、衝突防止に努めてください。

- 周囲の遊泳者、障害物、船舶に絶えず注意してください。
自分の視界が妨げられている場合、あるいは他人から見えない位置にいる場合は特に注意してください。



0A03043B 5

- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度、距離を保って航走してください。
 - 他のウォータクラフトや船舶等の後ろを追走しない。
 - 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで。近づかない。
 - 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
 - 浅瀬や暗礁等のある水域は航走しない。

- 早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータクラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 障害物を避けるときはスロットルレバーを戻さないでください。方向を変えるためにはスロットルレバーを操作して推力を確保することが必要です。
航走前には、スロットルレバーとステアリングが正しく作動することをいつも確認してください。
- 航海法規、地域の条例や規則を必ず守ってください。
- 夜間航走はできません。
- 遊泳者の近くや、船舶の往来が激しい水域では航走しないでください。

JET★
STAR

注意

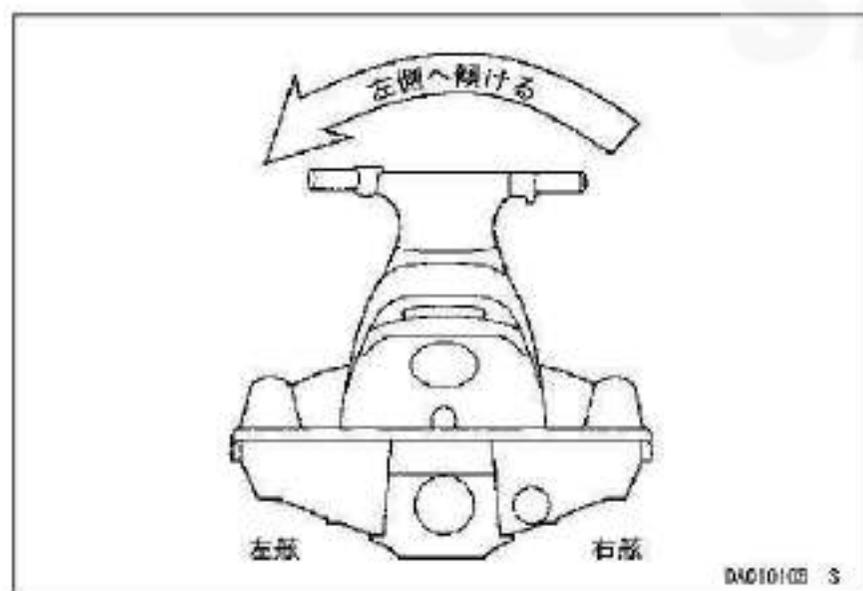
ウォータクラフト“ジェットスキー”を適切に手入れしてください。この取扱説明書には、ウォータクラフトを保護するために守るべき注意事項が記載されています。それらのいくつかを以下に列挙します。

操縦する前に、必ずこの取扱説明書を読んで内容を十分に理解してください。

ウォータクラフトは必ず左側に傾けてください。右側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。

万一ウォータクラフトが転覆したときは、「操縦方法」の章の「ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方」の節の「転覆したウォータクラフトの起こし方」の項に記載されている手順で船体を起こしてください。

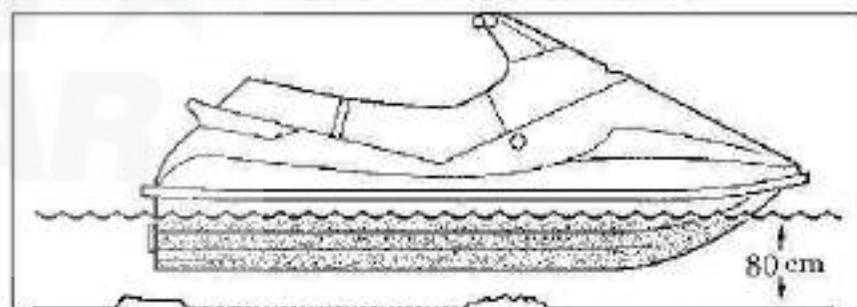
エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。



ウォータクラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行ってください。

浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないでください。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

ウォータクラフトを岸に乗り上げないでください。インペラや船体がひどく損傷することがあります。



個人用ウォータクラフト“ジェットスキー”は長期間水中に置いておくようにはなっていません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属の電解腐食を招きます。塗装の損傷と電解腐食を防ぐために、ウォータクラフト“ジェットスキー”を使用したらその日のうちに水中から引き揚げてください。翌日まで水中に放置しないでください。ウォータクラフト“ジェットスキー”は使用

する毎に水中から引き揚げるようにすると、より寿命が長くなり、よりきれいな外観を保てます。

ジェットポンプベアリングとシールは定期的に整備してください。整備が不十分な場合、ジェットポンプベアリングが破損し、エンジンの重大な損傷の原因となります。ジェットポンプベアリングとシールは、初回は25時間航走時または1年のどちらか早い方、以後は50時間航走毎または1年毎のどちらか早い方に「ジェットスキーARK」で定期点検を受けてください。また、長期間保管する前に、ジェットポンプベアリングの整備を実施し、ジェットポンプ内に残った水を抜いてください。水がポンプ内に残っていると、ジェットポンプベアリングが腐食したり、早期破損の原因になります。

JET★
STAR

早見表

一般事項

操縦方法

保管

整備と調整

トラブルシューティング

船舶検査

航行区域

環境保護

お客様の相談窓口

JET
STAR



カワサキは人と地球にやさしい環境作りをめざしています。

ウォータクラフトには定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、バッテリー、ホース類等）があります。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

JETSKI は川崎重工業株式会社の登録商標です。

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータクラフト“ジェットスキー”をご購入くださいましてありがとうございます。きょうからあなたのおよきパートナーとして、十分に活躍させてください。

この取扱説明書は、あなたのウォータクラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得してください。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、ウォータクラフト“ジェットスキー”の魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守ってください。

ウォータクラフト“ジェットスキー”に乗るときは本書を携帯し安全なマリンスライフをお楽しみください。

本書は大切に保管し、ウォータクラフト“ジェットスキー”を転売や譲渡等されるときは必ず添付してください。

別冊の整備手帳には保証書とともに定期点検整備表および点検整備記録簿が入っています。ウォータクラフト“ジェットスキー”の維持管理にご活用ください。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています

危険

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が大きいと想定される場合を示しています。

警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

- 作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

川崎重工業株式会社

株式会社カワサキモータースジャパン

目次

主要諸元	12	操縦者の役割	67
一般事項	14	見張りの役割	68
製造番号	14	トーイング用ロープをかける場所	69
各部の名称	15	乗る前の点検項目	70
ラベル位置	18	ならし運転	72
マルチファンクションメータ	25	エンジンの停止	72
燃料	39	エンジンの始動	74
エンジンオイル	41	発進	76
エンジンオイルレベルの計測	41	棧橋からの発進	76
操縦装置	43	ランプからの発進	76
イグニションスイッチ	48	水深の深い場所での発進	77
シートラッチ	52	水深の浅い場所での発進	77
備品入れ	53	停止	78
小物入れ	55	旋回	81
工具	56	後進	83
ビルジシステム	56	着岸	84
ドレンプラグ	57	ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方	84
リポーディングステップ	57	落水	85
操縦方法	59	転覆したウォータクラフトの起こし方	85
安全な操縦	59	浸水後の処置	86
経験の浅い運転者による操縦	59	航走終了後の手入れ	90
乗船者の水泳能力	59	第1：排気系統の水抜き	90
最大搭載人員	59	第2：エンジンルームの清掃	91
法定備品	59	第3：船体外部の清掃	91
安全運転規則	60	特殊な手入れ	92
ジェットポンプに関する注意	63	インペラの清掃	92
乗船者の安全装備	64	汚れたスパークプラグの清掃	93
ヘルメット着用の選択	65	ウォータクラフトのえい航	93
積載／アクセサリ／改造	66	ジャンプコードによる始動	93
トーイング（ウエイクボード／水上スキー等の定員1名のけん引物）	67	エンジンのオーバーヒート	95

運搬	96	燃料ポンプスクリーン	114
保管	97	燃料ホース	114
保管する前の作業	97	エンジンオイル系統	115
冷却系統	97	バルブクリアランス	119
ビルジ系統	98	スパークプラグ	120
燃料系統とエンジン	99	バッテリー	122
バッテリー	101	潤滑	132
エンジン取り付けブラケット用ボルト	102	冷却系統の洗浄	134
ジェットポンプベアリング/シール	102	ビルジ系統の洗浄	136
洗浄	102	ジェットポンプベアリング/シール	137
潤滑	102	ヒューズ	138
保管後再使用する前の作業	103	トラブルシューティング	139
整備と調整	105	船舶検査	144
定期点検整備表	105	船舶検査	144
コントロールケーブル	108	船舶検査証書など合格証書類	144
スロットルケーブルの調整	108	航行区域	145
ステアリングケーブルの調整	108	航行区域	145
ステアリングケーブルの点検	110	海岸あるいは陸岸で使用する場合	145
シフトケーブルの調整	110	母船に乗せて使用する場合	146
シフトケーブルの点検	113	環境保護	147
燃料系統	114	環境保護	147
スロットルの調整	114	お客様の相談窓口	148
燃料ベントチェックバルブ	114		

主要諸元

ウォータクラフト “ジェットスキー” JT1500K

エンジン		
型式		4ストローク、4気筒、DOHC、4バルブ、水冷
排気量		1 498 cm ³
内径×行程		83 × 69.2 mm
圧縮比		10.6 : 1
点火方式		デジタルトランジスタ
潤滑方式		セミドライサンプ
燃料方式		デジタル・フューエル・インジェクション
始動方式		スタータモータ
スパークプラグ		NGK CR9EK
ギャップ		0.7 ~ 0.8 mm
端子形状		ねじ型端子
点火時期		上死点后3°@1 300 rpm ~ 上死点前32°@3 000 rpm
アイドリング回転速度		1 300 ± 100 rpm …… 水上 1 300 ± 100 rpm …… 陸上
動力伝達機構		
カプリング		エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ	: 型式	軸流、単段
	: 推力	4 130 N (421.3 kgf)
ステアリング		ステアリングノズル
ブレーキ		水の抵抗力

※性能	
連続最高出力	112 kW (152 ps)/7 500 rpm
連続最大トルク	144 N·m (14.7 kgf·m)/7 250 rpm
最小旋回半径	4.0 m
燃料消費量	45 L/h(フルスロットル運転時)
航続距離	133 km(3名乗船・フルスロットル運転時)
航続時間	1時間38分
寸法・重量	
全長	3 370 mm
全幅	1 195 mm
全高	1 150 mm
整備質量	423 kg
最大喫水	353 mm
燃料タンク容量	78 L
エンジンオイル	
タイプ	API SG、SH、SJ、SLまたはSM(JASO MA、MA1またはMA2) SAE10W-40
オイル容量	5.0 L
電装品	
バッテリー	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

一般事項

製造番号

- 船体およびエンジン番号は、あなたのウォータクラフトを表す番号です。この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。下のそれぞれの空欄に記録してください。



A. 船体番号

船体番号	
------	--

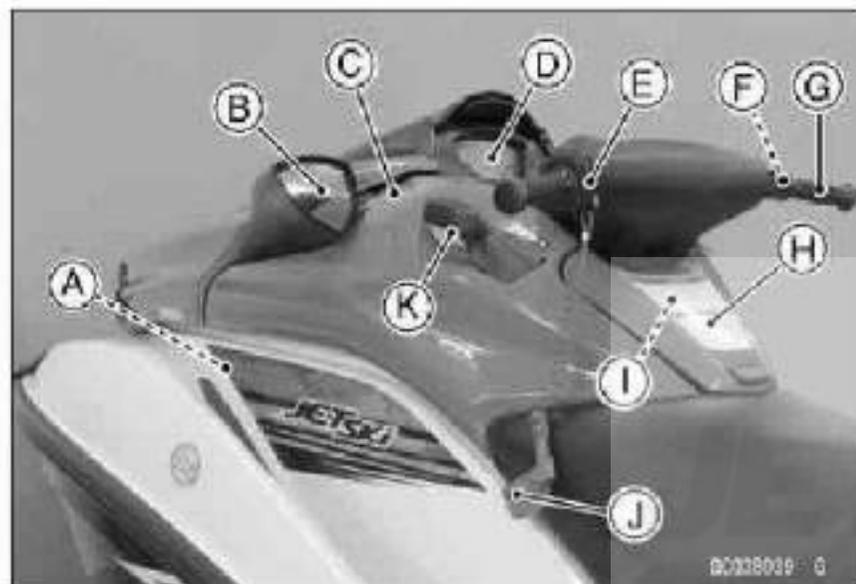


A. エンジン番号

エンジン番号	
--------	--

エンジン上面のラベルはエンジン番号を確認できます。

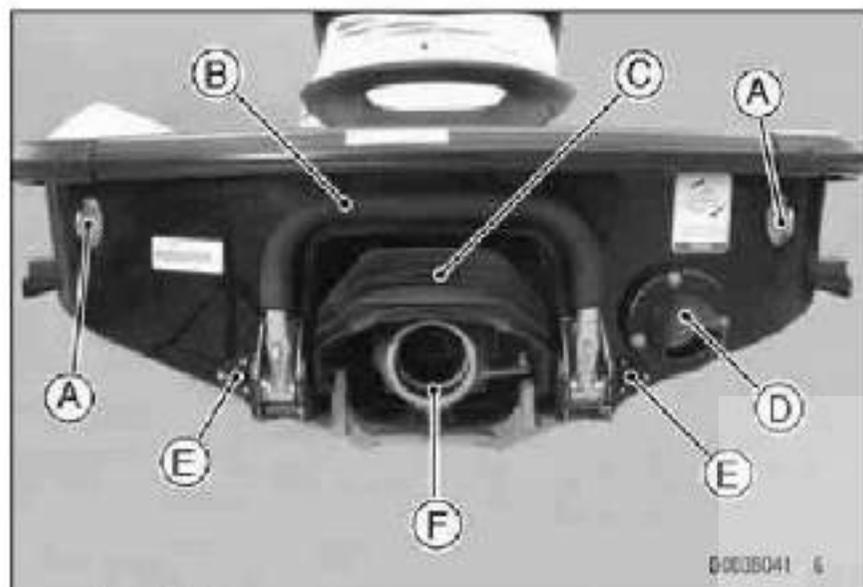
各部の名称



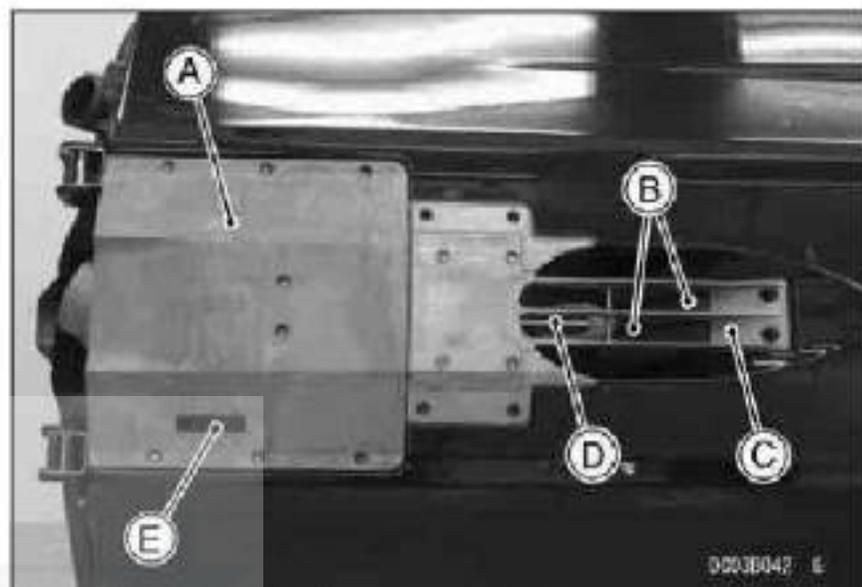
- A. バッテリ
- B. バックミラー
- C. 備品入れ
- D. マルチファンクションメータ
- E. エンジンスタート、ストップボタン
- F. スロットルレバー
- G. ハンドルパー
- H. 小物入れ (前部)
- I. イグニションスイッチ
- J. エンジンストップコード (緊急エンジン停止用のコード)
- K. シフトレバー



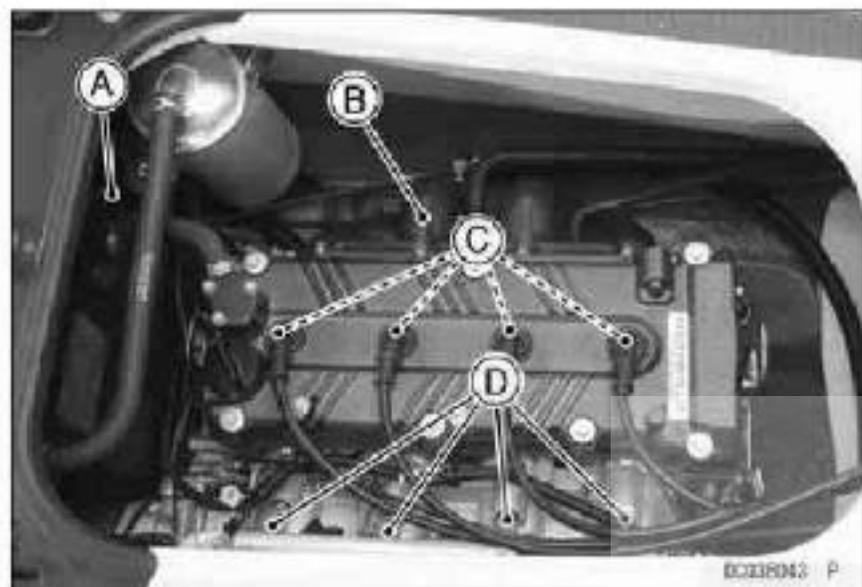
- A. ハンドレール
- B. スキーヤー等トーイング用フック
- C. シートラッチ
- D. 後部シート
- E. 前部シート
- F. 冷却水接続口 (ハッチ内部)
- G. パイパス出口
- H. エンジン室
- I. シートバンド



- A. えい航用フック
- B. リボーディングステップ
- C. リバースパケット
- D. 排気口
- E. ドレンプラグ
- F. ステアリングノズル (ジェットノズル)



- A. ジェットポンプカバー
- B. 吸水口
- C. 格子
- D. ドライブシャフト
- E. スピードメータ用水車



- A. エアボックス
- B. エグゾーストパイプ
- C. スパークプラグ
- D. フューエルインジェクション

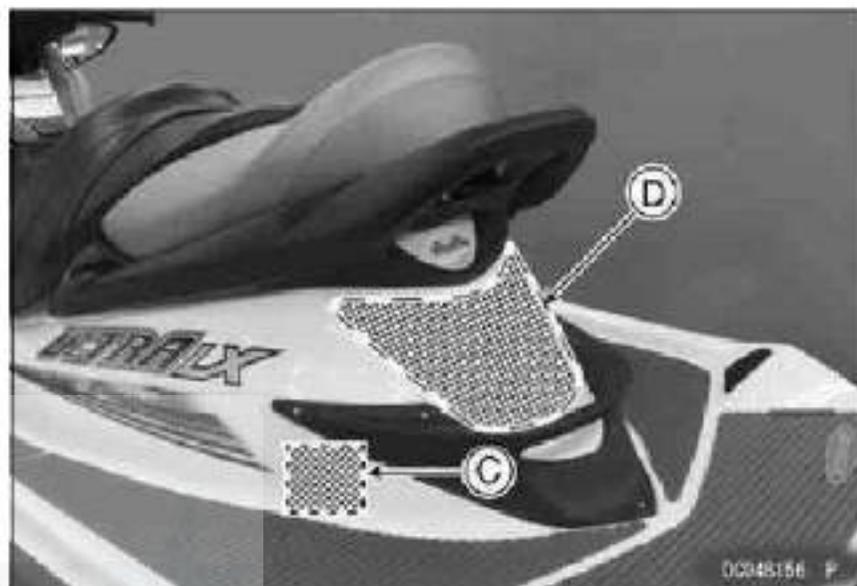
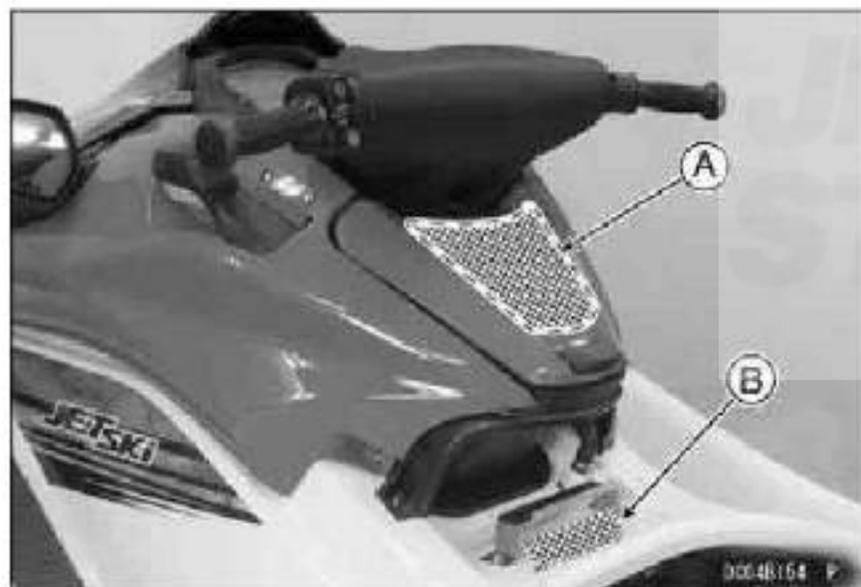
JET STAR

ラベル位置

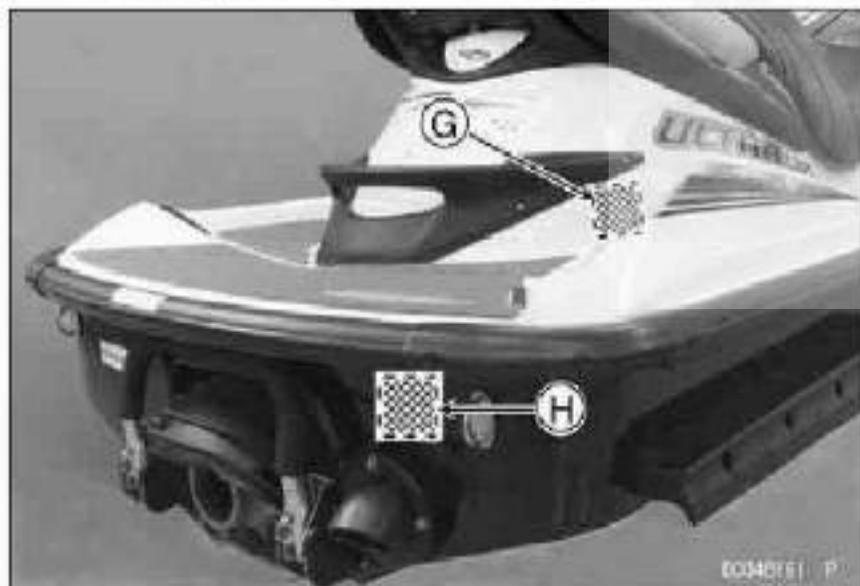
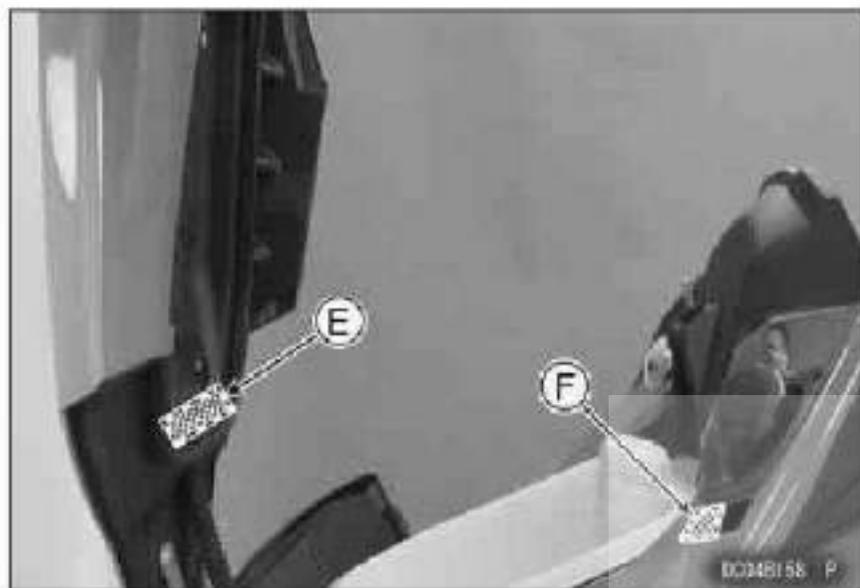
船体・エンジン各部には安全に関する各種ラベルが取り付けられています。これらラベルは常に良好な状態にしておき、もし破損した場合はジェットスキーARKから新しいのを入手して、指定の位置に取りつけてください。

要点

- 各ラベルにはパーツ番号が付いています。注文される時はその番号をご指示ください。



- A. ガソリン・オイル・バッテリー・ならし運転・オーバーヒートとイグニションスイッチの注意およびエンジンルームとリボディングステップの警告
- B. 証明ラベル
- C. ハンドレールとえい航用フックの注意およびリボディングステップと積載の警告
- D. リバースポケットと船の回転方向の注意および安全装備・操縦とジェットポンプの警告



- E. ダンパの警告
- F. 燃料注入の警告
- G. 最大搭乗人員
- H. 転覆時の反転要領
- I. バッテリーの警告



56071-0353

(B)

MFD. BY KAWASAKI MOTORS MFG. CORP., U. S. A.

06055258N4 G

(C)

注意

- シート後端のグリップを使って、何かをけん引したり、この船を持ち上げたり、また固定用ベルトをかけたりしないで下さい。
- 水上スキーを引っ張るときは、シート後端のグリップ下にある専用フックを使って下さい。
- 他の船をけん引するとき、及びウォータークラフトをロープでトレーラーに固定するときには、船尾のフックを使って下さい。

 警告

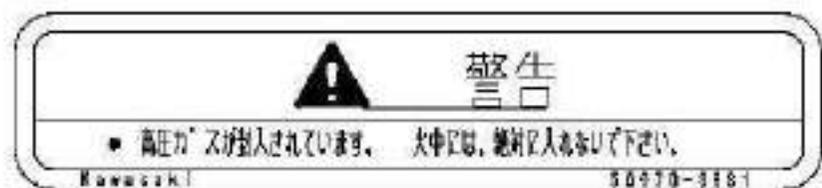
- エンジン回転中は、リボーディングステップを使わないで下さい。
- 後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずす恐れがあり、そのためけがをすることがあります。乗船の妨げにならないように、荷物を積んで下さい。

58071-0143

58071-0240

JET
STAR

(E)

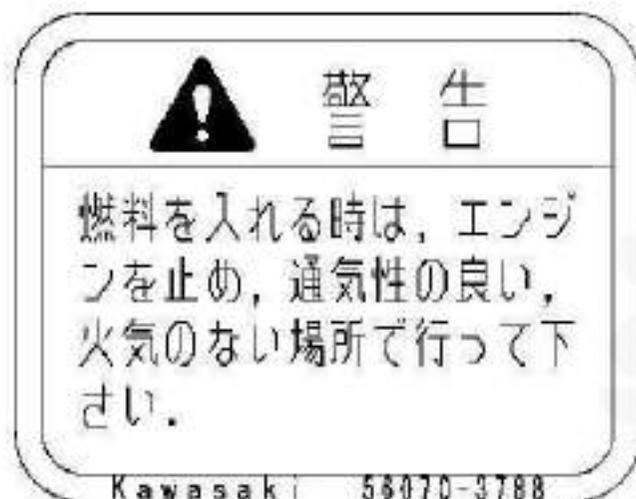


Kawasaki

56070-3781

000090891 0

(F)



Kawasaki 56070-3788

56070-3788

000090891 0

(G)



Kawasaki

56071-0201

000091892 0

(H)



56071-0241

00004129 5

24 一般事項

(1)

バッテリーの取扱いにご注意! ST-YTN9R

この12Vバッテリーは液面点検及び補水不要な制御弁式(シールタイプ)です。
●充電時等いかなる場合においてもふたや密封せんを絶対に外さないこと。
●この電池は制御弁式/バッテリー統廃棄車以外には使用しないこと。

危険						
	火気禁止 メガネ着用 こども禁止 喫煙注意 扇風機禁止 煙草禁止					

●水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
●このバッテリーを二輪自動車やエンジン仕動機以外の用途には使用しない
●工具等でショートやスパークをさせない ●充電は風通しのよい所で行う
●バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり
液がつかしたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける

▲ DANGER KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY.
ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.

56070-3960

00055708 5

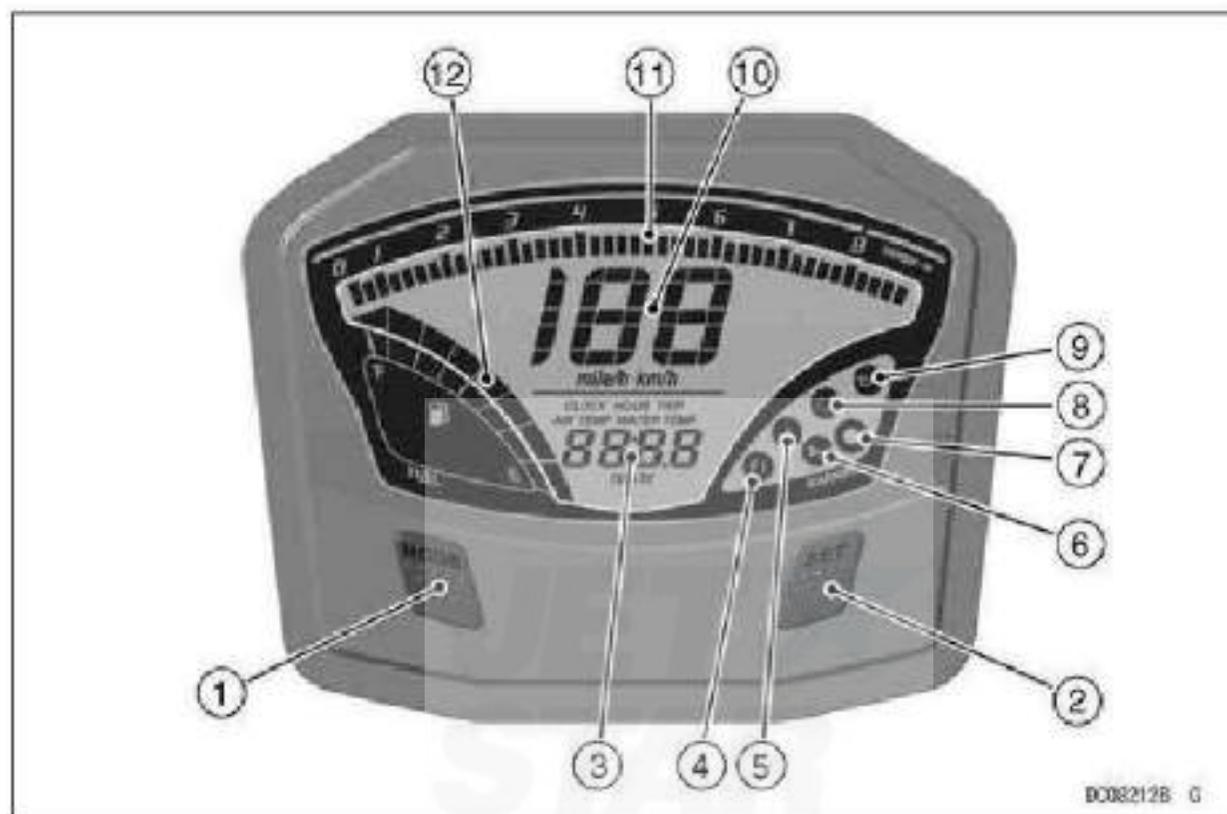
JET★
STAR

マルチファンクションメータ

ステアリングハンドルバーの前方に、マルチファンクションメータがあります。イグニションスイッチを“ON”にすると、メータ上のすべての標示が点灯します。そして赤色警告灯が点灯し、警告ブザーも二回吹鳴します。この初期作動のあとメータは通常の表示をします

要点

- メータの表示は、エンジnstoppコード(緊急エンジン停止用のコード)キーやストップボタンでエンジンを止めると3分後に消えます。
- 赤色警告灯が点滅すると警告ブザーも鳴ります。このブザーを止めるには“SET”ボタンか“MODE”ボタンを押してください。
- “MODE”ボタン操作によるメータの切換えは下記の場合に可能です。
 - (1) エンジンの回転速度が3 000以下。
 - (2) 文字警告表示が点滅していない。
- 文字警告表示の点滅を止めるには“SET”または“MODE”ボタンを1秒間以上押してください。
- これで“MODE”ボタンによるメータの通常の切換え操作が出来ます。



1. “MODE” (モード) ボタン
2. “SET” (セット) ボタン
3. 多機能デジタルメーターディスプレイ
時計
航走時間/航走距離/積算航走時間
タコメータ (数値)
最高速度記録と最高エンジン回転数記録
水温度計
外気温度計

4. FIインジケータ
5. 冷却水温シンボル
6. イモビライザインジケータ
7. 赤色警告灯
8. バッテリーインジケータ
9. エンジン油圧インジケータ
10. スピードメータ
11. タコメータ
12. 燃料計

スピードメータ

スピードメータはウォータクラフトの時速を示します。急旋回をしている間は、実際の速度より10ないし20 km/h低い速度を示します。



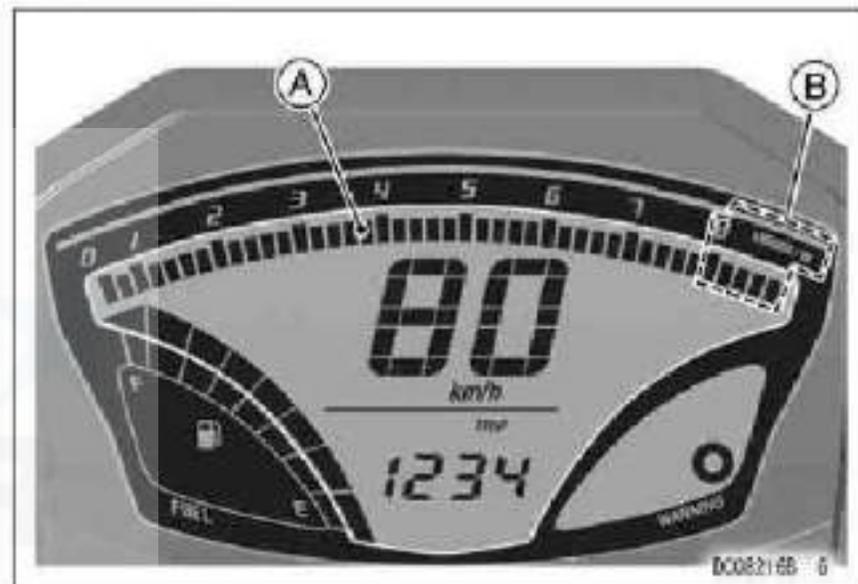
A. スピードメータ

要点

- スピードメータの表示をKm/hおよびmphのいずれかに変更することができます。詳しくは積算航走時間メータ(HOUR)の項目を参照ください。

タコメータ

タコメータは毎分当りのエンジン回転速度 (rpm) を示します。タコメータにはエンジンの過回転を示すレッドゾーンがあります。エンジン回転速度がレッドゾーンに入らないように運転してください。



A. タコメータ
B. レッドゾーン

注意

レッドゾーンは、エンジンの許容回転速度を越える領域を示したもので、レッドゾーンに入るような運転あるいはレッドゾーン内での運転は、エンジン故障の原因となりますので、そのような運転をしないようにお願いします。

28 一般事項

多機能デジタルメータディスプレイ

スピードメータ下部のディスプレイに、時刻、航走時間、航走距離、積算航走時間、タコメータ(数値)、最高速度記録、最高エンジン回転数記録、水温度計および外気温度計のモードがこの順に表示されます。“MODE”ボタンを押すことにより表示が移り変わります。“MODE”ボタンを2秒以上押し続けると、これらのモードが連続的に移り変わります。

時計

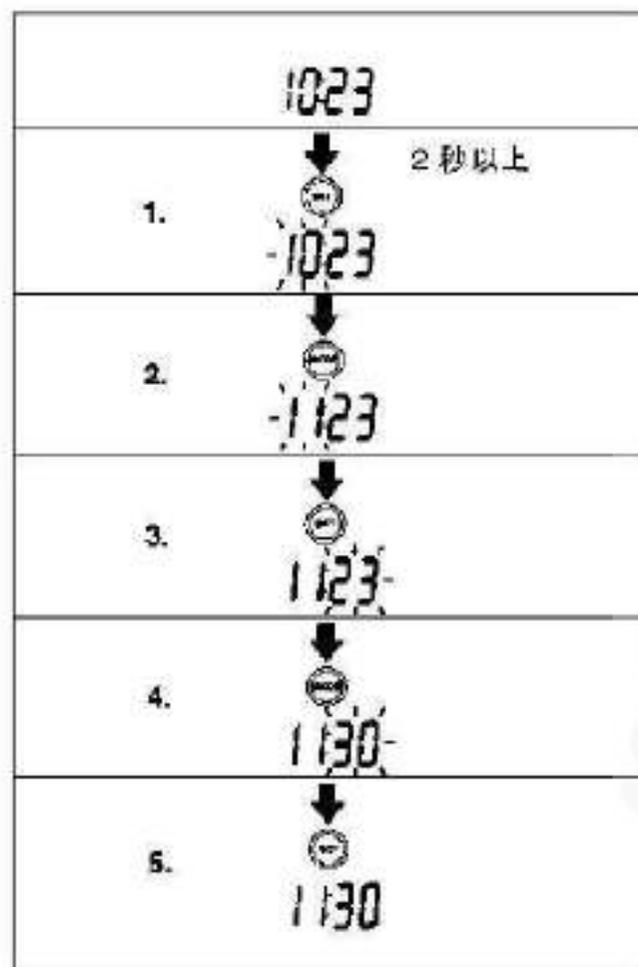


次のように時間を合わせます。

1. “SET” ボタンを2秒以上押す。時間表示が点滅を始める。
2. “MODE” ボタンを押して、時間表示を進める。
3. “SET” ボタンを押す。時間表示の点滅が止まり、分表示が点滅を始める。
4. “MODE” ボタンを押して、分表示を進める。
5. “SET” ボタンを押す。分表示の点滅が止まり、時計が動き出す。

要点

- “MODE” ボタンを瞬間的に押すと時間表示または分表示が一つづつ進み、押し続けると連続的に進みます。
- イグニションスイッチが“OFF”の間は、時計はバックアップ電力により正常に動きます。
- バッテリからケーブルをはずすと、時刻表示は12:00にセットされ、次に接続されたときから動き始めます。



航走時間メータ(TIME)

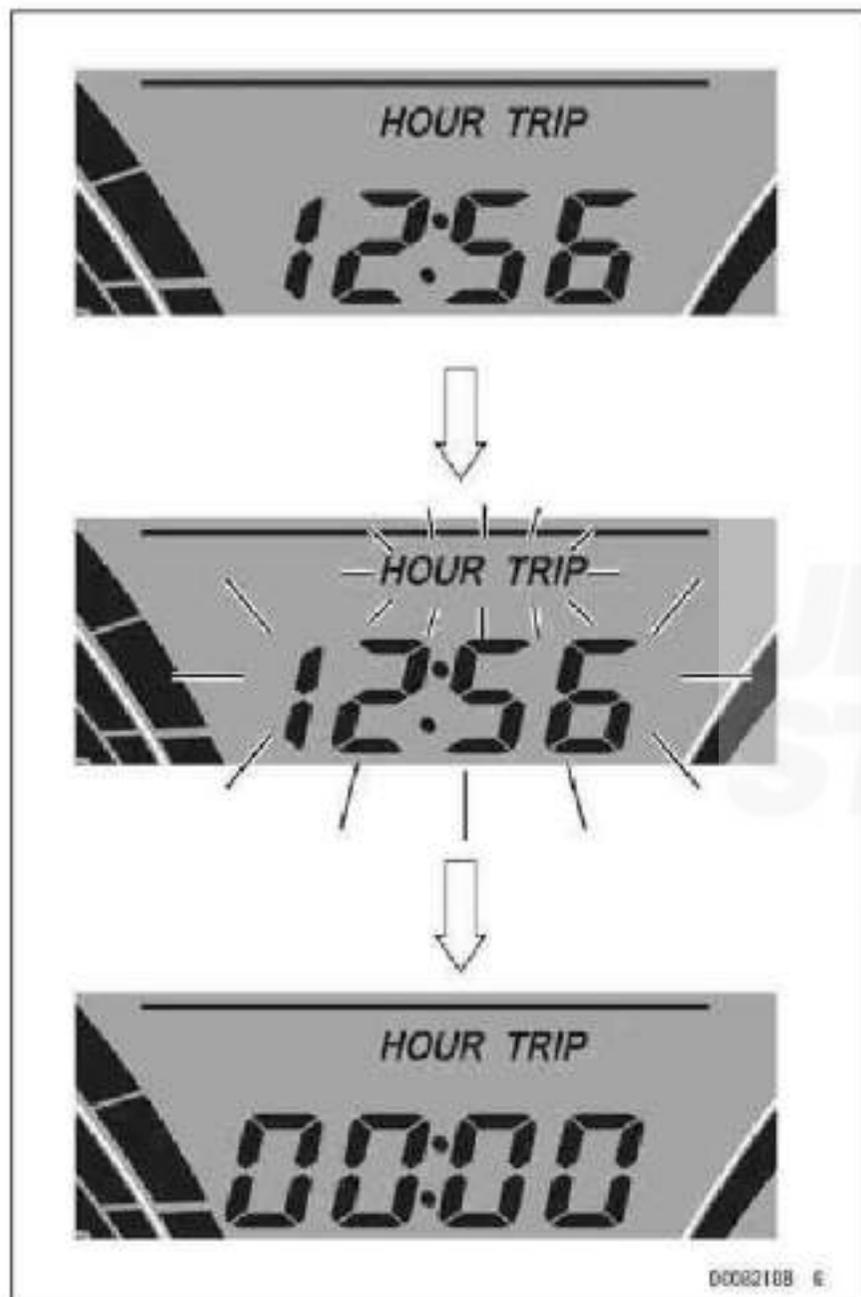
航走時間メータは、表示をゼロにリセットしてから経過した時間を示します。

次のようにリセットします。

1. “SET” ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、時・分表示が00:00に戻る。エンジンが回転中ならすぐに動き始める。イグニションスイッチを“OFF”にしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻る）までカウントを続ける。

要点

- たとえイグニションスイッチをOFFにしても、表示データはバックアップ電力によって保存され、次回ウォータクラフトを使用したときに再びそこから動き始めます。
- エンジンが回転中に表示が99:59になると、いったん00:00に戻ります。そして、再び先へカウントを進め始めます。
- バッテリーからケーブルをはずすと、表示は00:00にリセットされます。



航走距離メータ(TRIP)

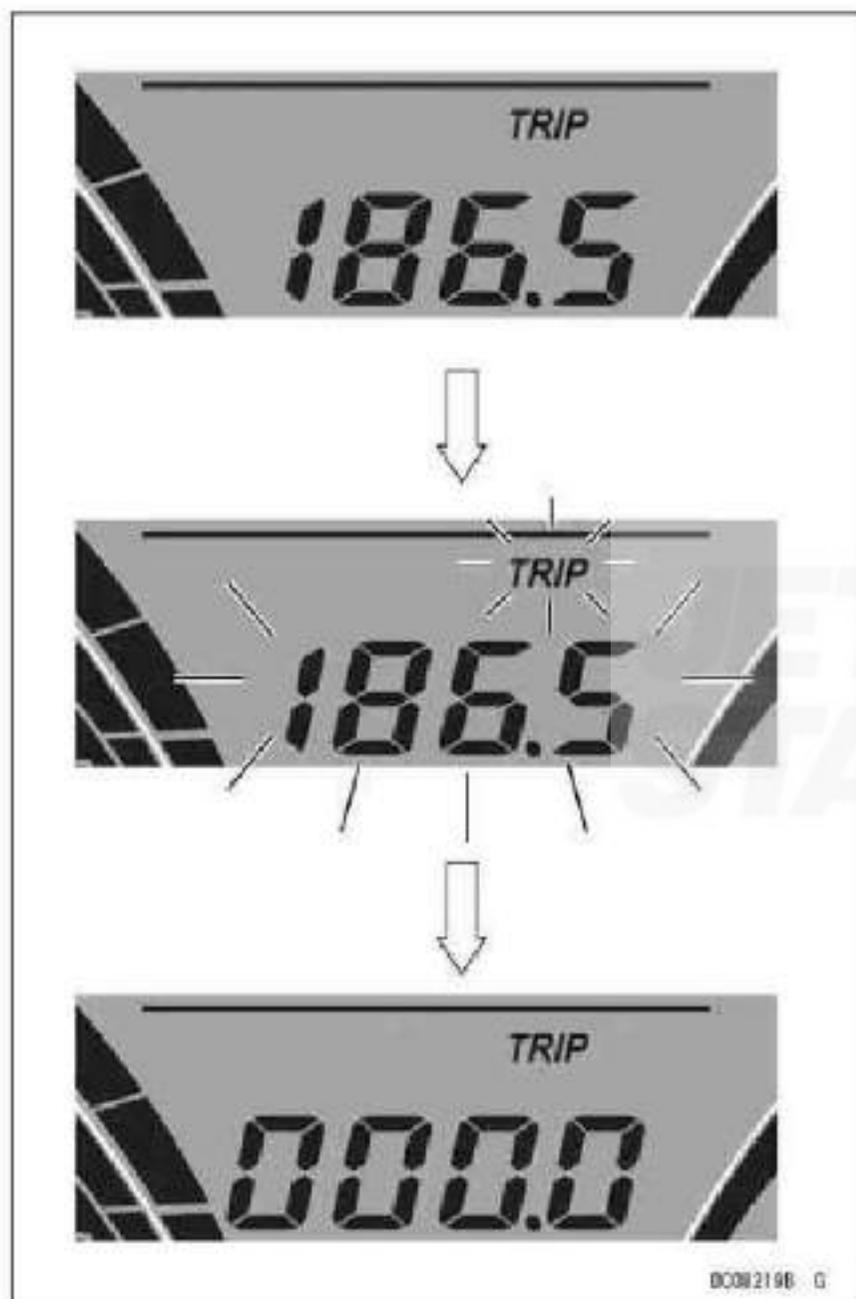
航走距離メータは、表示をゼロにリセットしてから航走した距離を示します。

次のようにリセットします。

1. “SET” ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後表示の点滅が止まり、距離表示が000.0に戻る。航走中ならすぐにカウントを始める。イグニションスイッチを“OFF”にしない限り、メータは次にリセットする（ゼロに戻す）までカウントを続ける。

要点

- たとえイグニションスイッチを“OFF”にしても、データはバックアップ電力によって保存されます。
- ウォータクラフトの停止中に航走距離メータをリセットしたときは、再び航走し始めたらすぐにカウントを始めます。
- 航走中に表示が999.9になると、いったん000.0に戻り再びカウントを始めます。
- バッテリからケーブルをはずすと、表示は000.0にリセットされます。



積算航走時間メータ(HOUR)

積算航走時間メータは、ウォータクラフトが今までに航走した全時間を示します。このメータはリセットする（ゼロに戻す）ことはできません。

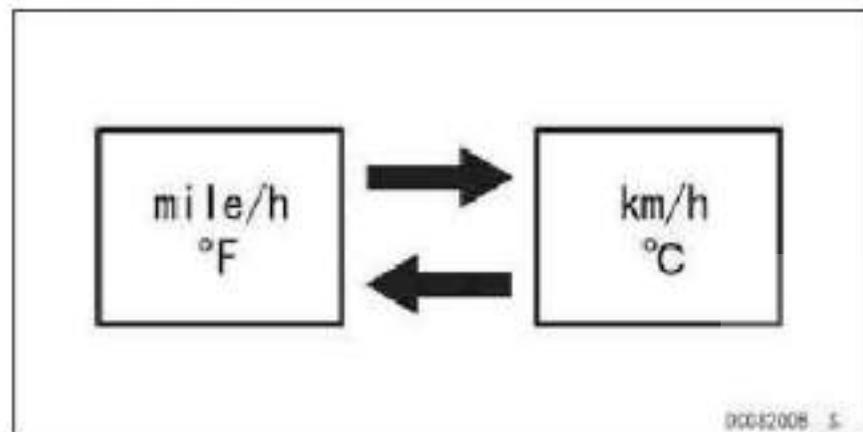


要点

- たとえバッテリーからケーブルが外されても、データは保存されます。
- ウォータクラフトが航走中に表示が9999になると、いったん0000に戻り再びカウントを始めます。

32 一般事項

このメータの表示状態で“SET”ボタンを3秒以上押すことで、次の通りの表示に切り替えることができます。



タコメータ(数値)

タコメータは毎分あたりのエンジンの回転速度 (rpm) を示します。



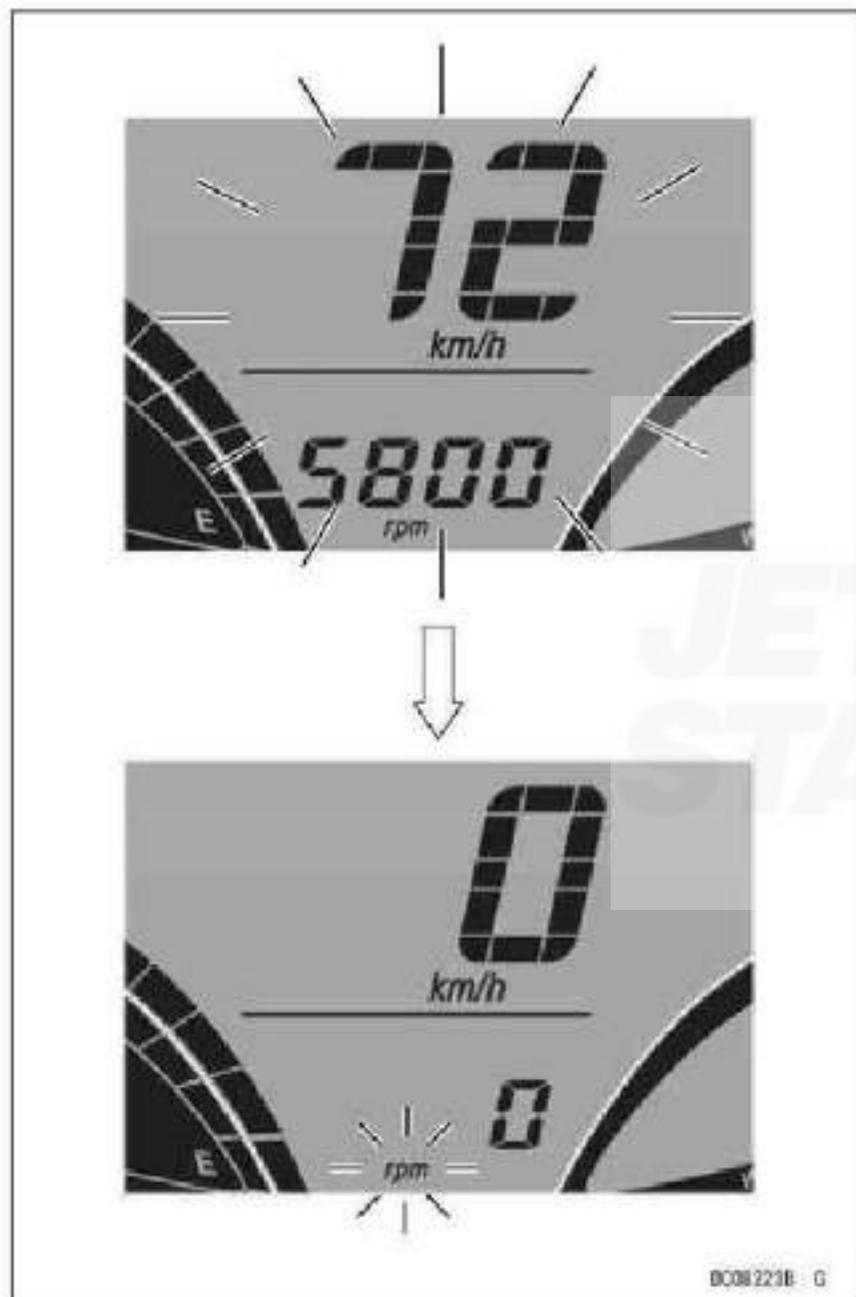
最高速度及びエンジン回転数

前回に表示をゼロにリセットして以来に記録された最高速度とその時のエンジン回転数を表示します。“rpm”表示はこのモードで点滅します。



次のようにリセットします。

1. “SET” ボタンを押し続ける。このモードのすべての表示が点滅を始める。
2. 2秒後、表示の点滅が止まり表示された数字が0に戻る



水温度計

水温度計は周囲の水温度を示しています。水温度表示は5秒毎に更新されます。



外気温度計

外気温度計は周囲の外気温度を示しています。外気温度表示は5秒毎に更新されます。



燃料レベル計／“FUEL”文字／赤色警告灯

燃料タンクの燃料は、表示されるセグメントの数によって示されます。燃料が満タンのときは、全てのセグメントが表示されます。燃料が減るに従ってセグメントは上から順に消えて行き、タンク内の残量を示します。一番下（Eマーク）のセグメントだけになると、そのセグメントが点滅しはじめます。また、警告ブザーが鳴り赤色警告灯が点灯しスピードメータの下の“FUEL”文字が点滅して、操縦者に警告します。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。点滅が始まったときの残りの燃料は28 Lです。スロットルの作動は半分にしてできるだけ早く給油してください。このウォータクラフトには予備タンクがありません。（「燃料」と「操縦装置」の項参照。）



オイル圧力シンボル／“OILP”文字／赤色警告灯

エンジンオイルの量が減り、オイル圧力が低下するとブザーが鳴り赤色警告灯が点灯します。、オイル圧力シンボル、“OILP”文字が点滅し、操縦者に警告します。同時にエンジンの回転速度を自動的に3 000 rpm以下に制御しますので、直に岸に戻り、できるだけ早くオイルを補充してください。（「エンジンオイル」の項参照。）警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。

要点

- ウォータクラフトが転覆して復旧した場合、イグニションスイッチがONになっていると警告灯が点滅したままになります。



水温シンボル／“HEAt”文字／赤色警告灯

冷却水の温度が高くなり過ぎると警告ブザーが鳴り、赤色警告灯が点灯します。さらに、水温シンボル及びスピードメータの下の“HEAt”文字が点滅します。同時にエンジンの回転速度を自動的に3 000 rpm以下に制御しますので、直ちに岸に戻り、冷却系統が詰まっていないか点検してください。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。（「操縦方法」の章の「特殊な手入れ」の項参照。）

注意

エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを操縦しないでください。



バッテリーシンボル／“bAt”文字／赤色警告灯

バッテリー電圧が11.5 V以下になると、警告ブザーが鳴り赤色警告灯が点灯します。さらに、バッテリーシンボルと共にスピードメータの下の“bAt”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。直ちに岸に戻り、バッテリーの補充電を行ってください。警告ブザーは、メータのどれかのボタンを1秒以上押すと停止します。



油圧センサー異常警告／“OILt”文字／赤色警告灯

エンジンの油圧センサーが作動不良を起こすと警告ブザーが鳴り、赤色警告灯が点灯します。さらに、エンジン油圧シンボル、および“OILt”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。

同時にエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpm以下に制御されますので、直ちに岸へ戻り、「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。

ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。



油温オーバーヒート警告／“OILH”文字／赤色警告灯

エンジンオイルの温度が高くなりすぎると警告ブザーが鳴り、赤色警告灯が点灯します。さらに、エンジンオイル圧力シンボル、および“OILH”文字が点滅、します。

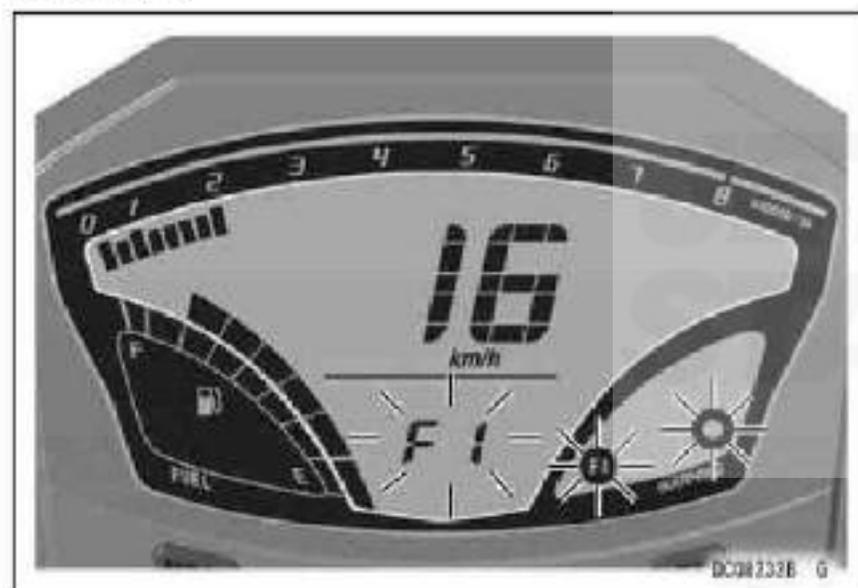
同時にエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpm以下に制御されますので、直ちに岸に帰り冷却水系統のつまり、およびエンジンオイルの量を確認してください。上記以外の原因の場合は「ジェットスキーARK」で点検を受けてください。（「トラブルシューティング」の項の「エンジンの回転速度が3 000 rpm以上に上がらないとき」の項参照。）

警告ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと停止します。



FIシンボル／“FI”文字／赤色警告灯

燃料噴射関連の部分の機能が損なわれると警告ブザーが鳴り、赤色警告灯が点灯します。さらに、“FI”シンボル、および“FI”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。直ちに岸へ戻り、「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。ブザーはメータのどれかのボタンを押すと作動を停止します。故障の原因によっては自動的にエンジンの最高回転を3 000 rpmに制限します。



イモビライザアンブ異常警告／“Innb”文字／赤色警告灯

イモビライザ装置のアンブが作動不良を起こすと警告ブザーが鳴り、赤色警告灯、イモビライザシンボル、および“Innb”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。



38 一般事項

イモビライザキー照合警告／“19n1”文字／赤色警告灯

登録された以外のキーが使われた場合は警告ブザーが鳴り、赤色警告灯、イモビライザシンボル、および“19n1”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。



通信異常警告／“Err”文字／赤色警告灯

メータと電子制御ユニット (ECU) との間の通信に異常がある場合は警告ブザーが鳴り、赤色警告灯が点灯します。さらに“FI”シンボル及び“Err”文字が点滅して、警告ブザーが鳴り、操縦者に警告します。「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。ブザーはSETまたはMODEのボタンを1秒以上押すと作動を停止します。



燃料

- 無鉛レギュラーガソリンを使用してください。

注意

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを使用してください。燃料を補給するときは、必ず無鉛レギュラーガソリンであることを確認してから行ってください。
- 高濃度アルコール燃料を使用しないでください。高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。
- 粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

燃料の注入

警告

燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。エンジストップコード(緊急エンジン停止用のコード)キーをストップボタンから抜き、換気が良く、火気がない場所で作業してください。作業場では禁煙し、パイロットランプ付きの電気製品も用いないでください。

- 燃料タンクはエンジンルーム前部にあり、燃料注入口は船首備品入れのふたの下にあります。
- エンジンを停止状態にします。

- 艇を水平に保ちます。

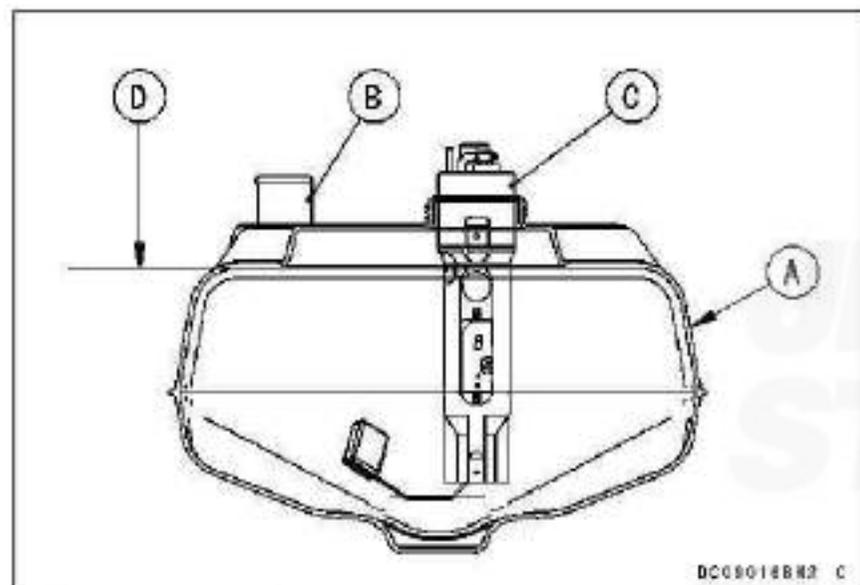


A. 燃料注入口キャップ

- キャップを開き、燃料を注入してください。注入するときは、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。
- 座席シートを取外し燃料タンクの液面上昇を確認します。
- マルチファンクションメータの燃料レベル計でも確認します。
- こぼれた場合はただちに布でふき取ってください。
- 水上での給油や条例等で禁止されている砂浜での給油はしないでください。
- タバコを吸いながら給油しないでください。

警告

燃料を燃料油レベル上限以上に注入しないでください。温度の上昇したタンク内では燃料が膨張し、ベントチューブから燃料が溢れ火災が発生する可能性があります。注入後はキャップを確実に閉めてください。



- A. 燃料タンク
- B. 燃料注入口
- C. 燃料ポンプ
- D. 燃料油レベル上限

注意

燃料に不純物が入るとエンジン不調、あるいはエンジン損傷の原因になることがあります。燃料に不純物が入らないよう、雨およびほこりの中での注油はしないでください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、シートを取り外して数分間換気してください。（「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。）

警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンを始動する前にシートを取り外して数分間換気してください。

要点

- シートを開けたときにガソリンのにおいがする場合、「ジェットスキーARK」で燃料系統の点検を受けてください。

エンジンオイル

エンジンには適量のエンジンオイルを保つことが不可欠です。「調整方法」の章の「エンジンオイル系統」に従ってエンジンオイルおよびオイルフィルタを交換してください。エンジンオイルにはごみ等が溜まる他、長時間使用によりオイル自体が劣化します。

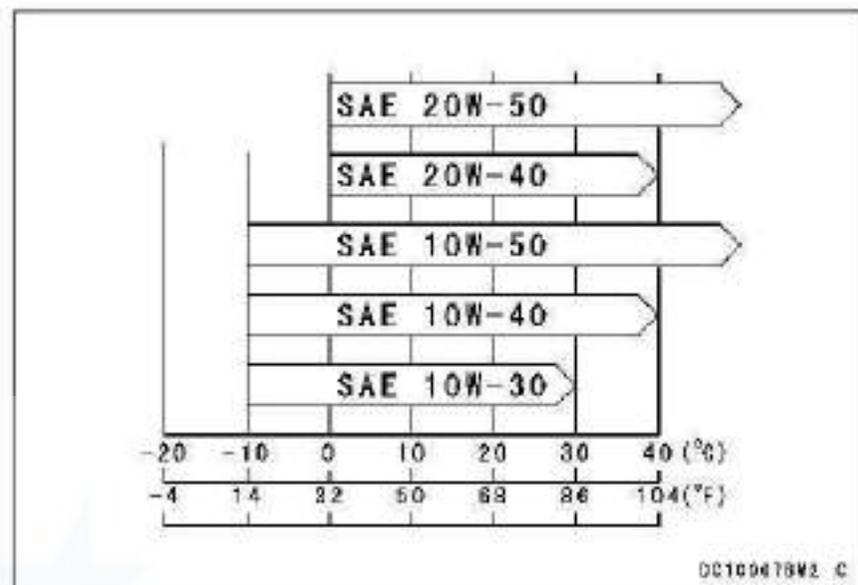
オイルの必要特性

タイプ:	API SG、SH、SJ、SLまたはSM(JASO MA、MA1またはMA2) SAE10W-40
必要量:	4.0 L(オイルのみ交換時) 4.2 L(オイルフィルタ交換時) 5.0 L(エンジンを完全に空にした時)

要点

- エンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

通常10W-40が推奨オイルですが、使用環境状況によってはオイル粘度を次の表により変える必要があります。



エンジンオイルレベルの計測

- 毎回使用前にはオイル油面を計測してください。不足している場合には補給してください。「操縦方法」の章の「乗る前の点検項目」を参照してください。
- オイルレベルを計測する時は必ずウォータクラフトを極力、前後・左右方向に水平にしてください。
- 計測ゲージを抜き取りきれいに拭いてから、ゲージパイプに挿入し、もう一度抜き取ってオイルレベルを点検する。
- 計測ゲージは取っ手部が船体の左側になるように、ゲージパイプに取り付ける。

要点

- 計測ゲージの挿入方向には指定がある。オイルレベルを確認する時、正しい方向に挿入しないとオイルレベルを正確に測ることができないおそれがある。

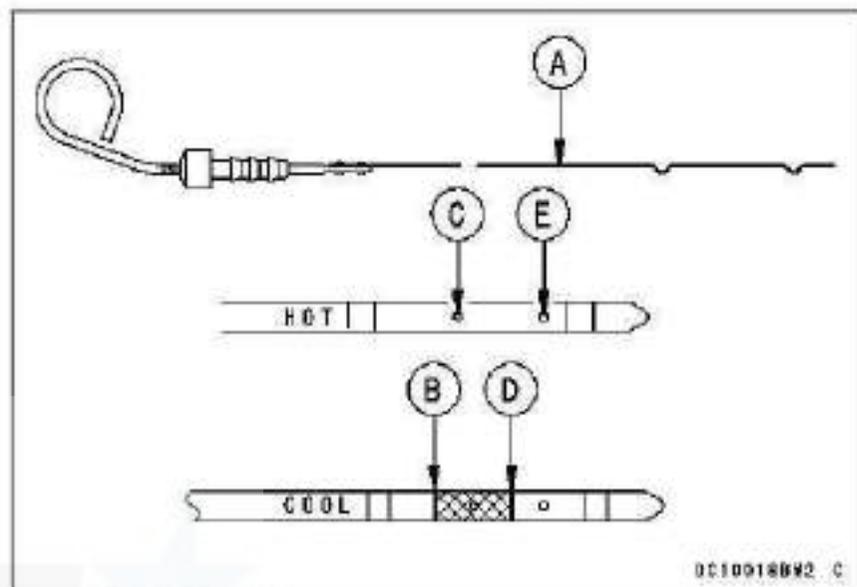


- A. 計測ゲージ
- B. ゲージパイプ
- C. 左側

- オイルレベルは“H”（ハイレベル）と“L”（ローレベル）の間でなければなりません。ゲージ表面の冷間時の計測用レベルマークを使用してください。

要点

- ゲージ表面には温間用・冷間用の2種のマークがあります。エンジンオイルが温まっているか否かで読み取るマークを選んでください。次のイラストを参照ください。



- A. 計測ゲージ
- B. 冷間時の“H”（ハイレベル）
- C. 温間時の“H”（ハイレベル）
- D. 冷間時の“L”（ローレベル）
- E. 温間時の“L”（ローレベル）

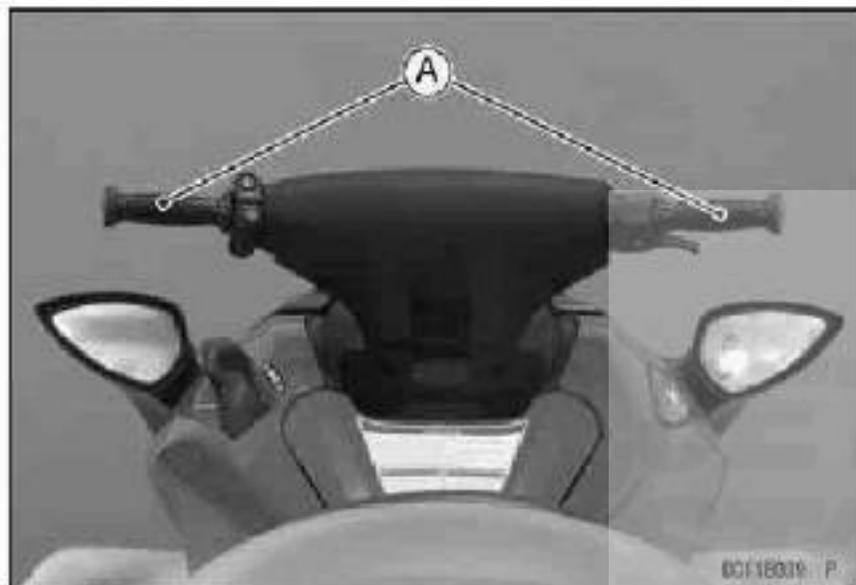
- オイルレベルが“L”（ローレベル）を下回っている時は“L”（ローライン）迄補給してください。補給するオイルは既にエンジンの中にあるものと同じタイプ・銘柄を使用してください。
- エンジンオイルの補給方法に関しては「整備と調整」の章の「エンジンオイル系統」を参照ください。

注意

エンジンの中にゴミ等が入ると、エンジンの寿命を縮める可能性があります。エンジンの中にゴミ等が入らないよう注意してください。

操縦装置

ステアリングハンドルバー

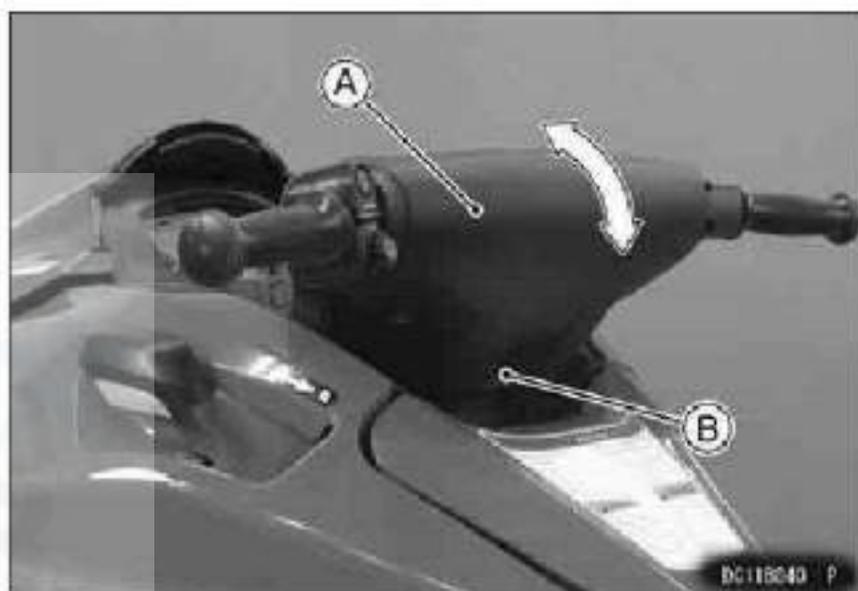


A. ハンドルバー

- ステアリングハンドルバーは自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いているときのみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータクラフトを旋回させる事ができます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータクラフト後部のステアリングノズル（ジェットノズル）とつながっています。

チルトレバー

ハンドルバーの角度を変えることができます。ハンドル下部のチルトレバーを押しながらお好みのハンドル角度に調整してください。5段階の調整が可能です。



A. ハンドルバー
B. チルトレバー

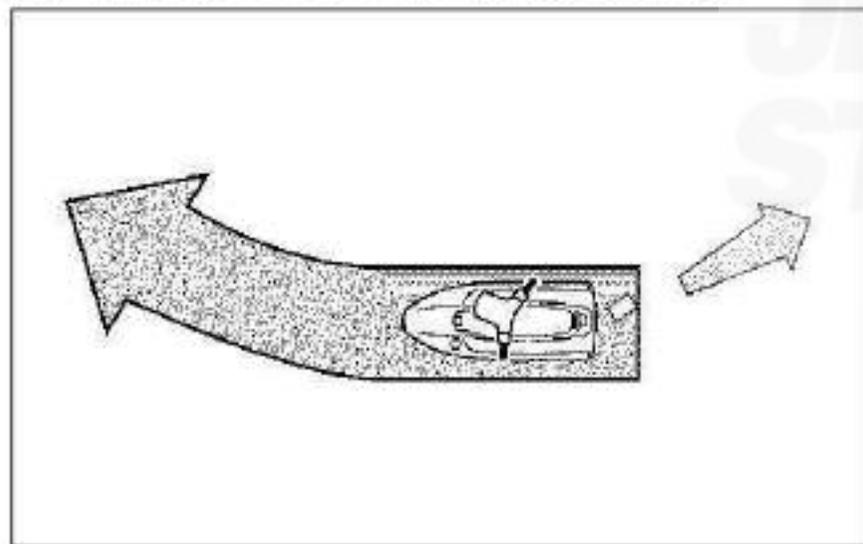
警告

ハンドル角度調整中はハンドル操作、およびスロットル操作が妨げられますので、航行中にハンドル角度を調整すると事故になる可能性があります。事故を避けるため、航行中はチルトレバーを操作してハンドル角度を調整しないでください。

カワサキスマートステアリングシステム

旋回するためには、ジェットノズルに推力が必要です。カワサキスマートステアリングシステムの働きにより、スロットルレバーを放したときでも、特定の条件下においてハンドルを切れば旋回します。これは、操縦者が旋回操作を学ぶことを手助けする補助的な舵とりシステムです。

カワサキスマートステアリングシステムは、ハンドル操作と船の速度を絶えず検知しています。スロットルを放していても、船の速度が速い場合、ハンドルを右または左に操作すれば、システムが働き、自動的にエンジン回転速度が高くなり、推力が増加します。エンジンを止めたり船の速度が遅い場合は、このシステムは働きません。



重要

緊急に旋回するには大きな推力が必要です。適度にスロットルを開けてジェットノズルに必要な推力を与えてください。

必要に応じてスロットルを開ければより速く旋回できますので、カワサキスマートステアリングシステムに頼らないでください。

カワサキスマートステアリングシステムは、以下の条件を全て満足したときに機能します。

- 一定時間の平均エンジン回転速度が3 000 rpm以上である
- スロットルレバーを完全に放している
- ハンドルを右か左に一杯切っている

スマートラーニングオペレーションモード(SLOモード)

このウォータクラフトには速度を約30%制御する機能、SLO (スマート・ラーニング・オペレーション) モードの機能がついています。

マルチファンクションメータにはこの機能はSLOと表示されます。また、この速度制限の無い通常モードである、FP0 (フル・パワー・オペレーション) モードはFP0と表されます。

SLOモードでもメーターの各種作動・警報機能およびKSS機能等は通常モード (FP0) と全く同じように作動します。

FP0モードからSLOモードへの切り替えおよびその逆は、エンジンを停止しイグニッションキーをFP0モードキーからSLOモードキーまたはその逆に差し替えて下さい。詳細は「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」および「イグニッションスイッチ」の項目をご覧ください。

初心者および経験の浅い運転者がウォータクラフトの操縦技能を安全に習得できるよう、ウォー

タクラフトの所有者および運転者はこのSLO機能について熟知してください。

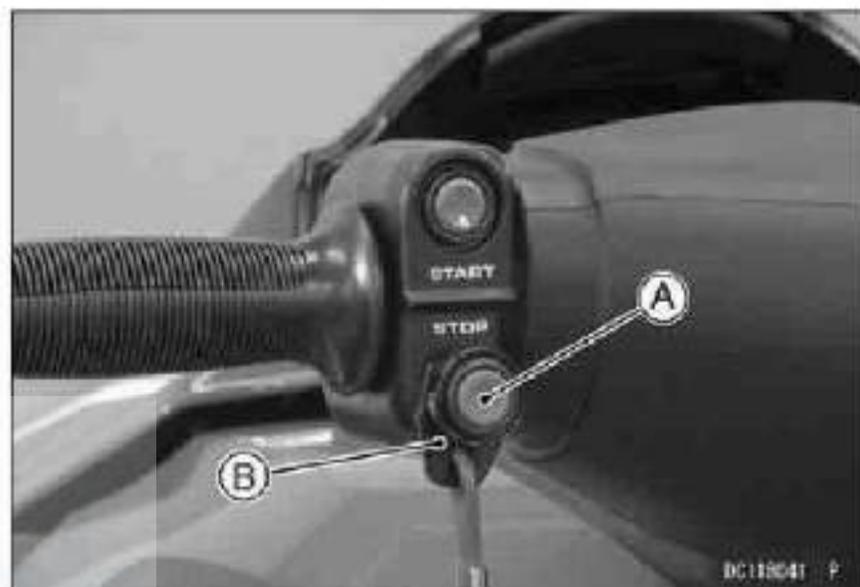
ハンドルカバーに関する重要な情報

ハンドルカバー/パッドの内側には燃料ベントホースが配置されています。これらカバー等の取り付けが不適切な場合、ベントホースがねじれたり挟まれたりしてホースが詰まることがあります。

その結果、燃料漏れを起こし、火災・爆発の原因になる可能性があります。

▲ 警告

ハンドルカバーおよびハンドルパッドの組付けが不適切な場合、燃料タンクのエアベントホースがねじれ・塞がれることにより、燃料漏れを起こし火災や爆発につながる可能性があります。ハンドルカバーを取り外したり、装着するときは「ジェットスキーARK」へご相談ください。



- A. エンジンストップボタン
- B. エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キー

エンジンストップボタン

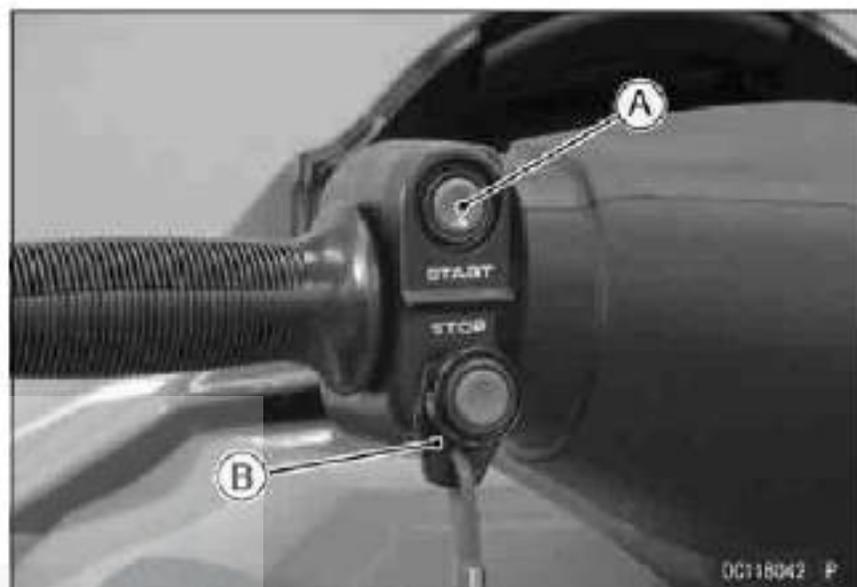
- ストップボタンはハンドルカバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。
- 下船後は子供や他の人が使えないように、エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）をウォータクラフトから外してください。

エンジンスタートボタン

- スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタータボタンは緑色で、“START”と下方に表示されています。エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キーをストップボタンの下に差し込み、イグニッションキーを差し込んで、スタータボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放してください。エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キーを差し込んでいないと、エンジンは回転も始動もしません。

注意

エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早めたり、スタータ故障の原因になります。



- A. エンジンスタータボタン
- B. エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キー

要点

- エンジンが始動するためには、イグニッションスイッチがキー穴に差し込み、エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照してください。

スロットルレバー

- スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常的位置に戻るか必ず点検してください。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参照ください。



A. スロットルレバー

シフトレバー

- このウォータクラフトは、スターン（船尾）のステアリングノズルについてのバケットの作用で後進ができます。前進、後進切換えのシフトレバーは、ステアリングハンドルバーの左下側にあります。シフトレバーは“F”（前進）と“R”（後進）の二段階になっています。
- 前進から後進に切替えるには、シフトレバーのノブを押し込みながらレバーを上へいっぱい引き上げます。
- 前進へ戻すには、ノブを押し込みながらレバーを下へいっぱい押し下げます。

A. シフトレバー
B. ノブ

- 前進から後進へ切替える場合は、その前に必ずスロットルレバーをゆるめて船の速度を落としてください。（「操縦方法」の章の「後進」の項参照。）

警告

高速航走中、シフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータクラフトのパウ(船首)が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず船が停止するまで減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

イグニションスイッチ

イグニションスイッチは前部小物入れの中にあります。このウォータクラフトには二種類のイグニションキーが付いています。ひとつは初心者及び経験の浅い方のためエンジン出力を制限して運転できるもの (SLO) で、もう一方は通常の運転ができるもの (FPO) です。またこのキーにはウォータクラフトの盗難防止のためのイモビライザ機能が付いています。

SLO/FPOモード

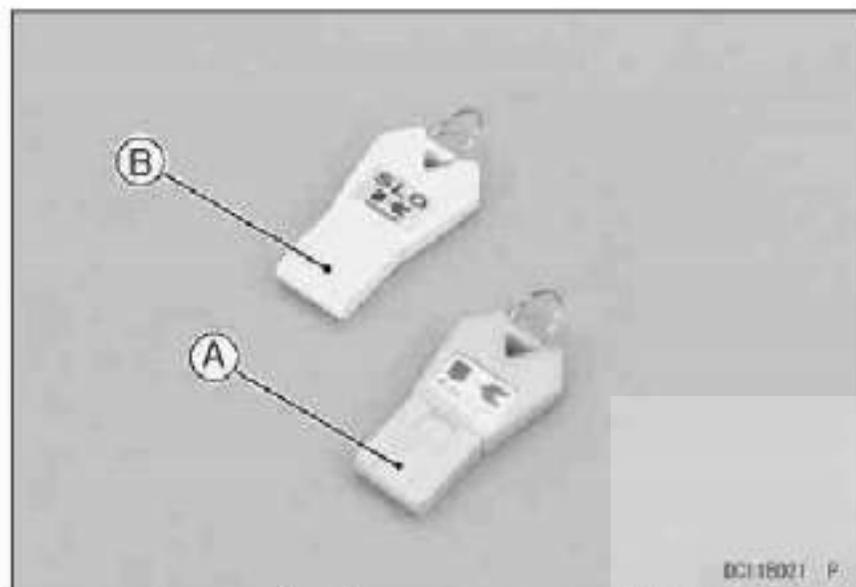
あなたの経験・技量にあわせてエンジン出力を制御したモード (SLO) または通常出力モードの (FPO) いずれかをお選びください。

キーはSLO / FPOモードで色分けがされています。

FPO：オレンジ色

SLO：黄色

またSLOキーにはSLOの文字が表示されています。

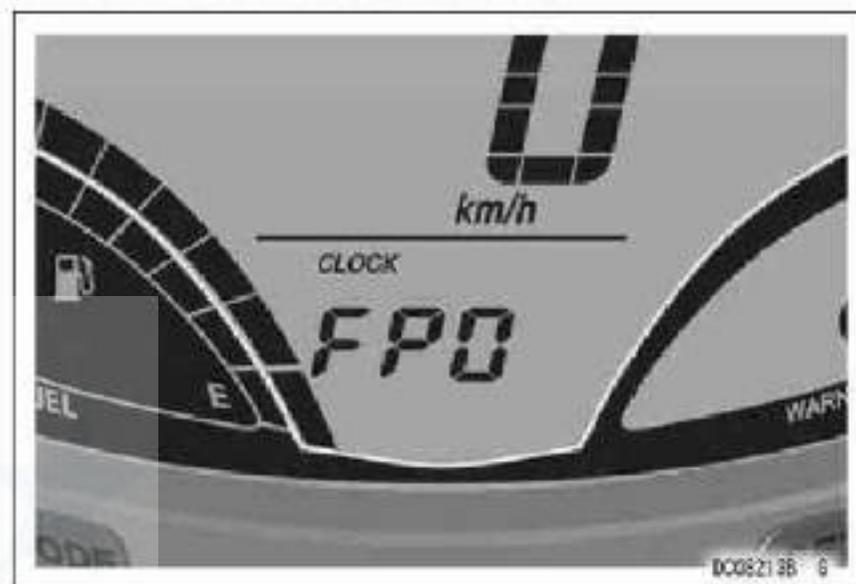


- A. EPOキー (通常運転モード: オレンジ色)
- B. SLOキー (制御運転モード: 黄色)

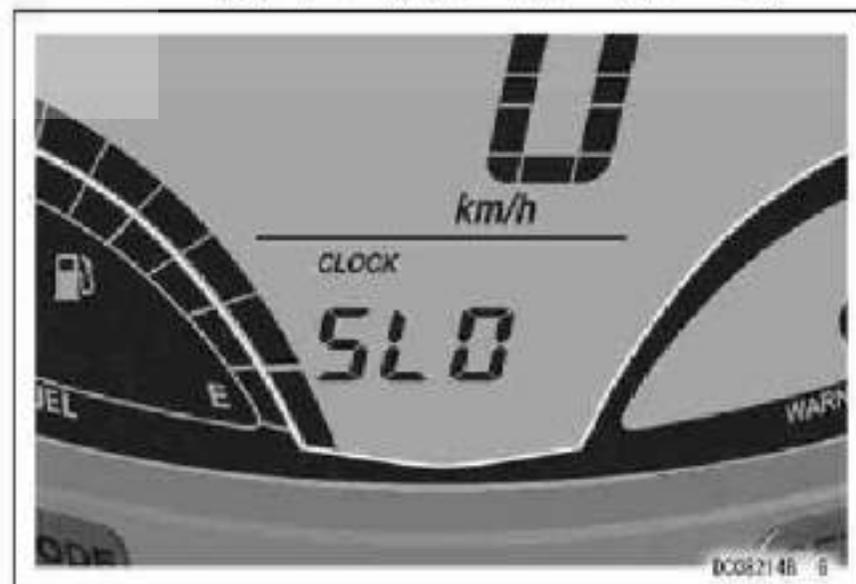
要点

- ⊙ イグニッションキーは単独では水に浮きますが、水に浮かないような金属製などのアクセサリを装着すると沈んでしまう恐れがあります。水に浮かないアクセサリ類はキーには装着しないで下さい。

FPOキーが使われた時は、マルチファンクションメータには次の表示が出ます。



SLOキーが使われた場合は下記の表示です。



50 一般事項

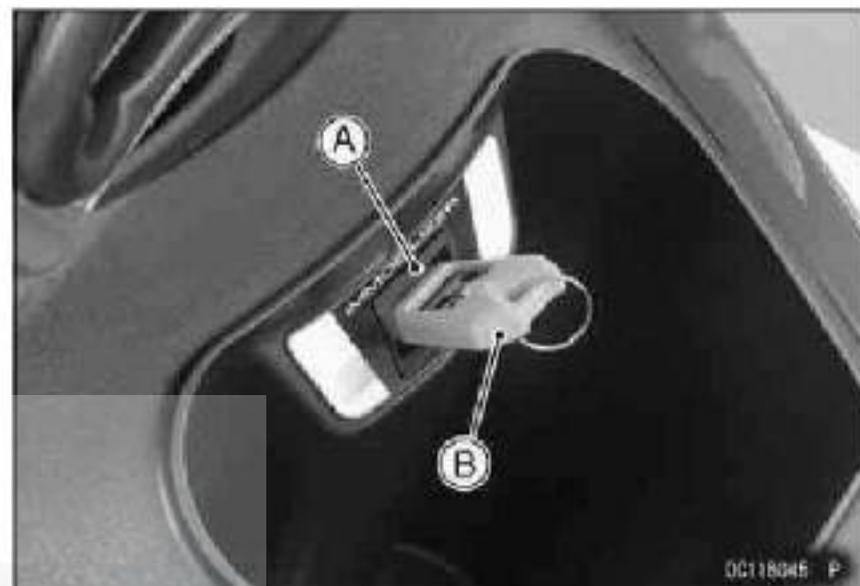
SLOの機能の詳細については本節の操縦装置の項をご参照ください。

要点

- SLOモードへの切り替え時には電源投入時と同じ初期表示がなされ、ブザーが2回鳴ります。その後SLOの文字が時計／航走時間／航走距離／積算航走時間メータディスプレイ等の表示の間に3秒毎に交互点滅表示されます。この表示はSLOモードで運転中は継続されます。
- SLOから通常モード(FPOモード)への切り替えの時にも初期画面が表示され、その後FPOの文字が2秒間点灯し消灯します。FPOの文字はそれ以降は表示されません。
- 各種警告の作動、およびその他のメータ機能はSLOモード、通常モード(FPO)とも同じです。

イモビライザ機能の使い方:

全部小物入れの中にあるキー穴にSLOかFPOのキーを挿入し、さらに奥へ押し込みます。電子制御ユニット (ECU) とイモビライザキーの間で交信が交わされ、登録されているキーであることが確認されると赤色警告灯が点滅し、警告ブザーが鳴り、その後マルチファンクションメータに初期表示が現れます。この状態でエンジンの始動ができます。



- A. キー穴
- B. イモビライザキー

要点

- SLOモードからFPOモードへ切り替える、またはその逆の場合には必ずエンジンを停止してください。エンジンが作動したままではモードの切り替えができません。
- エンジンが止まっている状態で3分経過すると、メータの表示が消えてイグニションスイッチがOFFされます。キーを挿した状態で再びイグニションスイッチをONにする場合はキーを前方に押ししてください。



A. 押す

ウォータクラフト運転中はキーを抜かないでください。キーを無くするとエンジンの再始動ができなくなり、海上で運転不能になる可能性があります。

注意

イモビライザキーの保護のため次の注意事項をお守りください。

- イモビライザキーを高温にさらさない。
- キーを磁石に接近させない。
- キーの上に荷重をかけない。
- キーのプラスチックカバーを損傷しない。
- キーに衝撃を与えない。

もし登録されていないキーを差し込むとマルチファンクションメータのブザーが鳴り、赤色警告灯が点滅し警告を発します。

イモビライザが作動不良を起こした場合も上記の警告が出ます。詳しくはこの章の「マルチファンクションメータ」の節をご参照ください。

要点

- イモビライザは電波を利用していますので、周囲の他の電波の影響によりキー照合警告が出る場合があります。

盗難防止や許可なくして他人に使われないために、ウォータクラフトの使用後はイグニッションキーをキー穴から取り外してください。

キーの制作:

もしキーを紛失した場合は「ジェットスキーARK」で新しいキーを制作・入手してください。ウォータクラフトを取扱店へ搬入し、電子制御ユニット (ECU) に新しいキーを登録させてください。ECUに新しいキーを登録するには少なくとも同ECUにすでに登録されたキーがひとつは必要です。もし備え付けのキー (SLO/FPO) を二つとも紛失した場合はECU本体を取り替える必要があります。従ってこれら登録されたキーは別々に保管されることをお勧めいたします。

要点

- 一度に作れる予備キーの数には制限があります。詳しくは「ジェットスキーARK」にご相談ください。

シートラッチ

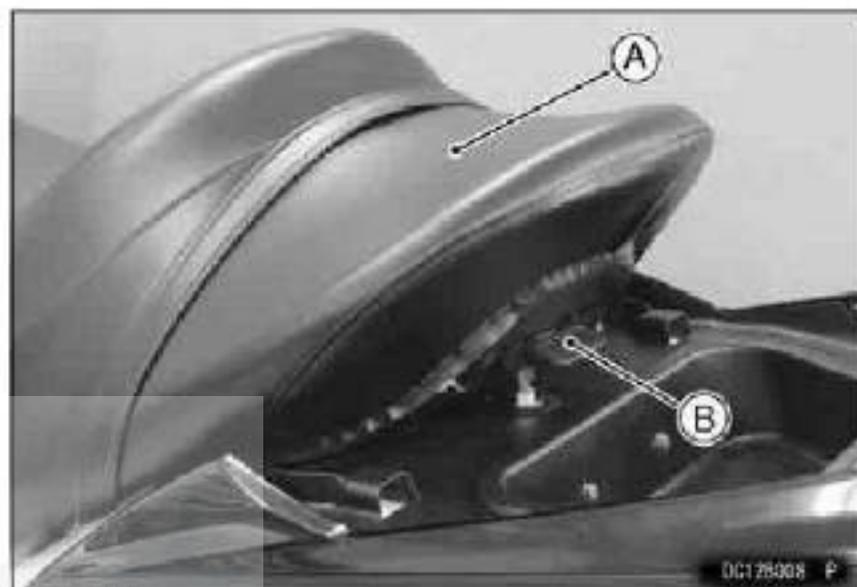
- シートは前後分割タイプです。どちらもシート後部のラッチをはずすことにより、取りはずすことができます。後部シートから外してください。

シートの外し方

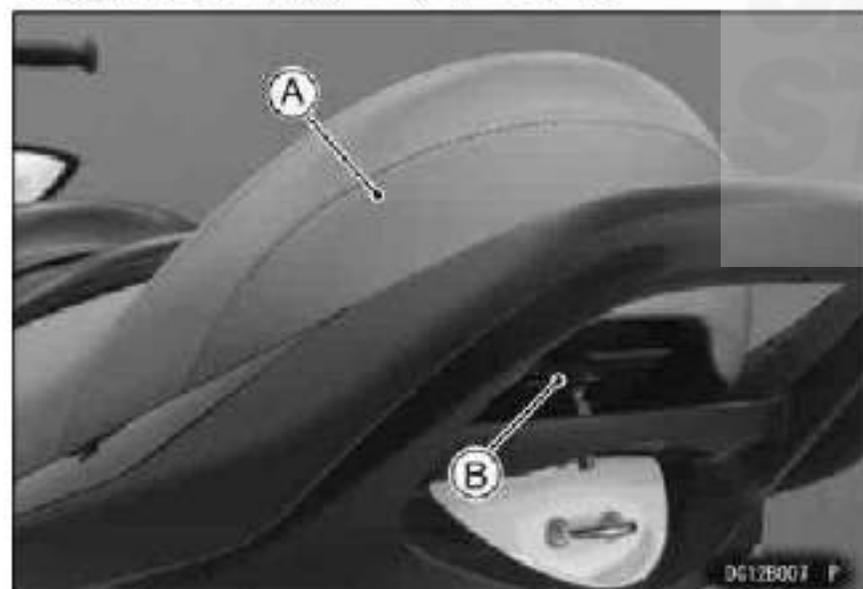
ラッチハンドルを引き、シートを後方へ外します。

シートの取り付け方

シート先端を所定の位置にきっちりと合わせ、シートの後端を前方へいっぱい押します。シートの後部を押し下げ、ロックします。



A. 前部シート
B. ラッチハンドル



A. 後部シート
B. ラッチハンドル

- ウォータクラフトを輸送するときは、シートがガタついて損傷しないようにラッチを完全にロックしてください。
- シート後方のハンドレールは、水深の深い場所から船に上がるためのものです。また、水上スキーヤー等を引っ張っているとき、同乗者は見張りのために後方に向き、シート後方のハンドレールをつかみます。これら以外の目的に使ってはいけません。（「操作方法」の章の「けん引ロープをかける場所」の項参照。）

注意

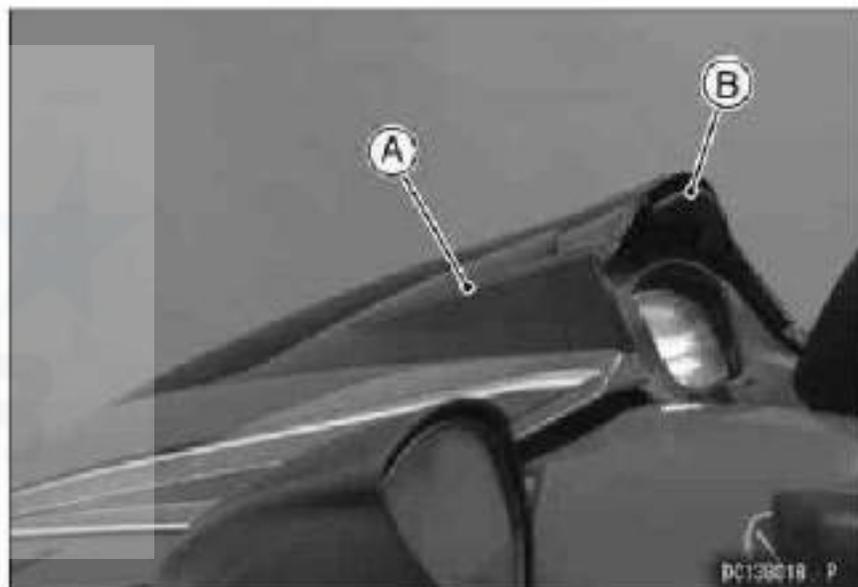
シート後方のハンドレールやけん引フックを使ってウォータクラフトを持ち上げたり、他の船をけん引したり、あるいは船体固定用ベルトでしばりつけたりすると、ハンドレール／けん引フックあるいはハルが破損する恐れがあります。
ハンドレールやけん引フックを使ってウォータクラフトを持ち上げたり、他の船をけん引したり、あるいは船体固定用ベルトでしばりつけたりしないでください。

要点

- ウォータクラフトに乗船する前にはシートのラッチが確実にロックされていることを確認ください。

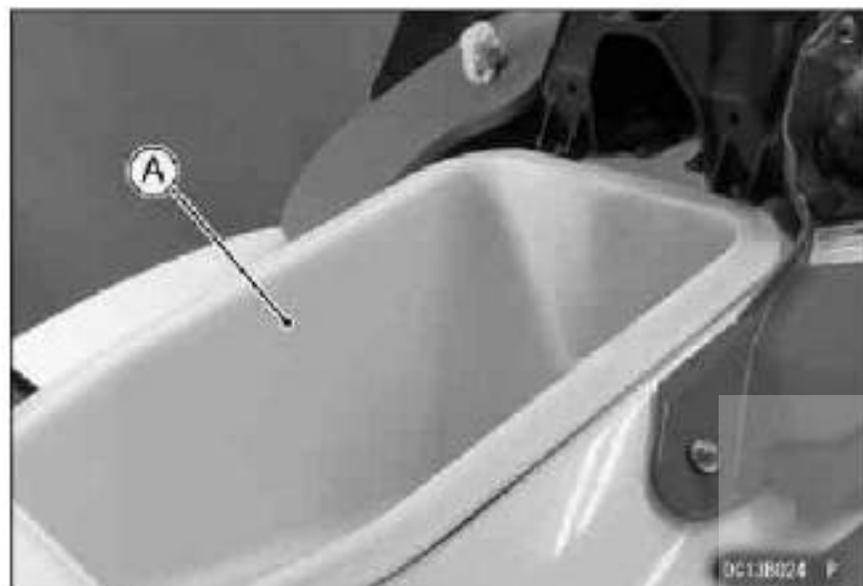
備品入れ

- 備品入れは船首にあります。この取り扱い説明書を防水の袋に入れて、ここに保管してください。開けるときは、ノブを引っ張りふたをいっぱい開きます。閉めるときは、ふたをおろしノブの周りを押してロックします。



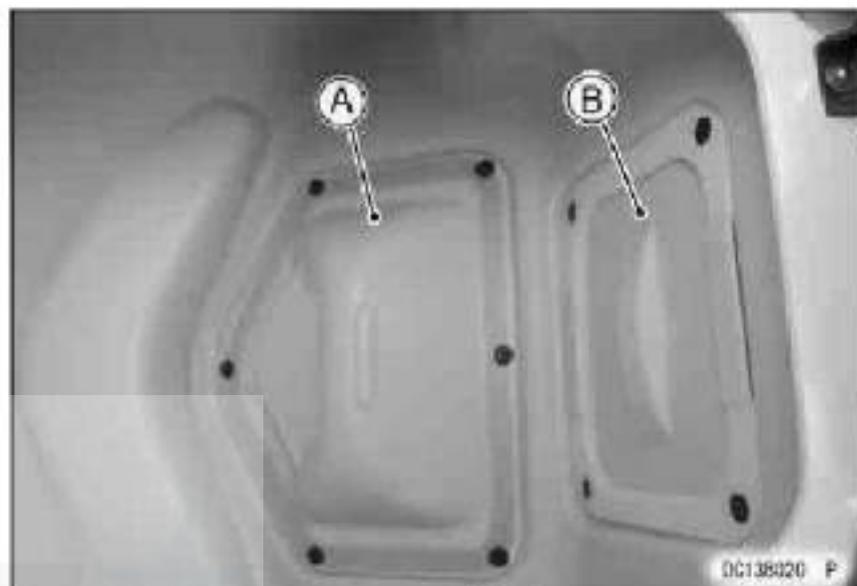
- A. 備品入れふた
- B. ノブ

- 消火器を備品入れケースに格納することができます。（消火器は標準装備ではありません。）



A. 備品入れケース

- 備品入れケースを取り外せばさらにその下に格納スペースがあります。バッテリーやヒューズがここに装備されています。



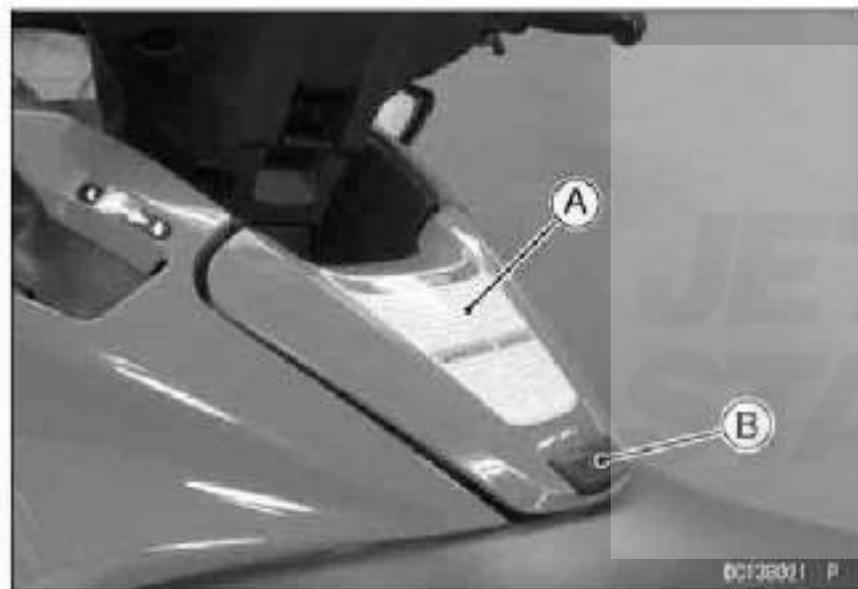
- A. バッテリーおよびヒューズ格納スペース
- B. ECU格納スペース

注意

ウォータークラフト運転時には必ず備品入れケースを取り付けてください。ケースをつけないで航走すると格納スペースに浸水する恐れがあります。

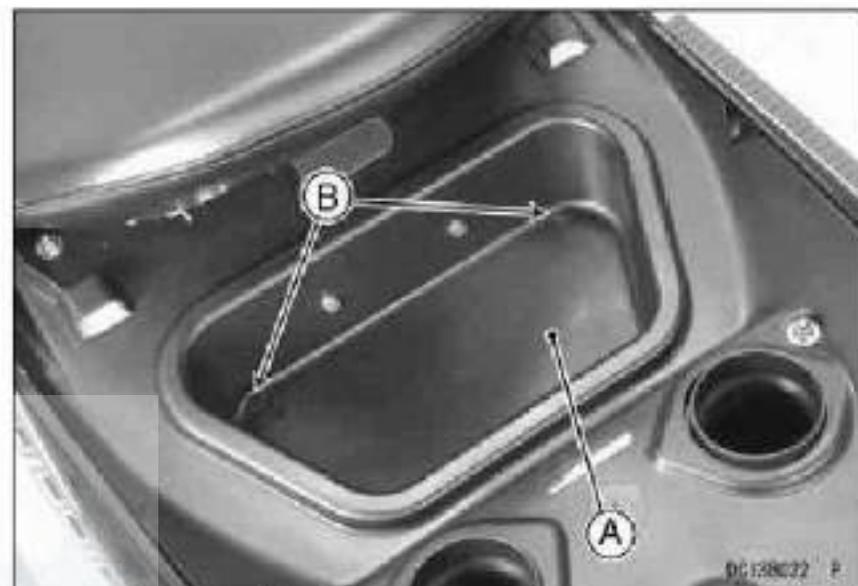
小物入れ

- シートのすぐ前に小物入れ（前部）があります。開けるときは、ふたのノブの下に指を入れ引き上げます。閉めるときは、ノブのまわりを押してロックします。



- A. 小物入れ（前部）
- B. ノブ

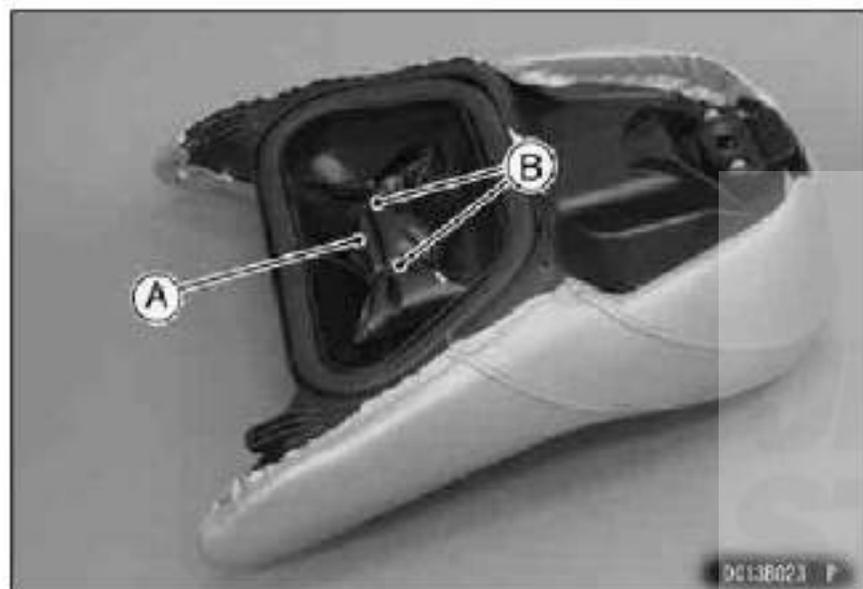
- 後部シートの下に、小物入れ（後部）があります。両方の小物入れには、ごく軽量の物だけを入れてください。



- A. 小物入れ（後部）
- B. ドレンプラグ

工具

- 工具は後部シートの裏側に収納されています。工具袋はバンドを外して取り出します。



- A. 工具袋
B. バンド

ビルジシステム

このウォータクラフトにはエンジンルームの後部にバキューム式の排水装置が装備されています。この装置は推進用のウォータジェットによりエンジンルームのビルジを吸引・排水します。水上でエンジンが作動しているときのみ作動します。

注意

ビルジ吸引口周辺にゴミがあると、エンジンルームの排水能力が低下するため、エンジンルームに水がたまりエンジン損傷の原因となることがあります。定期点検整備表に従って、定期的にビルジ排水装置の作動を確認し、ビルジ吸引口周辺のゴミを取り除いてください。

警告

ハルが損傷した場合エンジンルーム内に水が浸水する場合があります。ビルジシステムこのような浸水に対処するようには設計されていません。ハルが破損した場合、沈没を避けるため速やかに岸に戻ってください。

要点

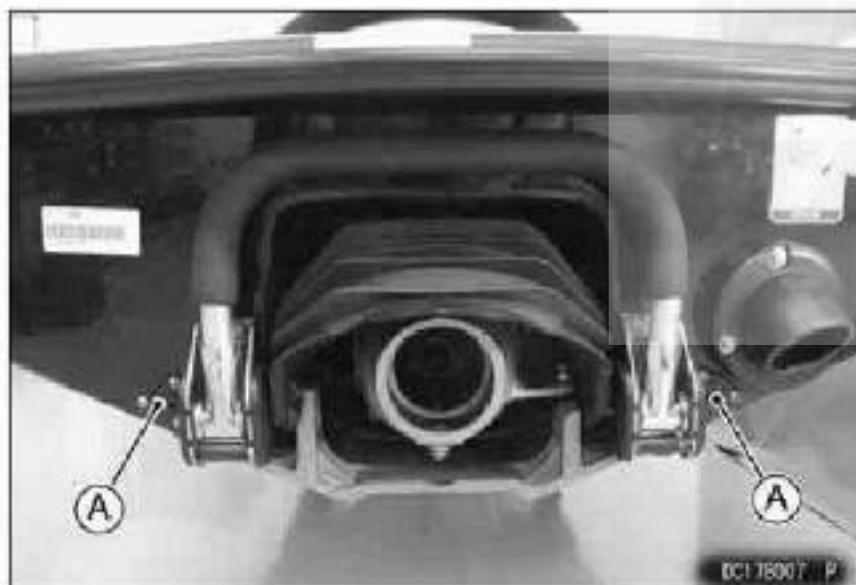
- エンジンルームの残水を排水するには、ウォータクラフトが陸上にある状態で船体後部のドレンプラグを取り外してください。

ドレンプラグ

- スターン（船尾）には、エンジンルームにたまった水を排出するため2つのドレンプラグがあります。ウォータクラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外してください。

注意

ウォータクラフトを水上に降す前に、エンジンルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかり締めてください。



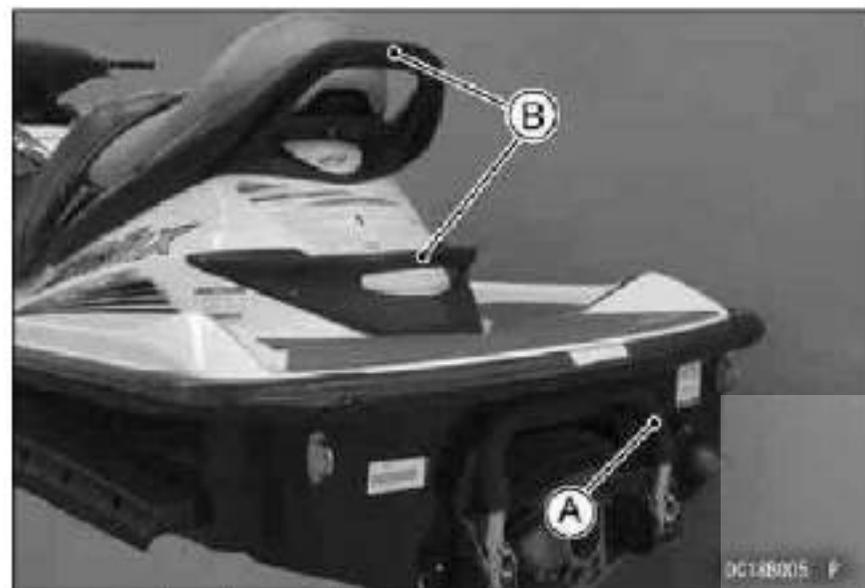
A. ドレンプラグ

リボーディングステップ

- このウォータクラフトには、船尾に折りたたみ式のリボーディングステップが取り付けられています。船尾から乗船するときは、ステップを下へ引き降ろします。放すとスプリングの力でもとの位置に戻ります。このステップとシート後端のハンドレールを使うと、水中からより容易に船に上がることができます。（「操縦方法」の章の「安全な操縦」と「発進」の各項参照。）また、このステップは、水深の深い場所から船に上がるためだけに設計されているので、人をこれにつかまらせて航走しないでください。

警告

リボーディングステップは、ジェットノズルに隣接しています。ジェットノズルから排出される水や異物でけがをする可能性があります。誰かがリボーディングステップにつかまっているときは、けがを避けるため彼等を水中で引っぱらないでください。



- A. リボーディングステップ
- B. ハンドレール

JET STAR

操縦方法

安全な操縦

経験の浅い運転者による操縦

- このウォータクラフトには最高速度を制限する機能、SLO（スマート・ラーニング・オペレーション）モードの機能がついています。経験の浅い運転者の方はウォータクラフトの操縦に慣れるまで、このSLO機能を使って操縦してください。詳しくは「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」および「操縦装置」の項をご覧ください。

乗船者の水泳能力

- ウォータクラフトの乗船者は航走中に落水することがありますので、水泳ができなければなりません。また、航走範囲も乗船者が泳いで戻ることができる範囲より沖合に出るはけません。

最大搭載人員

このウォータクラフトの定員は3名（操縦者1名および乗客2名）です。最大積載荷重を超えたり、3名以上の人員（水上スキーをけん引しているときは2名の乗船）を超えないようにしてください。

警告

乗船人員の合計体重および積載荷重の合計が最大積載荷重を超えると、ウォータクラフトの操縦性・復元性に悪影響を与え、事故の原因になります。最大搭載人員が最大搭載人員を超えないようにしてください。乗船人員の合計体重および積載荷重の合計が最大積載荷重を超えないようにしてください。乗船者は航走中はシートに座ってください。

最大積載荷重:	3名または225 Kg (荷物を含む)
デッキ上に積載可能な荷物の制限:	23 Kg

法定備品

船舶安全法によりウォータクラフトに備え付ける備品の種類と数量が規定されています。ウォータクラフトを使用する前に下記の法定備品がウォータクラフトに備え付けられていることを確認してください。

詳細は「ジェットスキーARK」または日本小型船舶検査機構（JCI）にお問い合わせください。

小型船舶用信号紅炎は付属の説明書をよく読み、硬い鋭利なものと混載しないよう専用の容器に入れ、航行中に物入れ内で動かないように確実に搭載してください。

60 操縦方法

区分	備品名称	数量	備考
係船索	係船ロープ	1本	
救命設備	小型船舶用救命胴衣	定員と同数	乗船者は必ず着用する。生地の変色、ファスナ、バックルの破損や浮力材の偏りがないこと。
	小型船舶用信号紅炎*	1セット	1セット(2個入り)。有効期限内のこと。
航海用具	音響信号器具	1個	笛で代用可能。各救命胴衣または船体に備え付ける。

*：航行区域が川のみ限定されているものは不要。

安全運転規則

- 平成15年6月1日以降ウォータクラフトを操縦するには、特殊小型船舶操縦士免許が必要になりました。(新制度の1級、2級小型船舶操縦士免許では操縦できません。但し、それ以前に取得された旧制度の免許では、湖川小馬力以外の5級小型船舶操縦士以上の資格で従来通り操縦ができます。)ウォータクラフトを操縦する際は、

必ず免許証を携帯し、安全規則、各地方の条例等を良く確認し、これらに従ってください。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

要点

- 一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意してください。気象情報のみにたよらず、観天望気により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港してください。観天望気：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- エンジンを始動する前に、スロットル、ステアリングおよびシフトレバーが正常に動くか点検してください。これらが故障していると、事故につながる可能性があります。
- 操縦者は遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度、距離を保って航走してください。
- 他のウォータクラフトや船舶などの後を追走しない。
- 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
- 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
- 浅瀬や暗礁のある水域は航走しない。
- 発進や急旋回するときは、周囲に十分注意してください。ウォータクラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていないか、

ふり返って確かめてください。バックミラーだけに頼ってはいけません。ボートの方向、距離、スピードを誤って判断したり、または全く見えなかったりするかも知れません。

- 操縦者は早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータクラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 航走中ずっと同乗者はバランス保持のため両足をデッキにおき、すぐ前の人の体につかまるか、シートバンドをつかんでおいてください。そうしないとバランスを失ってけがをすることがあります。操縦者は、同乗者が着座し、前の人かシートバンドをつかんでいることを確認してから発進してください。スロットルを操作する前に、同乗者に発進の合図をしてください。同乗者を振り落とそうとしないでください。



- 決して同乗者を操縦者の前に乗せないでください。

- 操縦者は落水したときエンジンが停止するようエンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供や他の人が使えないように、エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）をウォータクラフトから外してください。（「エンジンの始動」の項参照。）
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げるおそれのある薬物を服用して、ウォータクラフトを運転してはいけません。
- 乗船者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。
- 乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔（腔や肛門）内に水が入り負傷するおそれがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。ウェットスーツは水が透過する速度を著しく遅らせる厚い材質（ネオプレン）でできています。通常の水着では身体を十分に保護できませんが、このような負傷を防ぐことができる水上・水中スポーツ用ウェアもあります。水の力で位置がずれるような水着では身体を保護できません。材質的には厚手のもの、布目の詰まったもの、発水加工を施したものの、身体にフィットするものほど防護機能が高くなります。止むを得ずウェットスーツパンツ以外のものを着用

62 操縦方法

する場合は、最大限に身体を保護できるようなデザインの衣服を着用してください。

- ウォータクラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。
- 水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者も同乗者もデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。
- ウォータクラフトを前進中に後進へシフトするときは、徐々に減速してからシフトレバーを操作してください。また、シフトする前に同乗者に知らせて、安全のための注意を呼びかけてください。そうしないと、船首が水中に突っ込んで、同乗者がけがをすることがあります。
- 旋回するためにはジェットノズルからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に放すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられないおそれがあります。
- 他のウォータクラフトをけん引しているときは、注意が必要です。けん引はハンドル操作に影響があり、危険な状態を引き起こすおそれがあります。
- このウォータクラフトは転覆しても自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っていなければなりません。(ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方の転覆したウォータクラフトの起こし方の項参照。)
- ウォータクラフトは日没後、操縦しないでください。夜間も操縦できるように設計されていませんし、灯火もありません。

- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないでください。
- インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないでください。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意してください。
- 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越さないでください。ウォータクラフトの損傷や、操縦者と同乗者のけがのもとになります。
- 悪天候や荒波では危険ですからウォータクラフトを運転しないでください。重大な海難事故につながる可能性があります。
- 波を横切る前に、速度を落としてください。荒波の中を高速で航走すると、脊髄、腰や足をいためることがあります。
- 同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、エンジンストップコード(緊急エンジン停止用のコード)キーを抜いてください。同乗者がリボーディングステップの上で足をすべらせて、すき間にはさまれた状態で水中を引きずられると、けがをすることがあります。同乗者は、エンジンの回転中はリボーディングステップを使用しないでください。
- 操縦者は、視界の良し悪し、他の船の往来、天候、波の状態などを考えて安全なスピードを判断しなければなりません。波がぶつかり合うような水面では、ウォータクラフトの航走特性はかなり影響されることがあり、操縦者や同乗者が落水する原因になることがあります。さらに、悪条件のもとでフルスピードで航走しようとす

ると、船が予想外の動きをする原因になり、乗船者がけがをするおそれがあります。

注意

波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータクラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

ジェットポンプに関する注意

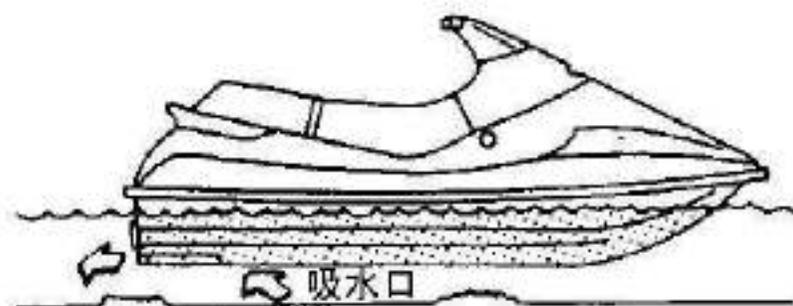
ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。

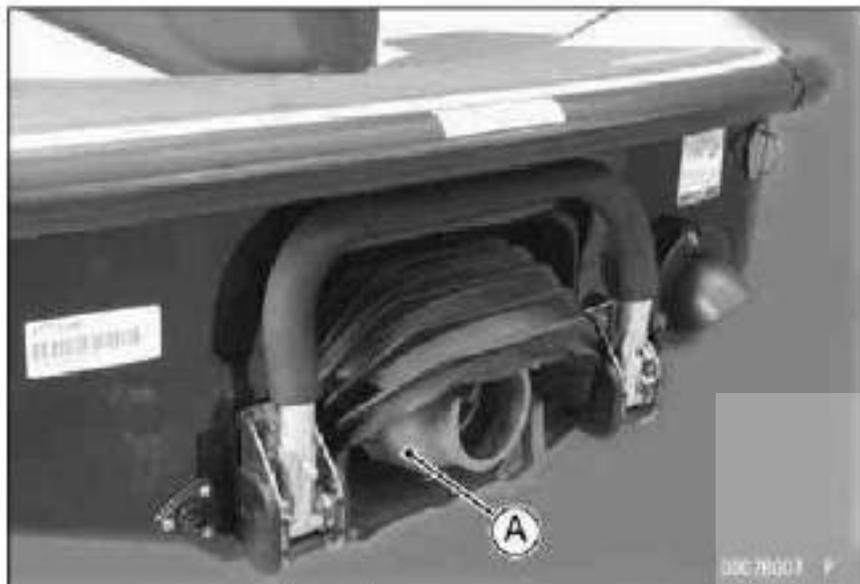
警告

エンジン運転中はジェットポンプの吸水口(船底の中央後部)に近づかないでください。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、おぼれたりする可能性があります。

ウォータクラフトの背後に人がいるときはスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをするおそれがあります。

エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないでください。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、溺れたりするおそれがあります。





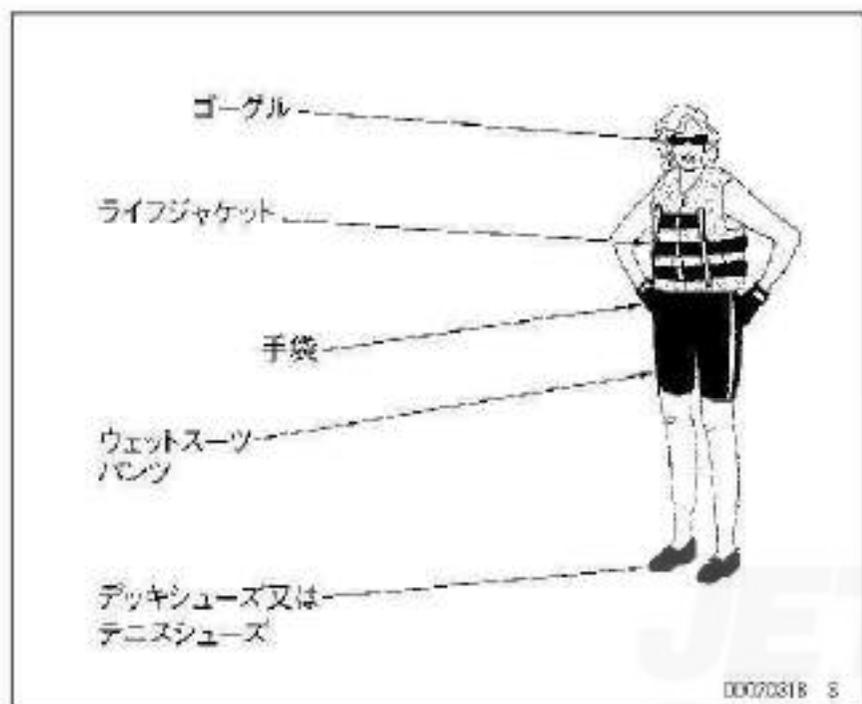
A. ステアリングノズル

乗船者の安全装備

 警告

乗船者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。乗船者は身体を保護できる衣服を着用してください。

落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔(臆や肛門)内に水が入り負傷するおそれがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。ウェットスーツは水が透過する速度を著しく遅らせる厚い材質(ネオプレン)でできています。通常の水着では身体を十分に保護できませんが、このような負傷を防ぐことができる水上・水中スポーツ用ウェアもあります。水の力で位置がずれるような水着では身体を保護できません。材質的には厚手のもの、布目の詰まったもの、発水加工を施したもの、身体にフィットするものほど防護機能が高くなります。止むを得ずウェットスーツパンツ以外のものを着用する場合は、最大限に身体を保護できるようなデザインの衣服を着用してください。シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)も着用してください。



▲ 警告

ウォータクラフトが航走中水しぶきが目に入ると、目を傷めたり、短時間視界が妨げられたりすることがあり、事故を起こす原因となることがあります。適切なゴーグル等を着用してください。

水深の浅い場所で水中に降りたとき、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。乗船者はデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかってください。

ヘルメット着用の選択

ウォータクラフトでヘルメットを着用する前に、その利点と危険をよく考慮して選択してください。

安全性:

ヘルメットはレース中の転倒等、固いものにぶつかった際、頭部を保護します。

危険性:

ヘルメットの着用は周りの視野を制限し、その重みで疲れを増すことがあります。また、水中に転落したとき頸部とのどに負担をかけ、重大なけがををする原因になるおそれがあります。

積載／アクセサリ／改造

▲ 警告

不適切な荷物の積載やアクセサリの使用、またはウォータクラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与えたり、航走条件を危険にするおそれがあります。乗る前に積載過剰になっていないか、また、以下の指示に従っているか、必ず確認してください。

最大積載量

- 3名または225 kg(荷物を含む)以内。
- 後部デッキに積む荷物は23 kgを超えないこと。

重要

カワサキウォータクラフト用純正アクセサリはその製品およびカワサキのウォータクラフトへの取付けに関して安全に設計されています。アクセサリを装備させる時は必ずカワサキの純正アクセサリをご使用ください。

純正以外のアクセサリを使用されますと、カワサキはその安全性に関して確認することができません。また純正以外のアクセサリの不適切な取り付け・使用およびウォータクラフトへの改造はウォータクラフトに事故および不具合を生じる危険性があり、保証の対象にならない場合があります。

このようにカワサキの純正以外のアクセサリを使用したり装備をする場合は、あなた自身および

あなたの周りの人達への安全に関して、十分な責任をお持ちください。

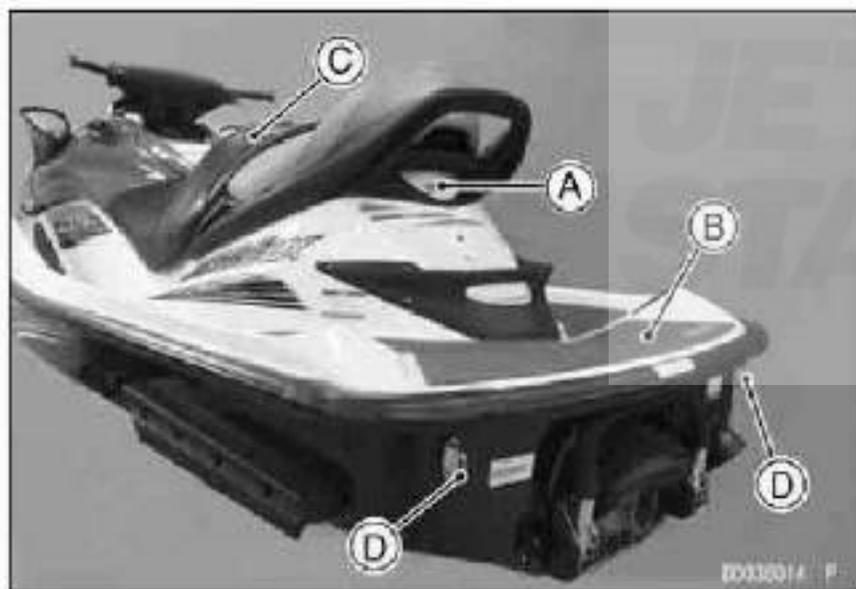
ウォータクラフトは重量配分の変化に敏感です。荷物を積んだり、同乗者を乗せるときや、アクセサリをつけるときは、最大の注意を払ってください。以下の一般的なガイドラインを参考にして決めてください。

- 同乗者が不適切な座り方をしたり、突然動いたりすると、ウォータクラフトのコントロールに影響を与えることがあります。航走中は、同乗者はじっと座って操縦の邪魔をしないことが重要です。また、船に小動物を乗せてはいけません。
- 乗船する前に、操縦者は同乗者に対してすぐ前の人につかまるかシートバンドをつかむように、また、バランス保持のため両足をデッキにおくように指示しなければなりません。
- シート後部の広いデッキを荷物の積載に使ってください。ばらばらの荷物は船から落ちて紛失しないように、浮力のある容器に必ず収納してください。ばら積みの荷物やロープは海に落ちて、吸水口の格子やポンプにからみつくおそれがあります。
- カーゴネット（標準装備部品ではありません。）や適当なロープを使って荷物を後部デッキに固定してください。けん引用フックや船尾のえい航用フックを利用します。後部デッキには最大23 kgを超えて荷物を積んではいけません。
- 航走中に荷物が動くことがないことを確認してください。できるだけ何回も荷物の固定具合を点検し、必要ならば締め直してください。

- 視界をさまたげたり、操縦者の船のコントロール能力に影響を与えるような大きい、またはかさばった荷物を積まないでください。また、船の性能を落とすようなアクセサリを付けたり、荷物を運ばないでください。

警告

後部デッキに積んだ荷物は、乗船を妨げ、バランスをくずすおそれがあり、そのためけがをすることがあります。乗船の妨げにならないように、荷物を積んでください。



- A. トーイング用フック
- B. 後部デッキ
- C. シートバンド
- D. えい航用フック

トーイング(ウエイクボード/水上スキー等の定員1名のけん引物)

トーイングは、3人で行うスポーツです。

バックミラーがプレーヤー(ウエイクボード/水上スキー等の定員1名のけん引物に乗っている者、以下プレーヤーと言う)の見張りに使えらると思えてはいけません。操縦者、後方を向いて座る見張り役の同乗者およびプレーヤーは、3人のそれぞれの装備、航行規則、責任、合図、そしてこのスポーツの基本を知っていなければなりません。

他のボートや建造物および遊泳者との衝突する危険を減らすために、混み合った水域では行わないでください。岸や浅瀬から少なくとも使用するトーイング用ロープの2倍の距離を保ってください。トーイングしている状態で他のボートの前方を横切ってはいけません。ゲレンデの中には、それぞれ決められた条例、規則がありますので遵守してください。

操縦者の役割

操縦者はトーイングの全ての行為と安全に責任があります。トーイングをしているときは、細心の注意を払ってください。他の船は、あなたのウォータクラフトがトーイングしているとは思っていないかもしれません。プレーヤーが転倒した場合、直ちにその場所に戻りゆっくりと近づいてください。

トーイングロープがびんと張るまでアイドリング速度で航行します。プレーヤーが準備完了の合図をしたら操縦者はウォータクラフトの前方および周囲の安全を確認し、プレーヤーを引き起こせる

68 操縦方法

様に速度を調整します。プレーヤーを引き起こせたら一旦スロットルをゆるめ、もう一度前方および周囲にボートや障害物が無いかを確認します。またトーイング用ロープがプレーヤーに巻きついていないか見張り役に確認します。

常にプレーヤーの能力に応じた速度で航行してください。初心者に適した速度は概ね30から40 km/hです。プレーヤーが楽しくトーイング出来る様に常に見張り役と協力しプレーヤーからの合図を確認してください。プレーヤーが旋回する際にプレーヤーの体重と速度がウォータクラフトの操縦に影響することがありますので充分注意してください。

操縦者は、常にトーイングしている事を考え、安全でゆとりのある航行に心掛けてください。ま

た見張り役やプレーヤーがトーイング用ロープを手繰り寄せている等、不安定な態勢の時はウォータクラフトを加速したり航行してはいけません。

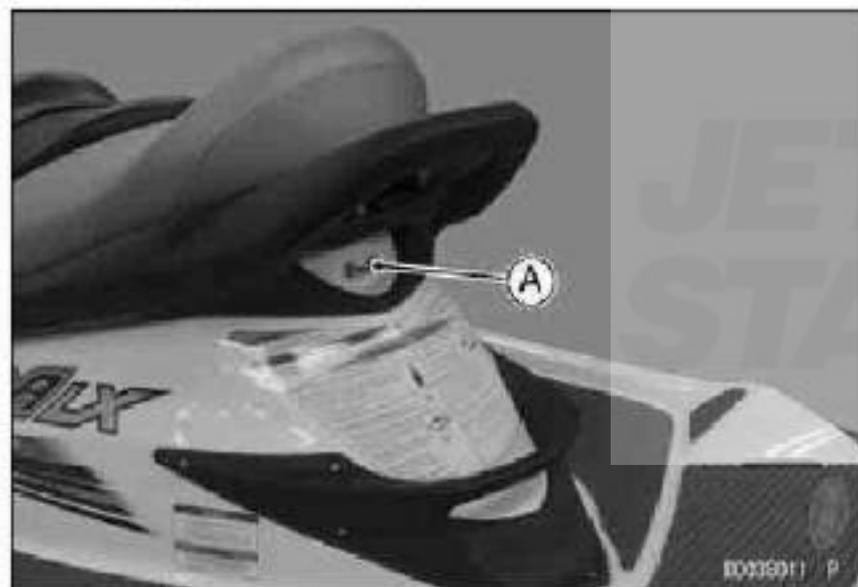
見張りの役割

見張りの役割は、プレーヤーのすべての合図を操縦者に伝えプレーヤーに転倒等の危険が生じた場合は直ちに操縦者に知らせることです。見張り役は、プレーヤーを見張るために後方を向いて座りハンドレールをしっかりとつかんでいなければなりません。また見張り役は、トーイング用ロープが吸水口に吸い込まれない様に注意しなければなりません。

GET★
STAR

トーイング用ロープをかける場所

トーイングするときは、シート後端下部にあるトーイング用フック以外にロープをつないではいけません。えい航するときは、船尾のえい航用フックにロープをつないでください。えい航するときは細心の注意を払ってください。ウォータクラフトの操作性に影響し、危険な状態を生じる可能性があります。また他の船は、あなたの運転するウォータクラフトがえい航しているとは思っていないかもしれません。



A. トーイング用フック



A. えい航用フック

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータクラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検してください。

ウォータクラフトの外側

- 1) **ポンプの清掃**: 吸水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いてください。
- 2) **ポンプカバー**: ジェットポンプカバー、吸水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取付けボルトを締めてください。
- 3) **船体の損傷**: 船体の損傷を点検してください。
- 4) **ドレンプラグ**: スターン（船尾）のドレンプラグが確実に締められているか確認します。

ウォータクラフトの内側

- 5) **ステアリング**: ステアリング系統に引っかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検してください。必要であればケーブルを調整してください。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしてあり、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換してください。
- 6) **シフトレバー**: シフトレバーを“F”（前進）、“R”（後進）のそれぞれの位置に動かしてみて、引っかかりがないか、ガタつく箇所がないか点検します。また、スターン（船尾）のリバースバケットが、シフトレバーの動きと正常に対応して動くか点検します。（「整備と調整」の章参照。）

- 7) **スロットルコントロール**: スロットル系統に引っかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態に戻らなければなりません。

▲ 警告

スロットルレバーが固着したり、戻りが渋くなると操縦不能になり事故を起こす可能性があります。スロットルレバーががなめらかに、完全に戻らない場合、ウォータクラフトを運転しないでください。「ジェットスキーARK」で燃料系統の点検を受けてください。

- 8) **エンジンルームの換気**: 備品入れのふたを開け、シートを外し、小物入れ（後部）を取り出して、数分間エンジンルームの換気を行います。

▲ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンを始動する前にシートを取り外して数分間換気してください。

- 9) **バッテリーターミナル**: バッテリーターミナルのスクリュエがしっかり締まっているか、また、ターミナルカバーが確実に取り付いているか点検します。

警告

バッテリーケーブルの取り付けがゆるむとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡する可能性があります。バッテリーの端子のスクリュはしっかり締め付け、カバーを端子にかぶせてください。

- 10) 燃料タンク内の圧力: 燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。キャップはしっかりと閉めてください。
- 11) 燃料: 燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給します。
- 12) エンジンオイル: エンジン内のオイルを点検します。必要ならば補充します。
- 13) 燃料漏れ: エンジンルーム内に燃料漏れがないか点検してください。
- 14) オイル漏れ: 同時にオイル漏れがないか点検します。
- 15) ファスナ: ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、緩みがあれば締めてください。
- 16) ホースの接続: すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認してください。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換してください。
- 17) ビルジ(あか)の排水: エンジンルームに水がたまっていれば、ドレンプラグを外して水を出してください。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 18) エンジンストップコード(緊急エンジン停止用のコード): エンジンを始動して、数秒間回転させます。(「エンジンの始動」の項参照。) コー

ドキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

危険

排気ガスには、無色無臭の有毒ガスである一酸化炭素が含まれている。排気ガスを吸い込むと、意識不明になったり、死亡したりするおそれがある。閉め切った場所でエンジンを運転しないでください。換気の良い場所で作業してください。

注意

冷却水の供給なしにエンジンを15秒以上、特に高回転で運転させると、エンジンや排気系統に重大な損傷を与えます。エンジンの損傷を避けるため、十分な冷却水の供給がない状態でエンジンを運転しないでください。

- 19) ストップボタン: 再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。
- 20) シート: シートのラッチが完全にロックされているか確認します。
- 21) 備品入れ: カバーが確実にロックされていることを確認します。
- 22) 乗船者の安全装備: 操縦者と同乗者は常にライフジャケットを着け、その他安全装備をしてください。
- 23) マルチファンクションメータ: 各メータ類の作動を確認します。「一般事項」の章を参照してください。

ならし運転

- 新しいウォータクラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、表面を滑らかにするためです。ならし運転中はエンジンの回転速度を、次に指定する回転速度以上に上げないように航走してください。

最初の5分間: 2 500 rpm以下
次の1時間: 4 000 rpm以下
次の30分間: 6 000 rpm以下

- ならし運転期間中、ウォータクラフトを注意深く取り扱えば、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場にて定期点検整備を受けてください。「整備と調整」の章の「定期点検整備表」をご参照ください。

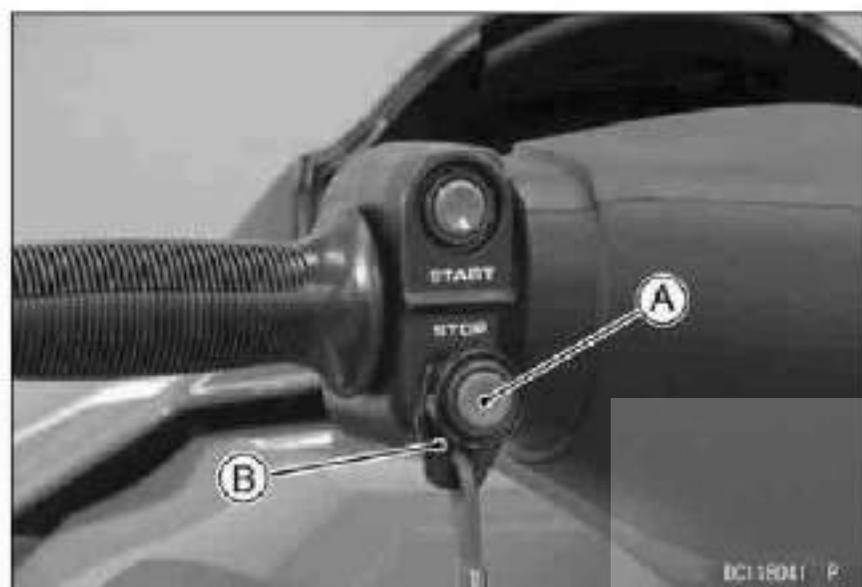
エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによって、止めることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込まねばなりません。どちらの方法でエンジンを止めても、イグニッションキーをキー穴から抜いてください。

警告

ウォータクラフトを旋回させたり、障害物を避けたりするためには推力が必要です。エンジンが停止すると、ウォータクラフトの進路変更ができなくなり事故を起こす可能性があります。障害物を避けたり、進路変更するためには、エンジンを停止しないでスロットルレバーを常に少し引き推力を確保してください。航走前に、必ずハンドル操作とスロットル操作に異常のないことを確かめてください。



- A. エンジンストップボタン
- B. エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キー

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならないときは、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いてください。

考えられる緊急事態とは：

- * エンジンの回転をコントロールできなくなったとき。
- * スロットルレバーが指を放しても完全に戻らないとき。

警告

ウォータークラフトを旋回させたり、障害物を避けたりするためには推力が必要です。エンジンが停止すると、ウォータークラフトの進路変更ができなくなります。障害物を避けたり、進路変更するためには、エンジンを停止しないでスロットルレバーを常に少し引き続けてください。もし、スロットルが正しく作動しないときは、原因を見つけて修理するまでウォータークラフトを運転しないでください。下船後は子供や他の人が使えないようにエンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）をウォータークラフトから外してください。

注意

エンジン停止中はイグニッションキーを外してください。“ON”のまま放置するとバッテリーが上がります。

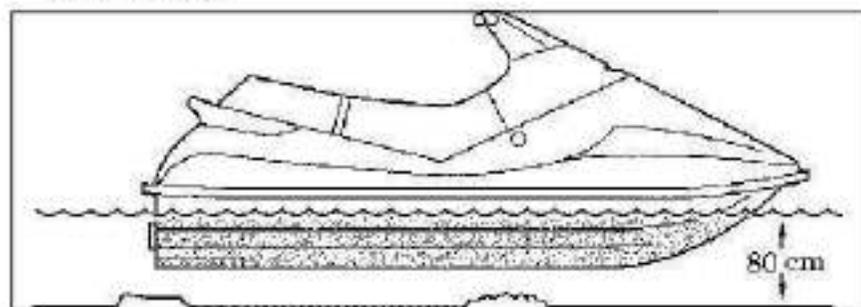
エンジンの始動

- ウォータクラフトを水上に下ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従ってください。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前に備品入れのふたを開け、前後シートを外して数分間換気してください。

▲ 警告

酸化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンを始動する前にシートを取り外して数分間換気してください。

- 雑草・海草や浮遊物のない水深80 cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ポートや障害物がないかよく確認します。



注意

ウォータクラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行ってください。

- シートに座り、コードキーをストップボタンの下に差し込み、落水したときにエンジンが停止するようコードのもう一方の端を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにします。コードを引っ張ってみて、しっかり手首にはまっているか確認してください。

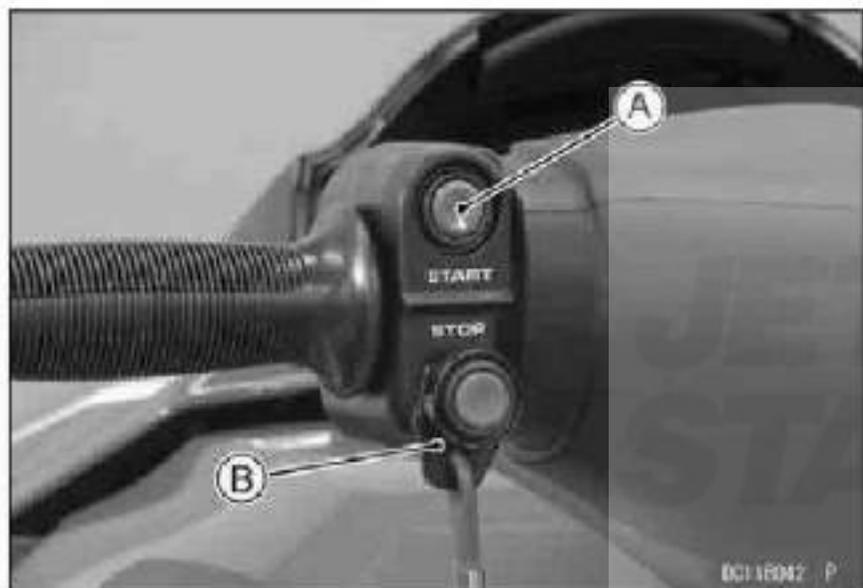
要点

- エンジンストップコード(緊急エンジン停止用のコード)キーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転も始動もしません。
- イグニションキーをキー穴に差し込み奥まで押し込みます。

要点

- このウォータクラフトにはSLOとFPOの二つのキーが装備されています。あなたの経験・技量にあったほうを選んでください。またこのキーにはイモビライザ機能が付いています。登録されたキーをご使用ください。詳しくはこの章の「イグニションスイッチ」の項をご参照ください。
- ウォータクラフト運転中はキーを常にキー穴に差し込んだままにしておいてください。キーが無くするとエンジンの再始動ができなくなり海上で運転不能になる可能性があります。

- 左手で緑色のスタータボタンを押し、エンジンが始動したら放してください。もし、エンジンが5秒以内に始動しないときは、スタータボタンを放してください。15秒間待って再び始動させてください。数回試みても始動しないときは、「トラブルシューティング」の章を参照してください。



- A. エンジンスタータボタン
- B. エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キー

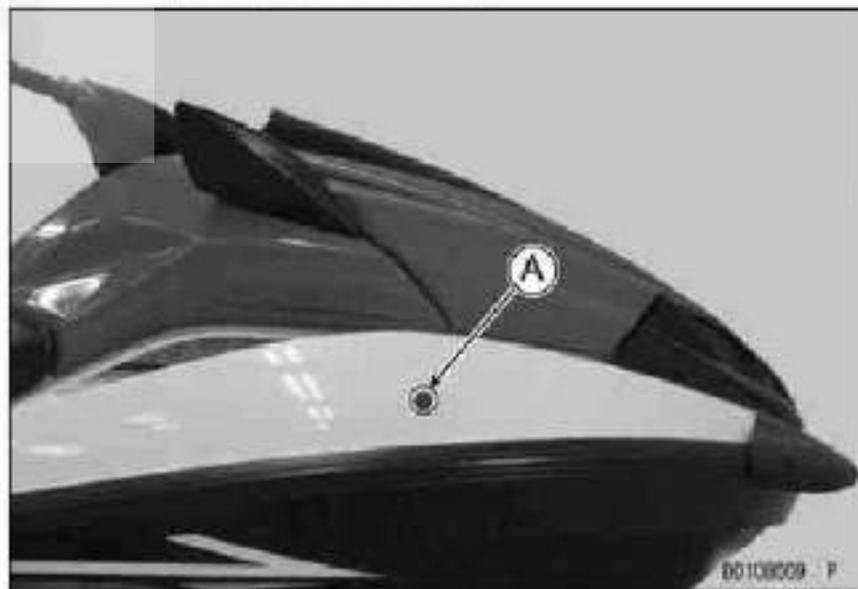
要点

- エンジンが始動しないときは、15秒間隔で始動を行ってください。こうすることはバッテリーやスタータの寿命を延ばすことになります。

注意

エンジンが回転しているときや、スタータがまだ回っているときに、スタータボタンを押ししないでください。スタータの摩耗を早めたり、スタータ故障の原因になります。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転をします。ときどきスロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すこととなります。
- スロットルレバーを引いたとき、船体の右側のバイパス出口から水が出てくるか確認してください。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気システムに水が入っていないときは、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



- A. バイパス出口

発進

栈橋からの発進

- 栈橋からウォータクラフトの上に飛び降りてはいけません。
- まず栈橋側のデッキに片足をおき、次にハンドルバーをもち体重を移動させて船のバランスをとりながらシートにまたがって座ります。
- シフトレバーが前進しようとする場合は“F”に、後進の場合は“R”になっているか確認します。
- 栈橋を離れるときは、船を押してもらるか、または船尾の水面に十分余裕ができるまで栈橋から浅い角度で船を動かします。ウォータクラフトは船首で回るのではなく船尾で回るの、栈橋に当たらないように十分注意してください。
- 前方に障害物等がないか確認して、ハンドルバーを走る方向に向けます。

警告

進行方向にいる遊泳者や障害物を見落とすと衝突事故を引き起こす可能性があります。事故を避けるため、常に周囲の遊泳者、障害物、船舶に絶えず注意してください。これは危険防止のため、初心者には特に重要なことです。

- スロットルレバーを引いて旋回ができる推力を出します。

注意

栈橋から離れるときは、急旋回や急加速を避けてください。そうしないと船尾が栈橋に当たり、損傷するかも知れません。操縦者は急激な操作をする前には、旋回する余裕が水面にあるか必ず確認してください。

- 広い水面に出ていくに従って、徐々に加速します。
- スピードが上がるにつれてウォータクラフトは水平になって滑走します。
- いったん滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走ってください。
- 進行方向のボートや泳いでいる人達、また、障害物に絶えず注意してください。

ランプからの発進

- ウォータクラフトを水上に降ろす前に、「乗る前の点検項目」の項の各項目を確認してください。
- 同時に、ランプの表面の状態、傾斜および幅が、トレーラやけん引車に適しているか点検してください。

注意

ウォータクラフトが浸水しないように、スターン(船尾)のドレンプラグがしっかり締められているか点検してください。

- 適当なロープをウォータクラフトが遠くに行かないように取り付け、トレーラに縛り付けられたひもをときます。

- ウォータクラフトをトレーラと共に水中へ入れます。
- ウィンチのロックを外し、ウォータクラフトをゆっくり押し、トレーラから離します。
- トレーラを水中から引き揚げます。

水深の深い場所での発進

一人乗りの場合

- ウォータクラフトの後部へまわります。
- エンジンが止まっていることを確認します。
- シート後端のハンドレールか、またはその下のトローリング用フックをつかみ、リボーディングステップを下ろします。はじめに片ひざ、次に片足または両足をステップにおいて体をデッキの上へ引き上げます。次に片ひざずつデッキ後部にのせます。船に上がる時、ステップや船上ですべらないように注意してください。
- シート中央のバンドをつかんで、船のバランスをとりながらデッキに両足をおきます。
- シートにまたがって座ります。

二人または三人乗りの場合

- 操縦者が船のバランスをとっている間に、同乗者は後部から一人乗りの場合と同じ要領でウォータクラフトに上がります。

警告

リボーディングステップは、ジェットノズルに隣接しています。ジェットノズルから排出される水や異物でけがをする可能性があります。同乗者がリボーディングステップを使う前に、操縦者は必ずエンジンを止め、エンジンストップコード(緊急エンジン停止用のコード)キーを抜いてください。同乗者は、エンジン運転中はリボーディングステップを使用しないでください。

水深の浅い場所での発進

- ウォータクラフトを浅瀬にけい留するときはいつも砂や岩場を引きずらないでください。これは船体の傷を減らし、砂や岩がジェットポンプの中に入り、再始動時、ジェットポンプが損傷することを防ぎます。
- 海岸に引きあげたウォータクラフトの中に砂や岩が入ったときには、水中にて船尾を何回も大きく上下させ、ジェットポンプの中を洗浄します。

注意

ウォータクラフトを始動するときは、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が80 cm以上の所で行ってください。

78 操縦方法

- 船の左右どちら側からでも、また、後部からでも乗ることができます。どの場合でも、乗るときはウォータクラフトが安定するようにバランスをとってください。

停止

通常停止

警告

高速で動いている物や止まっている物に向かって航走することは危険な行為です。事故を起こさないため、高速航走中は、動いている物や止まっている物から100 m以内に近づかないでください。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落としてください。

高速航走中、シフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってはいけません。ウォータクラフトのバウ(船首)が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず船が停止するまで減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

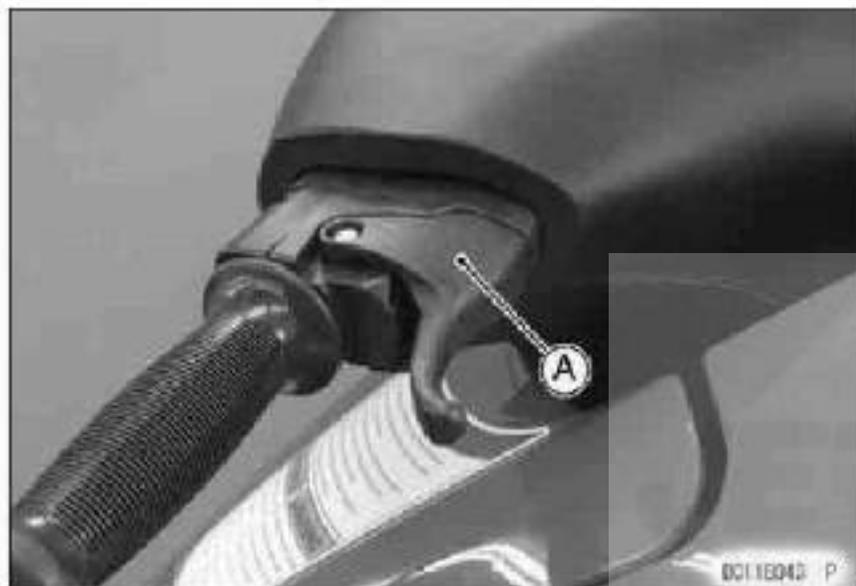
このウォータクラフトは、次の順序で水の抵抗を利用して停止します。

1. 止めようとする区域に到着する前に、スロットルレバーを放します。
2. アイドリング状態のまま、停止区域へ向かって進みます。

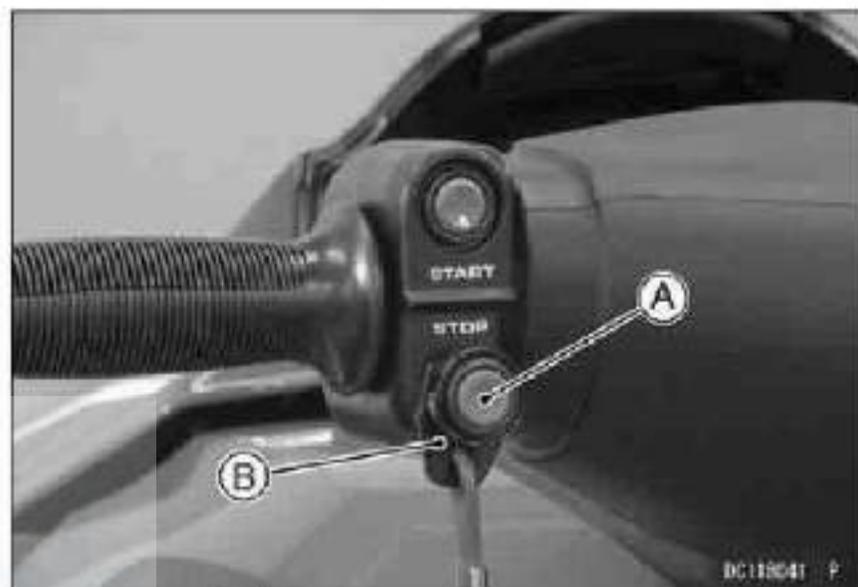
注意

異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、水深が80 cm以下になる前にエンジンを止めてください。

3. 完全に停止させるため、ストップボタンを押すか、またはコードキーをストップボタンから抜きます。



A. スロットルレバー



- A. ストップボタン
B. エンジンストップコード（緊急エンジン停止用のコード）キー

スロットルレバーを放すと前進速度は落ちますが、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いてウォータクラフトの進行方向を変えることができます。

この方法でウォータクラフトを旋回させ、障害物から離れることができます。

▲ 警告

ウォータクラフトを旋回させたり、障害物を避けたりするためには推力が必要です。スロットルを完全に戻すと、ウォータクラフトの進路変更ができなくなり事故を起こす可能性があります。障害物を避けたり、進路変更するためには、スロットルを完全に戻すのではなく、スロットルレバーを常に少し引き推力を確保してください。

80 操縦方法

岸辺に近づいてきて停止したいときには、ストップボタンを押してください。エンジンが直ちに止まるので、砂や異物がジェットポンプに入って損傷をうけることを防ぎます。水深80 cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

警告

ウォータクラフトを旋回させたり、障害物を避けたりするためには推力が必要です。エンジンが停止すると、ウォータクラフトの進路変更ができなくなり事故を起こす可能性があります。障害物を避けたり、進路変更するためには、エンジンを停止しないでスロットルレバーを常に少し引き推力を確保してください。

停止技術:

停止距離は操縦者と同乗者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮することができます。停止するときに急旋回（スロットルレバーを使って）することは、停止距離を短くするための一つの方法です。

最短停止距離:

3人乗りで、最高速度からの最短停止距離は77 mです。

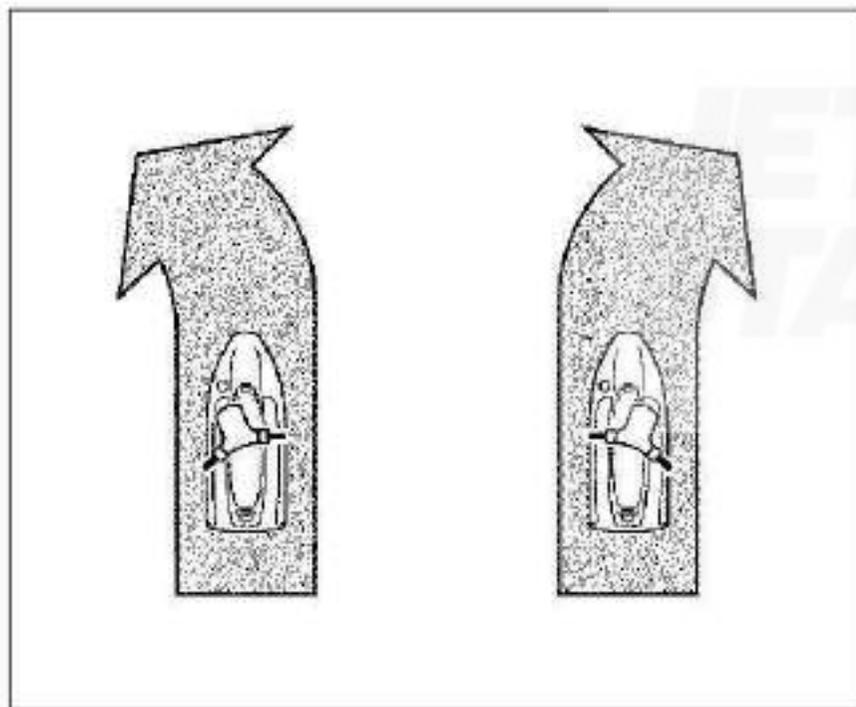
この数字は、一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変わればこの数字も変わってきます。

旋回

ウォータクラフトを旋回させるには、次の二つの動作の組み合わせが必要です。

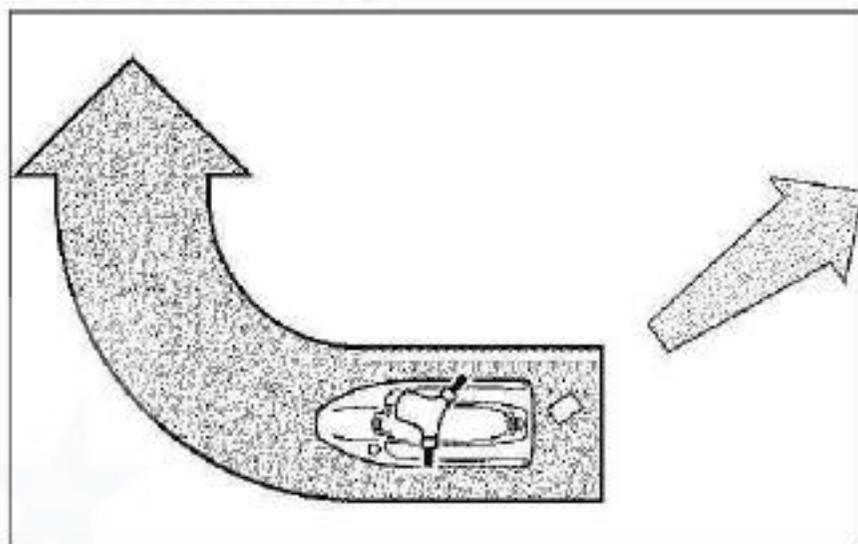
- ハンドルバーを回す。
- スロットルレバーを使う。

左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。

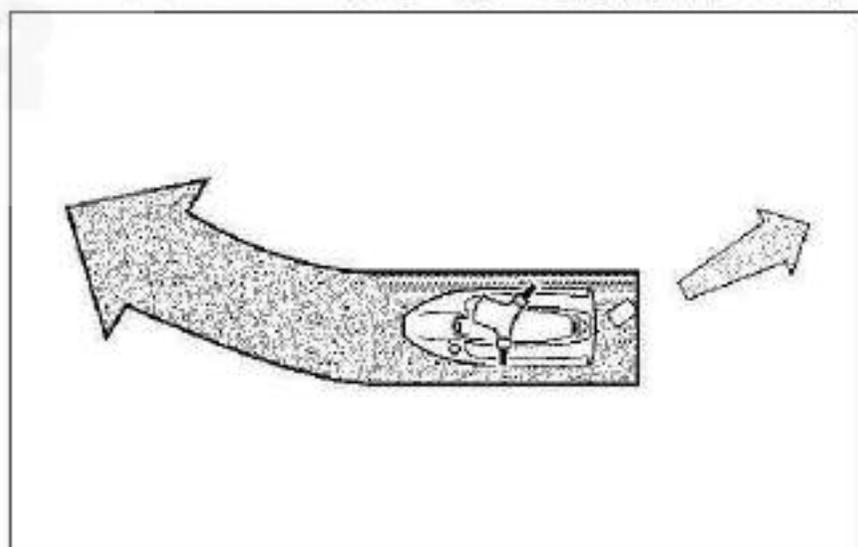


スロットルレバーを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

ジェットポンプの推力が強いとウォータクラフトは鋭く旋回します。

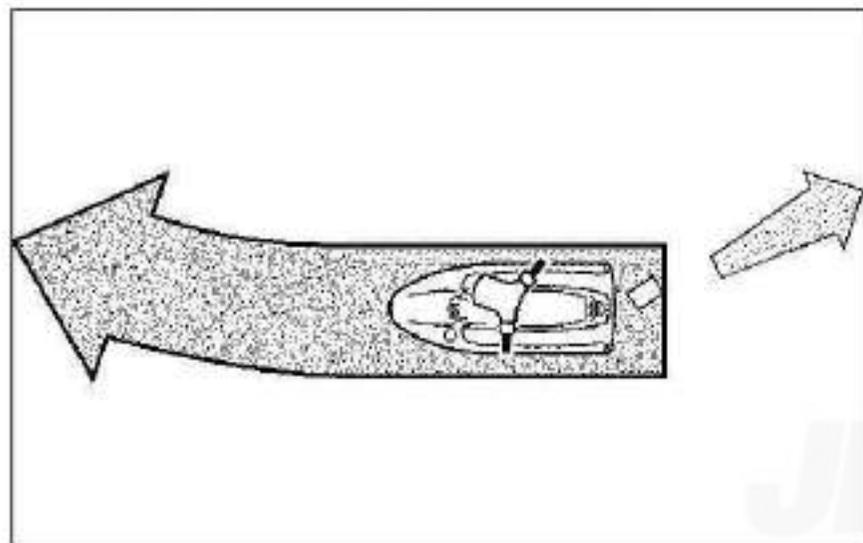


ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



82 操縦方法

スロットルレバーを完全に放すとジェットポンプの推力が殆どなくなります。ウォータクラフトはゆっくりとまわり、旋回能力は低下します。

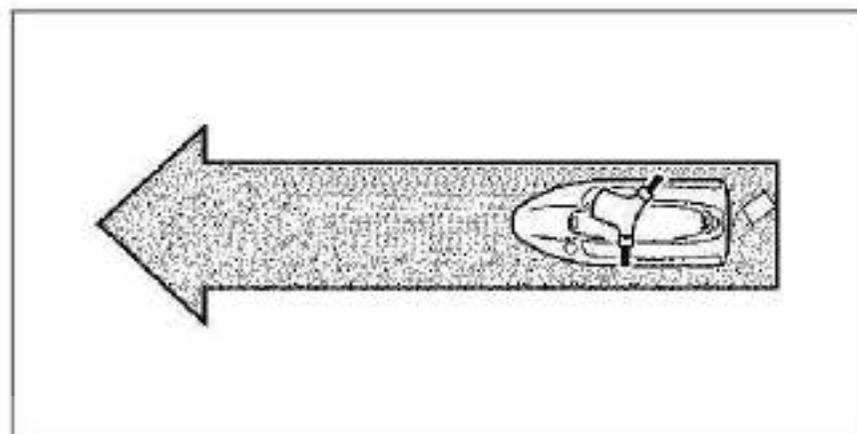


アイドリング＝ゆっくりと徐々に旋回

▲ 警告

ウォータクラフトを旋回させたり、障害物を避けたりするためには推力が必要です。スロットルを完全に戻すと、ウォータクラフトの進路変更ができなくなり事故を起こす可能性があります。障害物を避けたり、進路変更するためには、スロットルを完全に戻すのではなく、スロットルレバーを常に少し引き推力を確保してください。

航走中にエンジンを停止すると、ジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータクラフトは真っすぐに進みます。



無推力＝旋回不可

▲ 警告

ウォータクラフトを旋回させたり、障害物を避けたりするためには推力が必要です。エンジンが停止すると、ウォータクラフトの進路変更ができなくなり事故を起こす可能性があります。障害物を避けたり、進路変更するためには、エンジンを停止しないでスロットルレバーを常に少し引き推力を確保してください。

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

- 旋回に入る前に、スロットルレバーをゆるめてスピードを落としてください。

▲ 警告

このウォータクラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、急旋回や急加速したときに同乗者が船外に投げ出され、他のボートに当たって事故になるおそれがあります。同乗者がいる時は同乗者の落水を避けるため、急旋回や急加速を避けてください。操縦者は旋回等をする前に、周囲のボートに注意してください。また、同乗者には、航走中必ずすぐ前の人の体につかまるか、シートバンドがある場合はシートバンドをつかむよう指示してください。

このウォータクラフトにはカワサキスマートステアリングシステムが設けられています。「一般事項」の章の「操縦装置」の項を参照してください。

後進

- 離着岸時等、やむを得ない場合を除いて、なるべく後進は使わないでください。
- 前進から後進に移る前に必ず船が止まるまで減速してください。スロットルレバーを充分ゆるめるか、または完全に放します。減速するまで待ってからシフトレバーを“R”（後進）に入れます。

▲ 警告

高速航走中、シフトレバーを前進から後進に操作してはいけません。また、ブレーキとして後進を使ってもはいけません。ウォータクラフトのバウ（船首）が水中に突っ込んで乗船者がけがをする原因となることがあります。シフトする前に必ず船が停止するまで減速し、また、同乗者に安全のための注意を呼びかけてください。

- 後進方向の水面に他のボート、泳いでいる人達、または障害物等がないか確認し、目標を定めず。バックミラーだけに頼ってはいけません。よく見えないか、または全く見えないかも知れません。
- 徐々にスロットルレバーを引いて、ゆっくりと後進を始めます。

着岸

- 着岸するときは、ウォータクラフトのスピードと方向をコントロールするために、スロットルを効果的に使ってください。
- 停止したい砂浜や岸辺に近づいてきたら、ストップボタンを押してください。砂がジェットポンプに入って損傷させることを防ぎます。水深80cm以下のところでエンジンを回転させてはいけません。

注意

ウォータクラフトを岸に乗り上げないでください。インペラや船体がひどく損傷することがあります。また、船尾の速度検知用水車が損傷して、スピードメータが作動しなくなることがあります。浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないでください。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

- エンジンを止めると進路変更のコントロールが不可能になることを忘れないでください。従って、ウォータクラフトのスピードが充分落ち、停止位置寸前になってからエンジンを止めてください。いったんエンジンを止めると、非常事態の緊急回避ができなくなります。

ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗り方

初めてウォータクラフトに乗ったときは、シートにまたがって座ります。ウォータクラフトの扱い方に慣れてください。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルレバーの操作が旋回にどう影響するか感触をつかんでください。

ウォータクラフトの船首が連続的に上下する状態（ポーポイジング）が起きたら、体重をさらに前方へ移動してください。

警告

ハンドルバーに近づき過ぎると、波にぶつかったときハンドルバーが操縦者に当たりけがをする可能性があります。けがを避けるためハンドルバーの上方に近づかないでください。

エンジン関連部分の機能が損なわれるか、エンジンオイル温度計に異常が起こるとエンジンの回転速度が自動的に3 000 rpmに制限されます。警告ブザーが鳴り、赤色警告灯が点滅しさらに“FI”シンボルおよび“FI”文字が点滅するか、またはエンジン油圧シンボルおよび“OIL L”, “OIL H”文字が点滅すれば、直ちに海岸へ戻り、「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。

水温や油温の警告灯等が点滅してもエンジン回転速度は3 000 rpmに制限されますので、すぐ海岸へ戻り冷却系統の詰まりを調べるかまたはエンジンオイルを補給してください。

冷却系統およびオイル量以外の問題があるようであれば「ジェットスキーARK」で故障修理を行ってください。

燃料シンボル、燃料レベル計、「FUEL」文字と赤色警告灯が点滅し始めると残りの燃料が28 Lです。スロットルの作動は半分にしてできるだけ早く給油してください。このウォータクラフトには予備タンクがありません。

(「一般事項」の章の「マルチファンクションメータ」の項を参照。)

常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意し航走してください。

落水

操縦者がウォータクラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

警告

ウォータクラフトから落ちるとき、ハンドルバーにしがみついていると、ウォータクラフトにぶつかってけがをする可能性があります。けがを避けるため、落水時ハンドルバーから手を離してください。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、尻部から先に水面に落ちることです。
- ウォータクラフトの後部から上がります。コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタータボタンを押してエンジンを始動します。

転覆したウォータクラフトの起こし方

万一ウォータクラフトが転覆したときは、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。

直ちに次の手順で船体を起こしてください。

警告

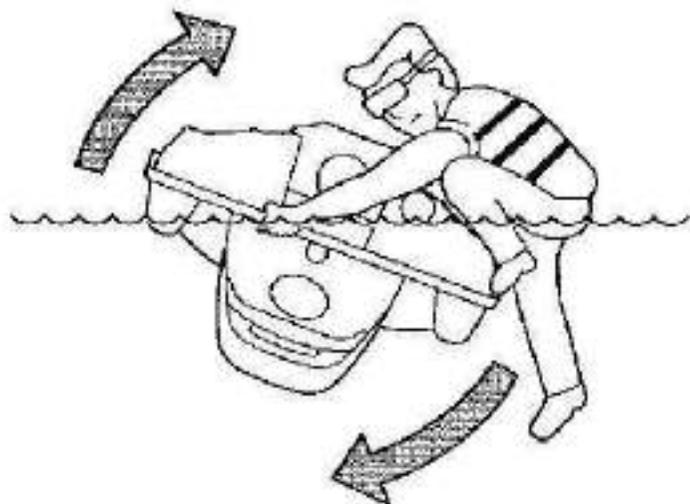
このウォータクラフトは転覆しても自動復元しませんので、そのままでは立ち往生することになります。立ち往生を避けるため、操縦者は正しいウォータクラフトの起こし方を知っていなければなりません。

- エンジンが停止したか確認します。もし、停止していなければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注意

もし、ウォータクラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、スロットルボディやエンジンに水が入るおそれがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。もし、エンジンに水が入ったら「浸水後の処置」の項に述べられた方法に従ってください。

- 転覆した船の後部の角に泳いで行きます。
- 片手で左舷を押し下げ、もう一方の手を斜めに伸ばしてデッキの後部をつかみ、船底に伸び上がるようにします。



- 次に片方の足で船体後部の角を押し下げ、体重をかけながら手前へ回転させます。
- 船体が起き上がってきたら、必要ならばできるだけ遠くの船体をつかんで船を完全に引き起こします。

注意

転覆した船は常に左舷を下側にして右回しに起こしてください。反対に回すと、マフラの水がエンジンの中に入り、エンジンの損傷を招くおそれがあります。

- ウォータクラフトは転覆して起こした後、エンジンルームに水が入っています。更に水がエンジンルームに入らないよう注意して、船尾から上ります。

要点

- 同乗者がおれば、他のウォータクラフトに乗移ることで、荷重を減らし、水が更に入ること防止できます。
- コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- ウォータクラフトをゆっくり運転して海岸に帰り、ビーチに引き揚げ、エンジンルームの水を抜きます。これはエンジン内に水が入って、エンジン内部が損傷することを防ぎます。

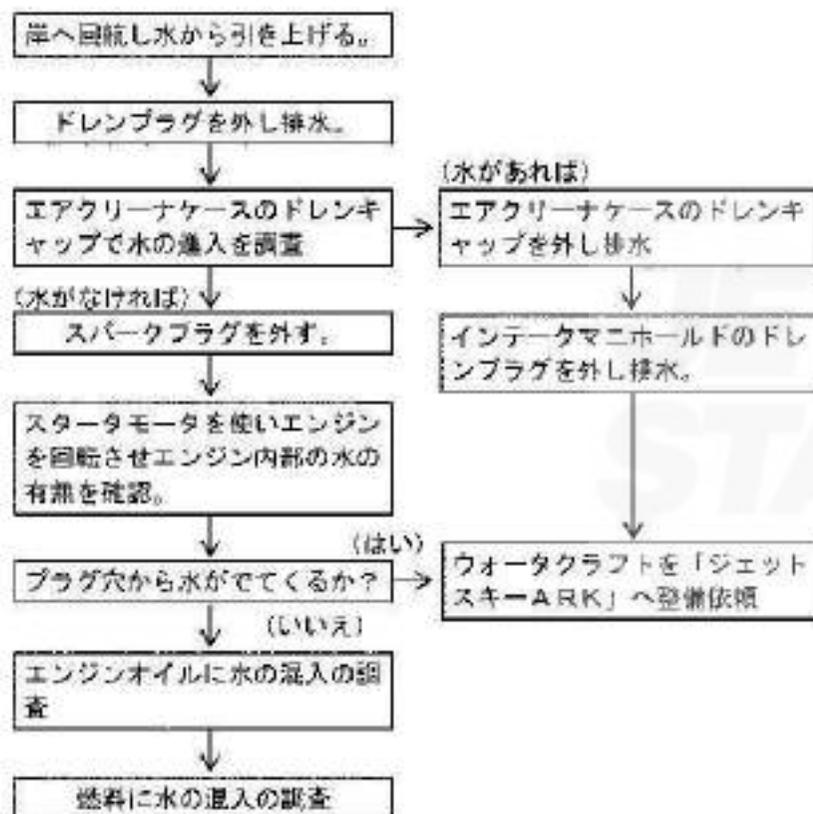
浸水後の処置

注意

エンジン内に水が入ったままで、ウォータクラフトを運転しないでください。エンジン内の水を完全に排出するまで、エンジンを始動しないでください。エンジン内部の部品が激しく、しかも急に損傷するおそれがあります。もし、エンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をしてください。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クランクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

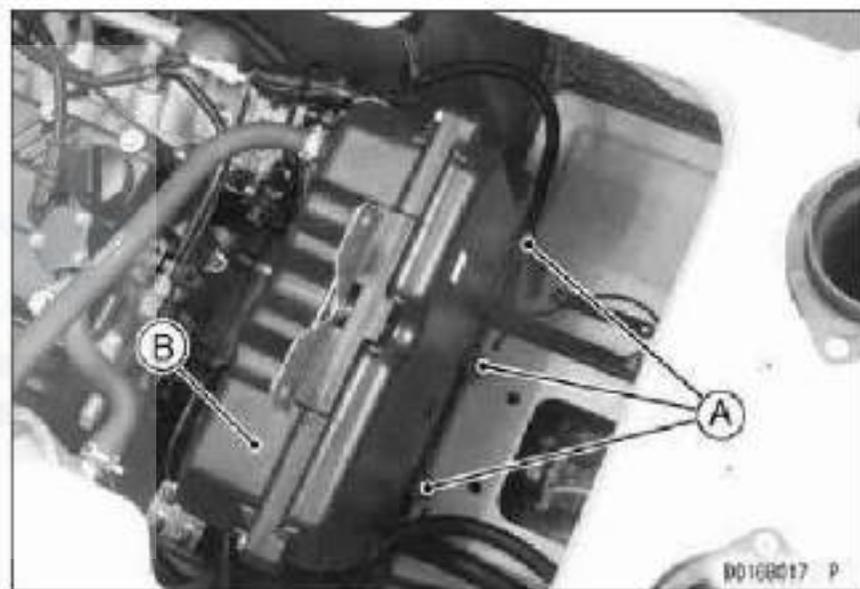
もしウォータクラフトが水没したら、エンジン内部に水が入ることがあります。また燃料タンクやエンジンオイルにも水が入ることがあります。エンジンルームに浸水したウォータクラフトは以下に述べる手順に従って調査、処置を実施してください。まず以下の手順の概略を、その後で各詳細をよく読んでください。

概略手順



詳細手順

1. ウォータクラフトを水から引き上げ、シートを外します。
2. ドレンプラグを外し、エンジンルームの排水をします。
3. ハンドレールプレートを外し、エアフィルタに付いているプラスチックのドレンプラグに水が入っているか調べます。



A. ドレンキャップ
B. エアフィルタ

4. もし上記のキャップに水があればキャップを外して水を排出してください。油水が出ることがありますので布きれ等をキャップの下に敷いてください。この後、項目5に進みます。もしキャップに水がなければ、項目6に進みます。

要点

- もしキャップの中に水があれば、インテークマニホールドにも浸水した可能性が高いです。この場合には一部部品を取り外して排水する必要がありますので、「ジェットスキーARK」へウォータクラフトを運んで処置を受けてください。
- 5. インテークマニホールドのプラグを外し内部の水を排水してください。油水が出る場合がありますので布きれ等をキャップの下に敷いてください。その上でウォータクラフトを「ジェットスキーARK」へ整備依頼してください。
- 6. エンジン前部右にある一次側イグニションケーブルの二つのイグニションコイルコネクタを外します。



A. イグニションコイルコネクタ

- 7. すべてのスパークプラグキャップを外します。
- 8. すべてのスパークプラグを外します。

- 9. イグニションキーをキー穴に差し込み、ストップボタンの下にコードキーを差し込みスタートボタンを押します。
- 10. もしエンジン内に水が入っていればプラグホールから排出されます。エンジン内の水を排出した後、至急「ジェットスキーARK」へ搬入し処置を受けます。スタータは5秒以上運転しないでください。再始動は15秒待ってからにしてください。

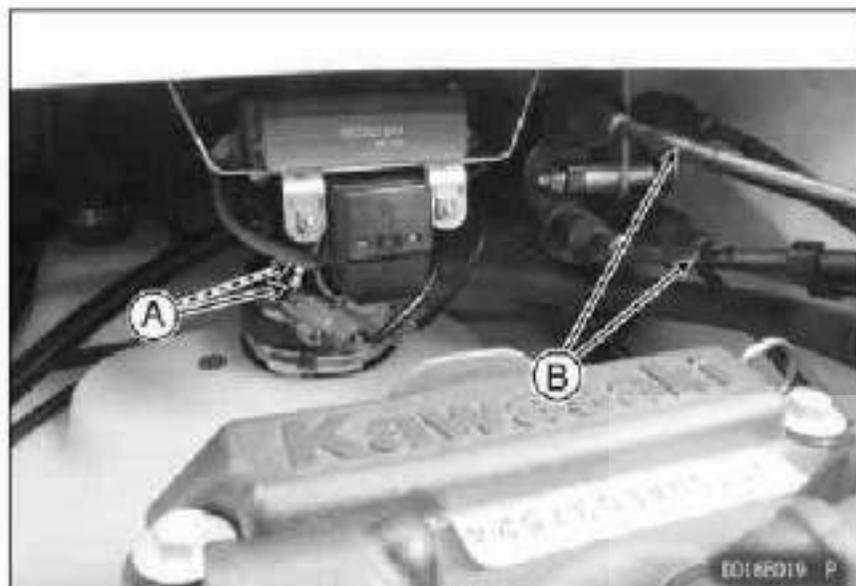
警告

スパークプラグ穴から水とガソリンの混合物が勢よく噴出する恐れがあります。水とガソリンの混合物が目に入ると目を傷める可能性があります。目の負傷を避けるため、この作業中はエンジンの上にかがみこまないでください。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

- 11. プラグ穴から水が出てこない場合は、スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグとプラグキャップを取り付けます。
- 12. イグニションコイルの一次側イグニションコイルコネクタ（2個）を接続します。

要点

- 2と3のマークがついたスパークプラグコードからのコネクタと、2と3のマークがついたリード線のコネクタを接続します。そして、残ったコネクタを接続します。
- コネクタを接続する前に良質の耐水グリースを塗布します。



- A. 2と3のマーク (リード線)
- B. 2と3のマーク (スパークプラグコード)

13. スタータボタンを押してエンジンを始動させます。但し、15秒以上運転しないようにしてください。

注意

冷却水の供給なしにエンジンを15秒以上、特に高回転で運転させると、エンジンや排気系統に重大な損傷を与えます。エンジンの損傷を避けるため、十分な冷却水の供給がない状態でエンジンを運転しないでください。

14. オイルレベル計測ゲージを引抜いてオイルの中に水が混入しているか調べます。(混入していれば、オイルが白濁します。)
15. オイルが白濁しておれば新しいオイルと入替えてください。その上で上記項目13と14の作

業内容をオイルが白濁しなくなるまで繰り返してください。

16. もし、エンジンが始動しないようであれば燃料の中に水が混入した可能性があります。
17. もし、燃料タンクの中に水が混入しておればポンプかサイホンで燃料を抜き取り、新しい燃料を入れてください。抜き取った燃料は指定された方法以外で廃棄しないでください。

警告

燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。エンジンプラグコード(緊急エンジン停止用のコード)キーをストップボタンから抜き、換気が良く、火気がない場所で作業してください。作業場では禁煙し、パイロットランプ付きの電気製品も用いないでください。

要点

- 油脂類の廃液は法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「ジェットスキーARK」に相談してください。
 - 繰り返し燃料によるトラブルが起きる場合は、水分を排出するため燃料系統の掃除が要求されます。「ジェットスキーARK」に相談してください。
18. シートを復旧し確実にラッチをロックします。
 19. 船尾のドレンプラグを取り付け確実に締め付けます
 20. 最後にウォータクラフトを水上に戻し、10分以上走らせて残っている水を完全に除去し、塩などの異物を排気口から排出します。

要点

- 上記の作業が困難と思われる時は「ジェットスキーARK」に相談してください。

航走終了後の手入れ

注意

ウォータクラフトは、長時間水上に停泊するように設計されていません。長時間水上に停泊させると、船体塗装の浮きやはがれの原因になります。また、ジェットポンプの金属部の電解腐蝕を招き、寿命を縮める原因にもなります。ウォータクラフトは、昼夜を通した停泊を避け、1日の使用が終わるたびに陸上に引き揚げてください。これにより、塗装の傷みや電解腐食を防ぎ、外観をきれいに保ちます。

第1:排気系統の水抜き

- ウォータクラフトを水から引き揚げます。
- 余分な水を排気系統から出すためにエンジンを始動し、数秒間回転させます。排気口から水が出なくなるまで、繰り返しエンジンを吹かしてください。

注意

冷却水の供給なしにエンジンを15秒以上、特に高回転で運転させると、エンジンや排気系統に重大な損傷を与えます。エンジンの損傷を避けるため、十分な冷却水の供給がない状態でエンジンを運転しないでください。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄してください。（「整備と調整」の章

の「冷却システムの洗浄」の項参照。)これは、塩の固着による冷却システムの詰まりを防ぐのに役立ちます。

第2: エンジンルームの清掃

- シートを取り外します。
- エンジンルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外して水を出してください。排水後、ドレンプラグをしっかり締めます。
- 海上でウォータクラフトを使用した場合はエンジンルーム内部を清水であらいます。

注意

水洗いする時は電気部品に水を掛けないように、また、エンジン前方のエアインテークボックスに水が入らないよう注意してください。エアインテークボックスに水が入ると、水がエンジンに入りエンジンを損傷する恐れがあります。また、水により電気部品が損傷する恐れがあります。

- ウォータクラフトを一週間以上使用しない時は、エンジン各部の発錆を防ぐため、防錆剤を塗布します。
- ウォータクラフトを2週間以上使用しない時は、バッテリーを取り外し、充電器を使って充電します。「整備と調整」の章の「バッテリー」の項を参照ください。
- エンジンルームを拭いて乾かし、シートを取り付けます。

- ウォータクラフトを保管する場合は、エンジンルームの換気ができ、また、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に木片等をおいて、隙間をあけておきます。

第3: 船体外部の清掃

- 船外、デッキ、給水口および推進装置を清水で洗います。

特殊な手入れ

インペラの清掃

時折、海藻や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に除去する必要があります。

- エンジンを止め、ウォータクラフトを水から引き揚げます。

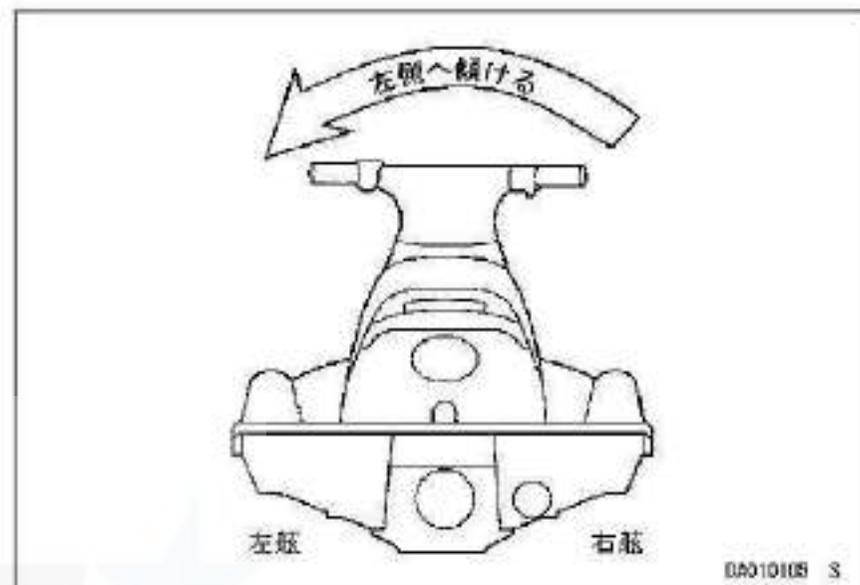
警告

ジェットポンプ内部には回転する部品がありますので、それに触れると怪我をする可能性があります。怪我を避けるため、エンジン運転中は内部のごみや異物を取り除かないでください。エンジンを止め、エンジンストップコード(緊急エンジン停止用のコード)キーをストップボタンから抜いてから、ポンプ内部を点検してください。

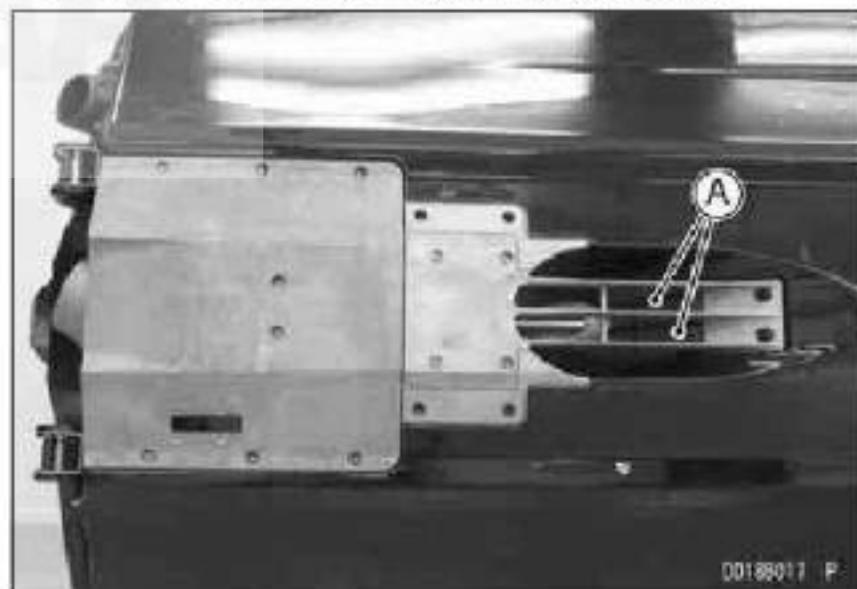
- コードキーを抜きます。
- タオルかパッドをウォータクラフトの横におきます。
- ウォータクラフトを左側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子およびカバーを取り外してください。

注意

ウォータクラフトは必ず左側に傾けてください。右側に傾けると、排気系統内の水がエンジン内に入り、エンジン損傷の原因になります。



- 吸水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプロ、ステアリングノズルから海藻やゴミを取り除きます。



A. 吸水口

注意

ポンプおよびポンプ周辺にゴミや海藻がないことを確認してください。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトにネジロックを付けてしっかりと締めます。

ボルト締付トルク: 7.8 N·m (0.80 kgf·m)

汚れたスパークプラグの清掃

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドル速度や長時間のアイドル運転をした場合等です。また、燃料に水が混じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けてください。汚れたスパークプラグはプラグクリーナーで清掃してください。また、水の付いたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。

スパークプラグ締付トルク:

13 N·m (1.3 kgf·m)

- スロットルレバーをほんの少し開いて、エンジンを始動します。

ウォータクラフトのえい航

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合には、ウォータクラフトをえい航

してもらうことができます。6 mのえい航用ローブの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ボートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8 km/h以上のスピードを出さないでください。

注意

このえい航要領は重要ですから必ず守ってください。そうしないとエンジンルームに浸水し、ウォータクラフトの一部が沈むことがあります。

ジャンプコードによる始動

バッテリーが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができないときは、他のウォータクラフト等の正常なバッテリーとジャンプコードを使って始動することができます。その場合、ウォータクラフトのバッテリーと同じ電圧 (12 V) のものを使用してください。

⚠ 危険

バッテリーから発生する水素ガスは、引火爆発の可能性があります。水素ガスは常時バッテリー内にあり、完全放電していても残っています。火気や火花をバッテリーから遠ざけてください。

バッテリー液に含まれている硫酸が付着すると失明や火傷の恐れがあります。目や皮膚に付かないよう保護眼鏡や手袋を着用してください。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、目の場合は専門医の診断を受けてください。

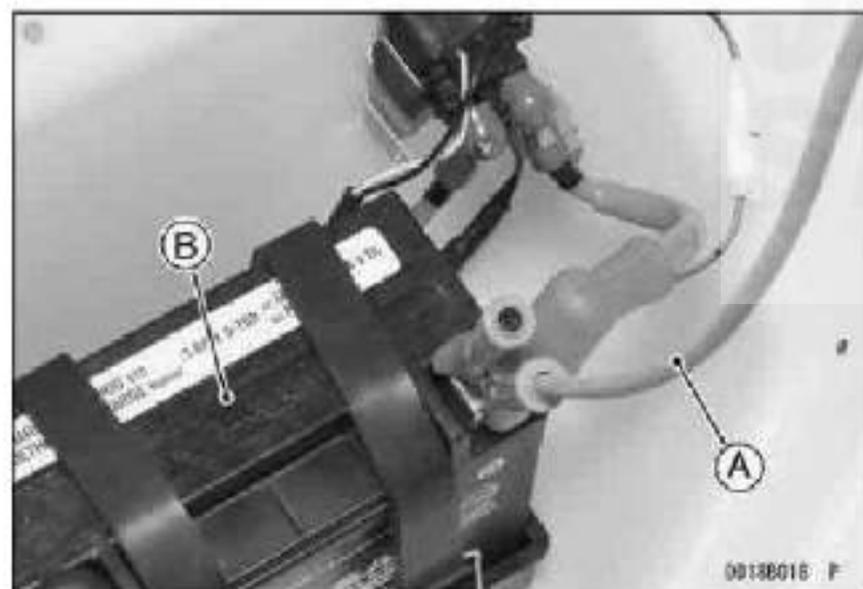
- イグニッションキーを抜きます。

94 操縦方法

- シートを外します。
- 備品入れふたを開け、そして備品入れケースを取り外します。
- バッテリー格納スペースのカバーを取り外します。
- 両方のバッテリーの (+) ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリーの (-) ターミナルに接続します。

注意

バッテリーを反対の極[(+)から(-)]へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



- A. (+) コード
- B. バッテリー

- もう一方の端をエキゾーストパイプのボルトに接続します。



- A. (-) コード
- B. エキゾーストパイプ

⚠ 危険

バッテリーから発生する水素ガスは、引火爆発の可能性がります。バッテリー液に含まれている硫酸が付着すると失明や火傷の恐れがります。バッテリーの(+)ターミナルと(-)ターミナルを接続しないでください。最後の接続をスロットルボディ、インジェクタやバッテリーにしないでください。最後の作業をするときは、バッテリーの上に体を通り出さないでください。また、凍結したバッテリーをジャンプコードで始動させないでください。爆発する可能性があります。

注意

5秒間以上連続してスタータを回さないでください。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、再度回してください。

- エンジンを始動させた後、上記の逆の順序でジャンプコードを取り外してください。

エンジンのオーバーヒート

このウォータクラフトには、冷却水およびエンジンオイルの温度センサが設けられています。エンジンがオーバーヒートしたときには赤色警告灯が点灯しブザーがなります。

さらに原因によって、水温シンボルおよびスピードメータの隣の“HEAt”文字が点滅するか、または油温シンボルおよび“OILH”, “OILt”文字が点滅します。

同時にエンジン回転が自動的に3 000 rpm以下に制御されます。

- 赤色警告灯が点灯し、水温シンボル、油温シンボル、および“HEAt”, “OILt”または“OILH”文字が点滅してウォータクラフトのスピードが落ちたときは、直ちに岸に戻って、冷却水系統に詰まりがないか、エンジンオイルの量は十分か点検してください。それ以外の原因の場合には「ジェットスキーARK」へ相談ください。

注意

エンジンがオーバーヒートすると赤色警告灯が点灯し、水温シンボル、“HEAt”文字が点滅、もしくは油温シンボル、“OILH”文字が点滅してエンジンの回転がさがります。直ちに岸へ戻り、冷却系統、エンジンオイルを点検してください。

エンジンの損傷を防ぐため、オーバーヒートの原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを操縦しないでください。

運搬

- ウォータクラフトをトレーラ等でけん引するときは、けん引に関する諸法規、規則を必ず守ってください。
- ウォータクラフトの重量と形状に合ったトレーラを使用してください。不適格なトレーラで運搬することは安全面で問題があります。
- トレーラの上でウォータクラフトが動かないようにしっかり固定してください。

注意

シート後方のハンドレールやけん引フックに船体固定用ベルト等をかけてしばりつけたりすると、ハンドレール／けん引フックあるいはハルが破損する恐れがあります。

ハンドレールやけん引フックに船体固定用ベルトをかけないでください。

ウォータクラフトを運搬した後ではエンジンをかける前に備品入れおよびシートを取り外して数分間換気をしてください。（「シートラッチ」と「備品入れ」の項参照。）

警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンを始動する前にシートを取り外して数分間換気してください。

保管

冬の間や、一ヶ月以上の長時間ウォータクラフトを使用しないときは、適切な保管が必要です。無くなった部品がないか点検し、摩耗した部品を交換したり、防錆のために各部への注油、潤滑をします。次回ウォータクラフトを最良のコンディションで使用できるよう準備をしておきます。「ジェットスキーARK」でしてもらうか、または次の事項を実施してください。

要点

- 個人用ウォータクラフト“ジェットスキー”は長期間水中に置いておくようにはなっていません。長期間水にさらすと、船体の塗装のバブルやはくりの原因になります。また、ジェットポンプの金属の電解腐食を招きます。塗装の損傷と電解腐食を防ぐために、ウォータクラフト“ジェットスキー”を使用したらその日のうちに水中から引き揚げてください。翌日まで水中に放置しないでください。ウォータクラフト“ジェットスキー”は使用する毎に水中から引き揚げるようにすると、より寿命が長くなり、よりきれいな外観を保てます。

保管する前の作業

冷却系統

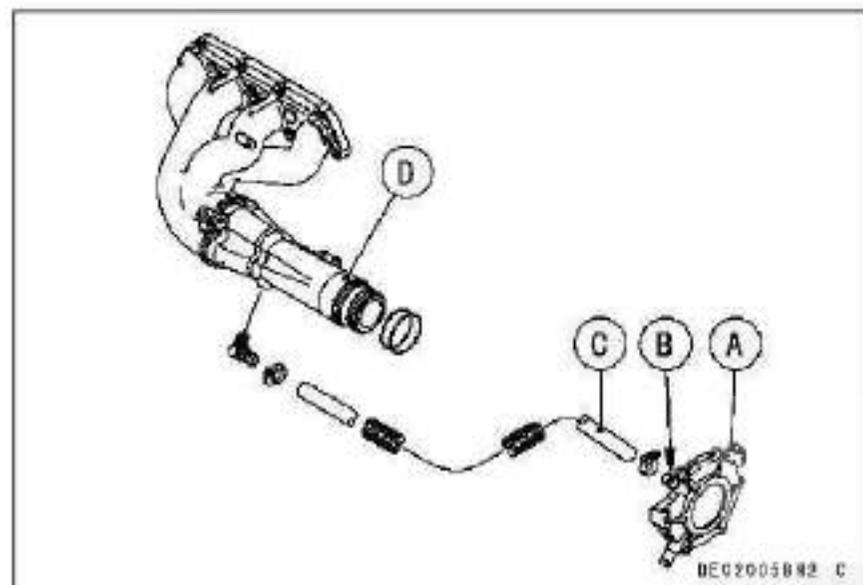
- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）
- 気温が氷点下になる可能性のある地域でウォータクラフトを保管する場合は以下の作業をしてください。

排気系統内の残水の排水

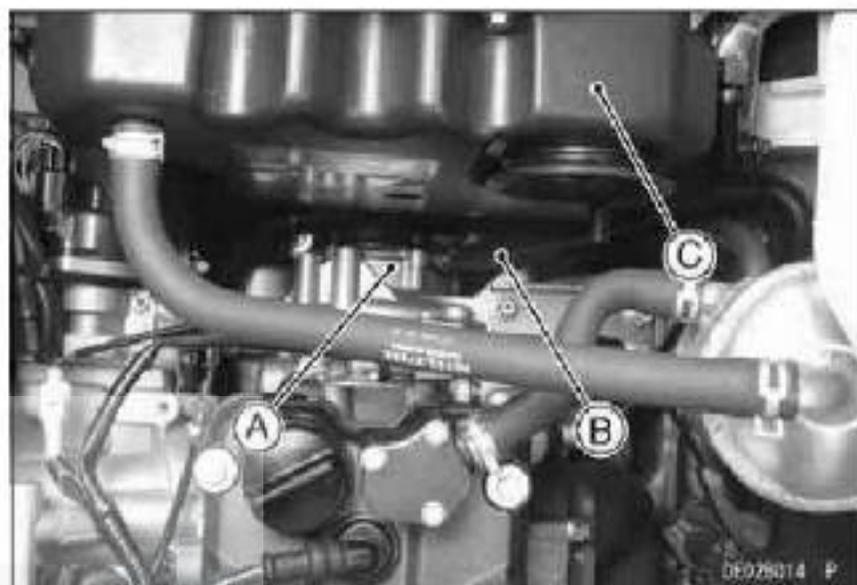
注意

冷却系統を洗浄した後、排気系統内の残水を排水してください。寒冷時、排気系統内の残水が凍結し排気パイプを損傷することがあります。

- 洗浄後、エンジン後部のアウトプットカバー上に接続している冷却水ホースを取外し、そのホース端部をエンジンルーム内の低い位置に導き排気パイプ内の残水を排水します。



- A. エンジンアウトプットカバー
- B. ホース接続金物
- C. 冷却水ホース
- D. 排気パイプ



- A. エンジンアウトプットカバー
- B. 冷却水ホース
- C. エアフィルターボックス

- 排水後、冷却ホースをアウトプットカバー上の接続ホースフィッティングに接続し、確実に締め付けます。

注意

ホースは確実にホースフィッティングに接続してください。運転中、ホースが外れると冷却水でエンジンルームが浸水します。もし、この作業を行うのに不安がある場合は、「ジェットスキーARK」に相談してください。

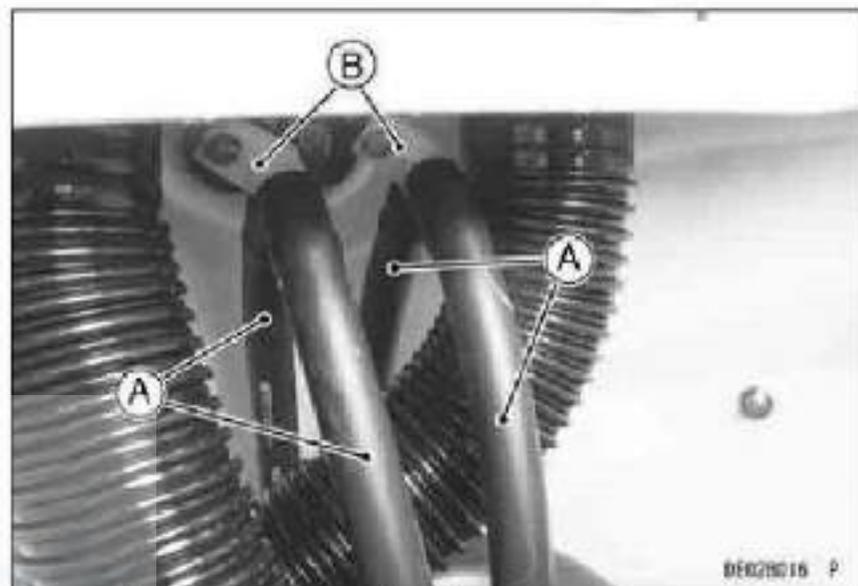
ビルジ系統

- ハンドレールプレートを取り外すため、ナットとボルトを外してください。



- A. ナット
- B. ボルト
- C. ハンドレールプレート

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）このとき、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧搾空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出してください。



- A. 両方のホースに空気を吹き込む。
- B. ブリーザ

エンジンオイル

- エンジンオイルを入替えます。（「整備と調整」の章の「エンジンオイル系統」の項を参照。）

燃料系統とエンジン

- エンジンルームを水洗いし、船尾のドレインプラグを外して水を抜きます。エンジンルームに水が残っていれば拭きとります。

警告

燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。エンジンストップコード(緊急エンジン停止用のコード)キーをストップボタンから抜き、換気が良く、火気がない場所で作業してください。作業場では禁煙し、パイロットランプ付きの電気製品も用いないでください。

- 燃料タンクの底の燃料と水とが燃料注入口の方にいくよう船尾を少し上にあげ、サイフォンまたはポンプで燃料タンクからそれらを完全に抜きます。

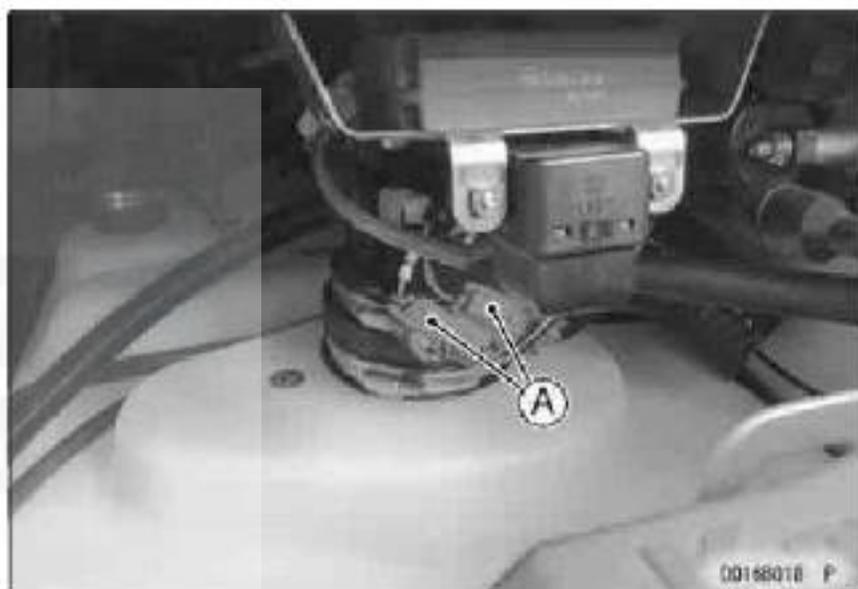
要点

- 油脂類の廃液は法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「ジェットスキーARK」に相談してください。
- 約10 Lの新しい燃料を燃料タンクに入れます。
- イグニションスイッチを“ON”にします。
- エンジンストップコード(緊急エンジン停止用のコード)キーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、燃料系統内の燃料が新しい燃料と入替るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。

注意

冷却水の供給なしにエンジンを15秒以上、特に高回転で運転させると、エンジンや排気系統に重大な損傷を与えます。エンジンの損傷を避けるため、十分な冷却水の供給がない状態でエンジンを運転しないでください。

- 燃料タンクから先に述べた方法で燃料を抜きます。
- タンク内の結露を防ぐため、燃料注入口キャップを緩めておきます。
- エンジンの前方右側にある一次側イグニションケーブルの二つのイグニションコイルコネクタをはずします。



A. イグニションコイルコネクタ

- スパークプラグを取り外します。
- 各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- スタートボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

警告

スパークプラグ穴から防錆剤が勢いよく噴出する恐れがあります。防錆剤が目に入ると目を傷める可能性があります。目の負傷を避けるため、この作業中はエンジンの上にかがみこまないでください。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者診察を受けてください。

- スパークプラグに浸透性防錆剤をスプレーし、シリンダーヘッドに取り付けます。

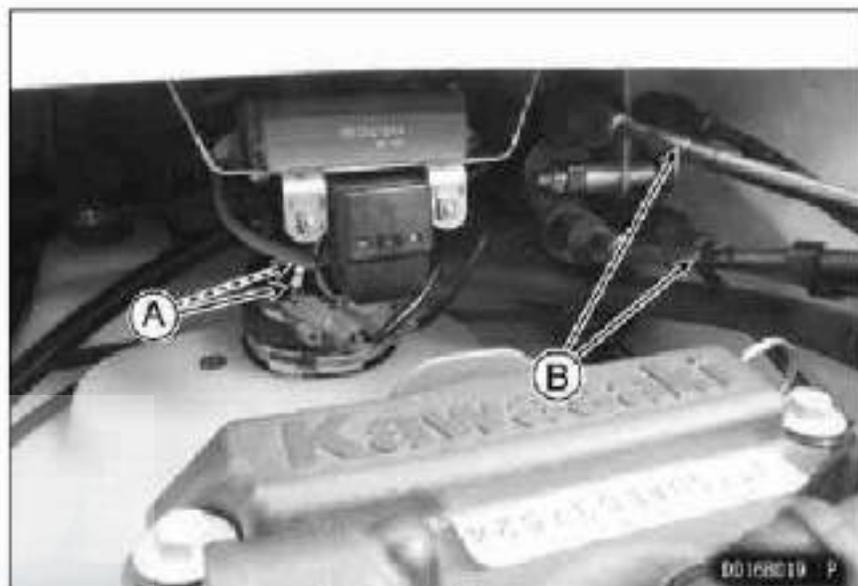
スパークプラグ締付トルク:

13 N·m (1.3 kgf·m)

- コードキーをストップボタンから抜き、イグニションスイッチを“OFF”にします。
- プラグキャップを取り付けます。
- イグニションコイルの一次側ケーブルのコネクター（2個）を接続します。

要点

- 2と3のマークがついたスパークプラグコードからのコネクターと、2と3のマークがついたリード線のコネクターを接続します。そして、残ったコネクターを接続します。
- コネクターを接続する前に良質の耐水グリースを塗布します。



- A. 2と3のマーク（リード線）
- B. 2と3のマーク（スパークプラグコード）

バッテリー

- バッテリーを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリー」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意

密封栓は絶対に取り外さないでください。バッテリーが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリーを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかないでください。また、保管中は大体月に1回充電してください。

102 保管

エンジン取り付けブラケット用ボルト

- エンジン前部のエンジン取り付けブラケット用ボルトを規定のトルクで締め付けます。

要点

- この作業には特殊な工具が必要なので「ジェットスキーARK」で実施をしてください。

ジェットポンプベアリング/シール

注意

ジェットポンプベアリングとシールは定期的に整備してください。整備が不十分な場合、ジェットポンプベアリングが破損し、エンジンの重大な損傷の原因となります。

ジェットポンプベアリングとシールは、最初の25時間後、以降は50時間毎または毎年1回のどちらか早い時期に「ジェットスキーARK」で定期点検を受けてください。また、長期間保管する前に、ジェットポンプベアリングの整備を実施し、ジェットポンプ内に残った水を抜いてください。水がポンプ内に残っていると、ジェットポンプベアリングが腐食したり、早期破損の原因になります。

洗浄

- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かします。

注意

ウォータクラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用してください。強力な溶剤は化学作用で塗装表面を変色させることがあります。

- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレします。
- 適当な換気が行われ、結露を防ぐためにシートを外しておくか、またはシートの下に10 mm位の木片等をおいて隙間をあけておきます。
- ウォータクラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

注意

ウォータクラフトを外に保管すると、シート両側のデッキに水がたまり、その水は塗装のバブルやはくり、更にはデッキマットのはくりの原因になります。もし、ウォータクラフトをトレーラに載せたまま保管する場合は、デッキの水が流出するように船首を上げておいてください。

つや消し塗装:

中性洗剤と水を使って、汚れを落としてください。塗装面は強く擦ると、つや消しの塗装面につやが出るおそれがあります。不明な場合は、「ジェットスキーARK」にご相談ください。

潤滑

- すべての推奨潤滑方法を実施してください。
(「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。)

⚠ 危険

排気ガスには、無色無臭の有毒ガスである一酸化炭素が含まれている。排気ガスを吸い込むと、意識不明になったり、死亡したりするおそれがある。閉め切った場所でエンジンを運転しないでください。換気の良い場所で作業してください。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料、オイルおよび排気ガス漏れを点検してください。漏れがあれば必ず修理してください。

注意

冷却水の供給なしにエンジンを15秒以上、特に高回転で運転させると、エンジンや排気系統に重大な損傷を与えます。エンジンの損傷を避けるため、十分な冷却水の供給がない状態でエンジンを運転しないでください。

- シートを取り付け、ラッチをロックします。

JET★
STAR

整備と調整

定期点検整備表

要点

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施してください。

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間 毎
すべてのホース、ホースクランプ、ナット、ボルトおよびファスナを点検する。		●	●		
※ ジェットポンプベアリングとシールを潤滑する。 ベアリング/シールを点検し、必要ならば交換する。		初回は25時間航走時または1年のどちらか早い方、以後は50時間航走毎または1年毎のどちらか早い方			
スロットルボディ部のスロットルボディケーブル取付部を潤滑する。			●		
スロットルコントロールケーブルおよびスロットルレバーのケーブル取付部を潤滑する。			●		
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。			●		
ステアリングケーブルジョイント(ステアリングシャフトの下部)、シフトケーブルのボールジョイントと、ステアリングノズル、リバースバケットのピボットを潤滑する。			●		
※ ハンドルパーピボットを潤滑する。			●		
※ 燃料ポンプスクリーンを清掃する。			●		

106 整備と調整

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間 毎
※ 燃料ベントチェックバルブを点検する。			●		
スロットルコントロール系統を点検する。			●		
※ バルブクリアランスを点検調整する。					●
エアフィルタのドレンプラグを点検清掃する。			●		
エンジンオイルを交換する。			● (1)		
エンジンオイルフィルタを交換する。					●
※ エンジン取り付けボルトを点検・締める				● (1)	
ビルジ系統およびフィルタを洗浄する。			●		
冷却系統を洗浄する(海上で操縦したときは使用後毎回)。			●		
※ インペラのブレードの損傷を点検する。					●
※ カップリングダンパを点検、交換する。					●
※ スロットルシャフトのスプリングを点検する(もし必要ならばスロットルアッセンブリを交換する)。					●
※ ステアリングケーブル、シフトケーブルを点検する。					●
船尾ドレンプラグの損傷を点検する(もし必要ならば交換する)				●	
バッテリーターミナル及び充電状態の点検			●		
※ 燃料ホースを交換する。		5年毎			

- ※ これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取り扱いに熟練していなければ、「ジェットスキー-ARK」で実施してもらってください（サービスマニュアル参照）。
- (1) または毎年1回のどちらか早いほう。

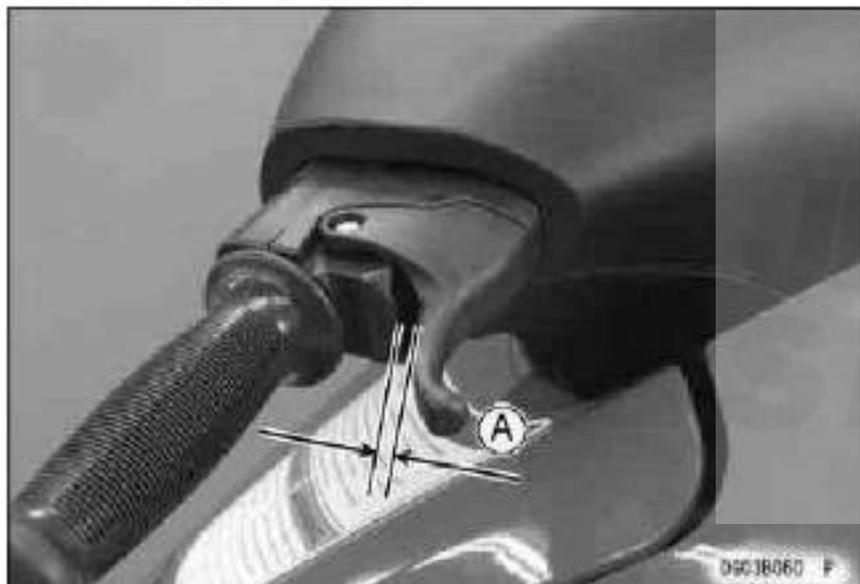


JET★
STAR

コントロールケーブル

スロットルケーブルの調整

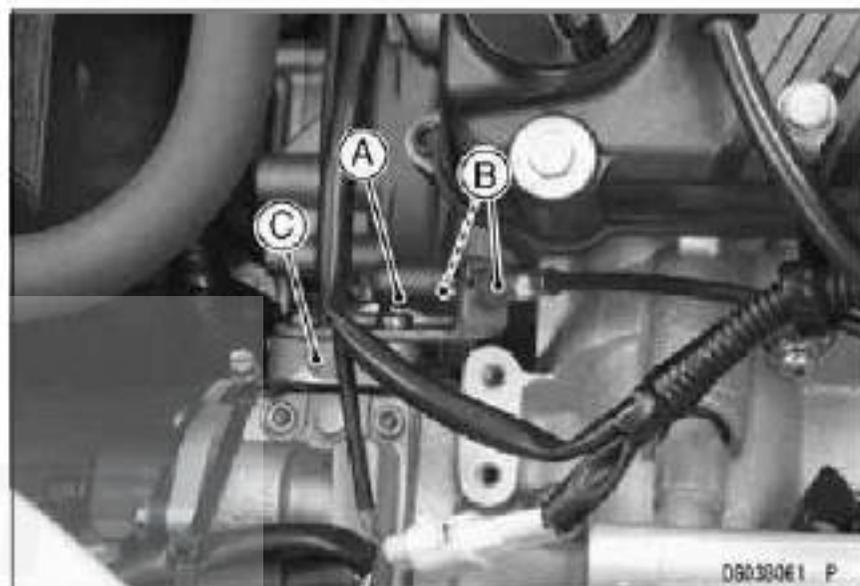
スロットルケーブルには適度の“あそび”が要ります。エンジンの回転が上がり始めるまでのスロットルレバーの動く量を測ります。約2 mmが適当な“あそび”量です。



A. 約2 mm

- スロットルケーブルのエンジン側端部のロックナットを緩め、規定の“あそび”ができるまで

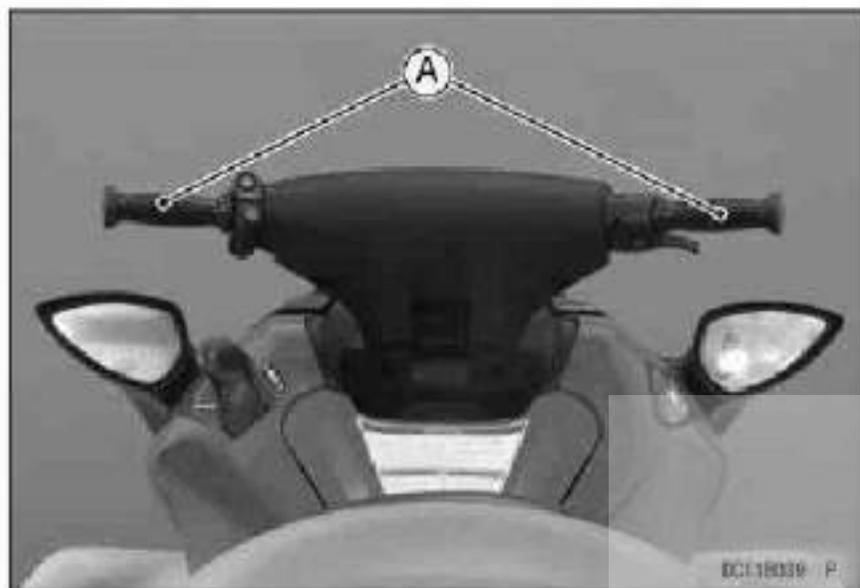
回転・移動させます。調整後はしっかりとロックナットを締めます。



- A. スロットルケーブル
- B. ロックナット
- C. スロットル機構

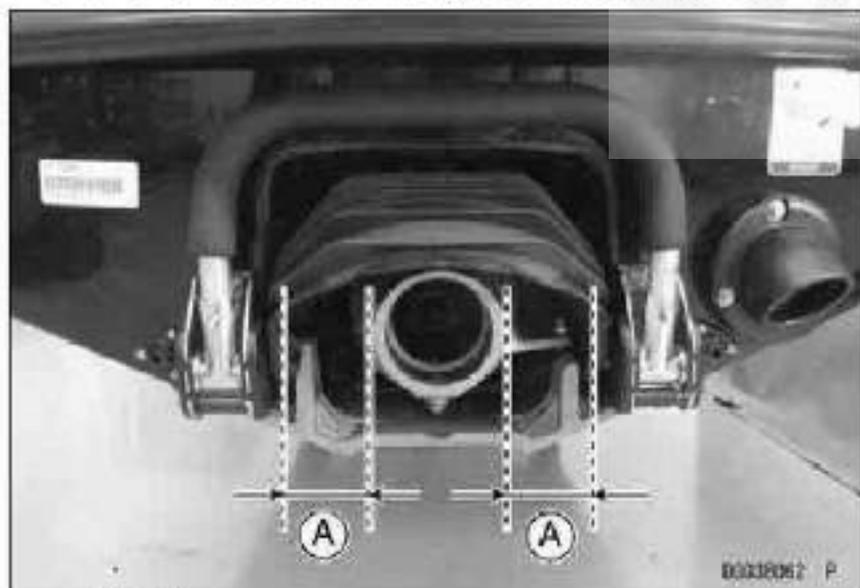
ステアリングケーブルの調整

- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。



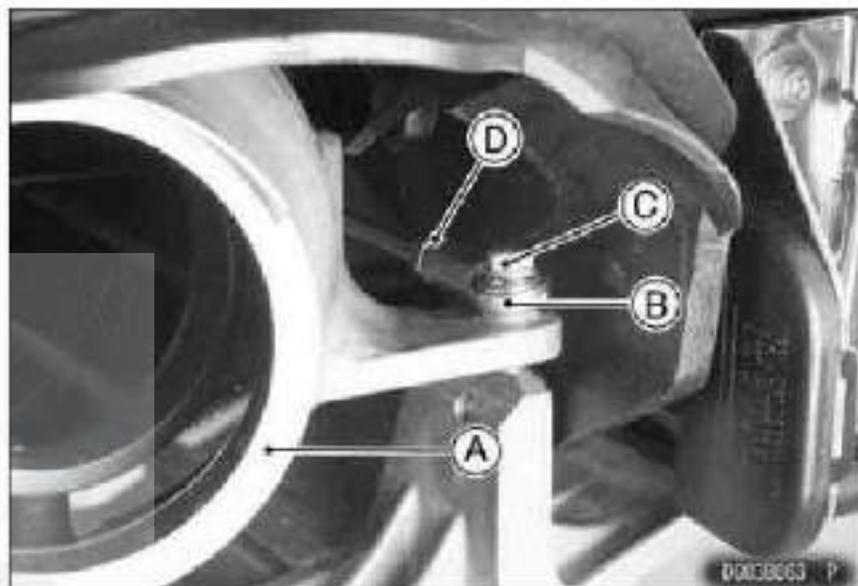
A. ハンドルバー

- ステアリングノズルがリバーズケット取付用ブラケットから同じ距離にあるか点検します。



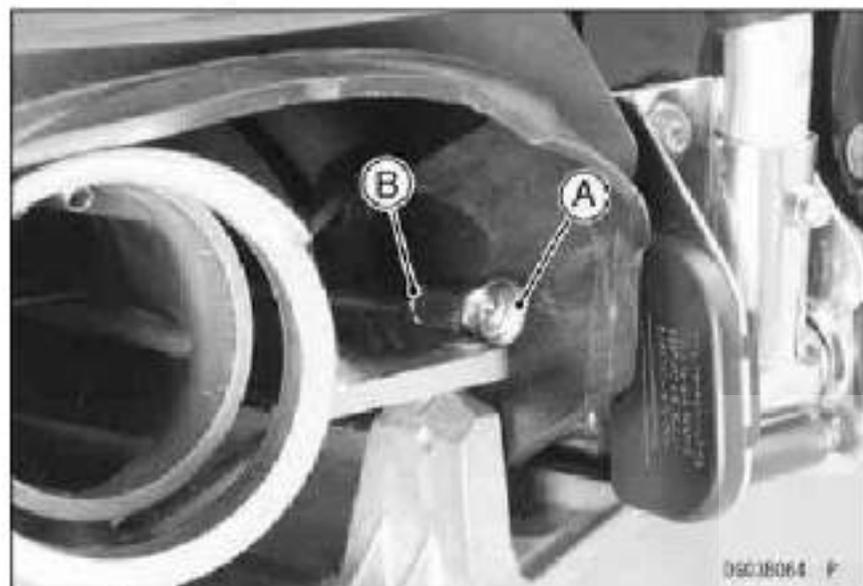
A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル右側のステアリングリングのロックナットを緩めます。



- A. ステアリングノズル
- B. ジョイント
- C. ボルト
- D. ロックナット

- ジョイント部のボルトを外します。
- ハンドルバーをまっすぐ正面に向けます。
- リングのジョイントを回して、ステアリングノズルがノズル室の中央に位置するように調整します。

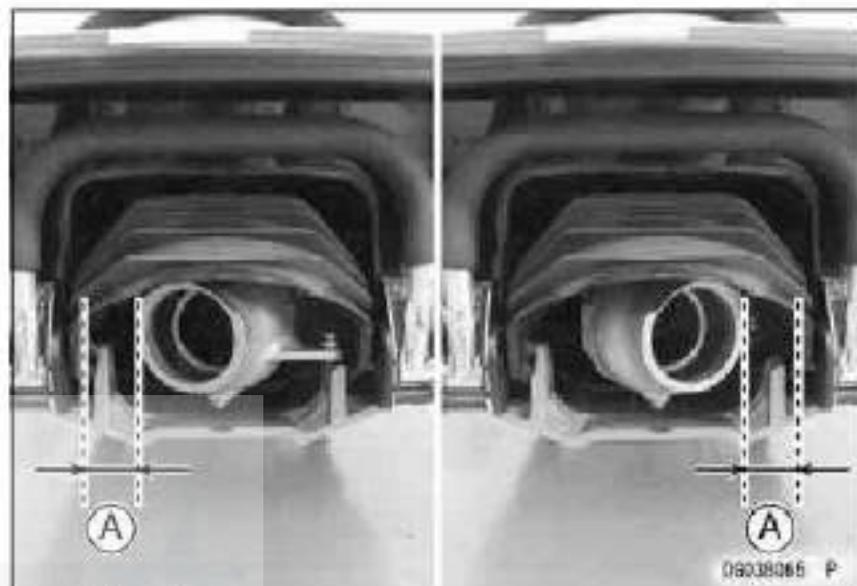


A. ジョイント
B. ロックナット

- ノズルにジョイントを接続し、もう一度ステアリングケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかりと締めます。また、ボルトにネジロックを塗布し、ジョイントをノズルに取り付けます。

ボルト締付トルク: 9.8 N·m (1.0 kgf·m)

- もう一つの点検方法として、ハンドルを左右にいっぱい切ります。ステアリングノズルの左右の端からリバーズパケット用ブラケットまでの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

ステアリングケーブルの点検

ステアリングの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、「ジェットスキーARK」で点検を受けてください。

要点

- ステアリングケーブルの両端はシールされているので、潤滑する必要はありません。

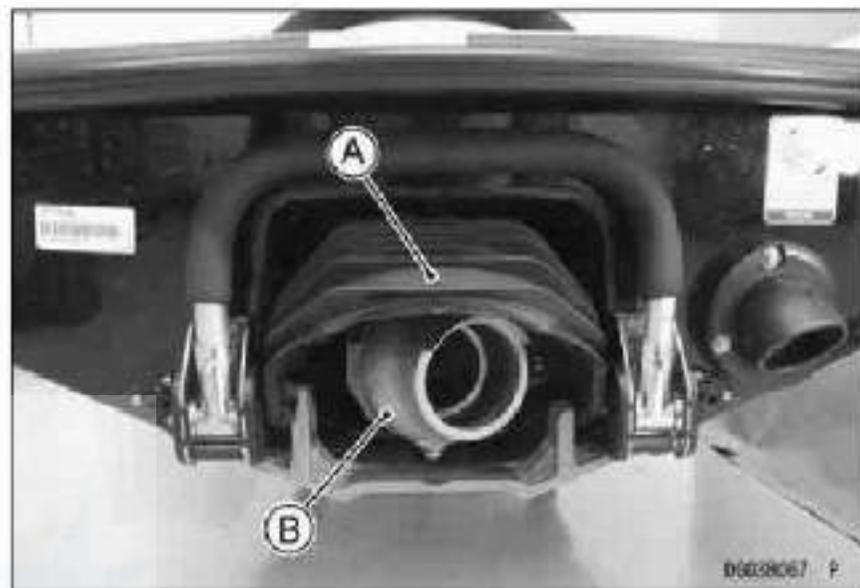
シフトケーブルの調整

- シフトレバーを“F”（前進）の位置に入れます。



A. シフトレバーの“F”（前進）位置

- このとき、スターン（船尾）にあるリバースポケットに少し遊びがあり、手で押し下げてもポケットの下端はステアリングノズルの上端より上に位置します。



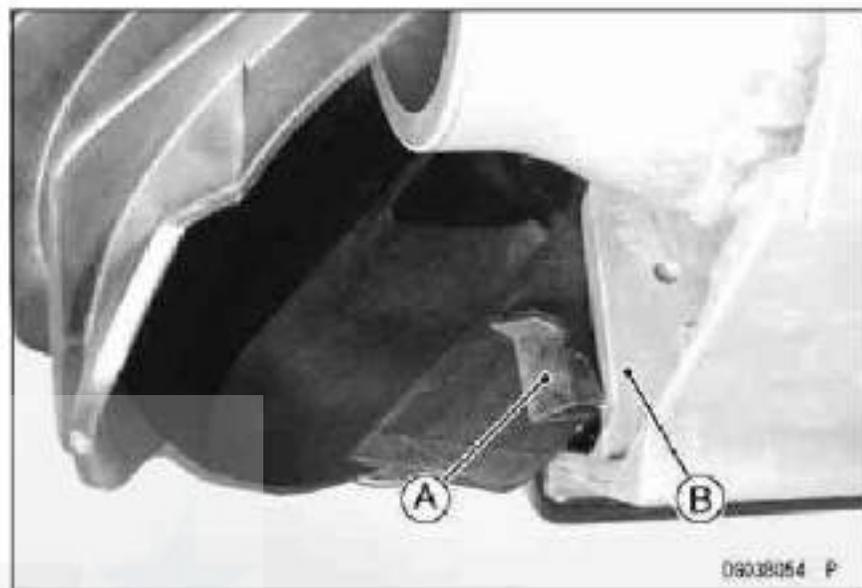
A. リバースポケット
B. ステアリングノズル

- シフトレバーを“R”（後進）の位置に入れます。



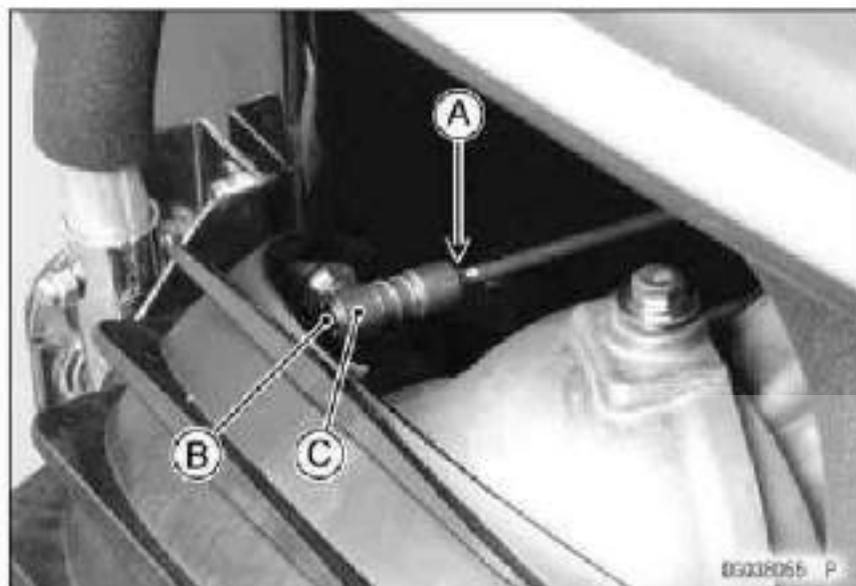
A. シフトレバーの“R”（後進）位置

- このとき、リバースパケットの下端右側のストッパーが、ポンプカバーの底面に当たっています。



- A. ストッパー
- B. ポンプカバー

- もしどちらかでも異なっていれば、シフトケーブルを調整します。
- シフトレバーを“R”（後進）の位置に入れます。
- シフトリンクのボールジョイントのロックナットを緩めます。

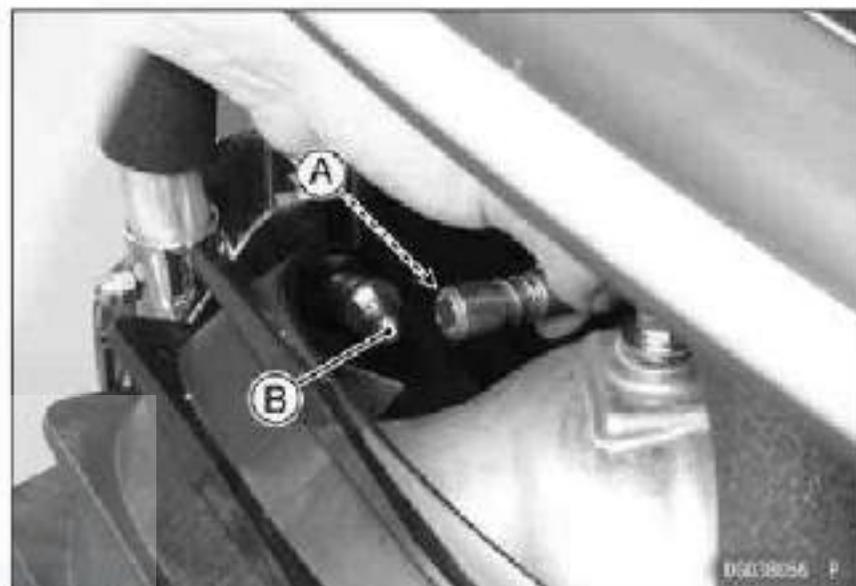


- A. ロックナット
- B. ボールジョイント
- C. スリーブ

- アウタスリーブを少しずらして、ボールからボールジョイントを外します。
- リンクのボールジョイントを回して、シフトレバーが“下”（前進）の位置にあるとき、ポケットに2～3 mmの遊びがあり、手で押し下げてもポケットの下端がノズルの上端より上にあるように調整します。

要点

- ケーブル端部が5 mm以上ジョイントにねじ込まれていることを確認します。



- A. ボールジョイントの穴
- B. ボール

- ボールにボールジョイントを接続し、もう一度シフトケーブルの調整具合を点検します。
- 調整が正しければ、ロックナットをしっかり締めます。

シフトケーブルの点検

シフトケーブルの動きがスムーズでなかったり、ひっかかっているように感じられたときは、「ジェットスキーARK」で点検を受けてください。

要点

- シフトケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

燃料系統

スロットルの調整

アイドリングスピード:

アイドリングスピードの調整は「ジェットスキーARK」で行ってください。もし、アイドリングが不安定になったらスロットルボディを販売店で点検してもらってください。

アイドリングスピード

水上……約1 300 ±100 rpm

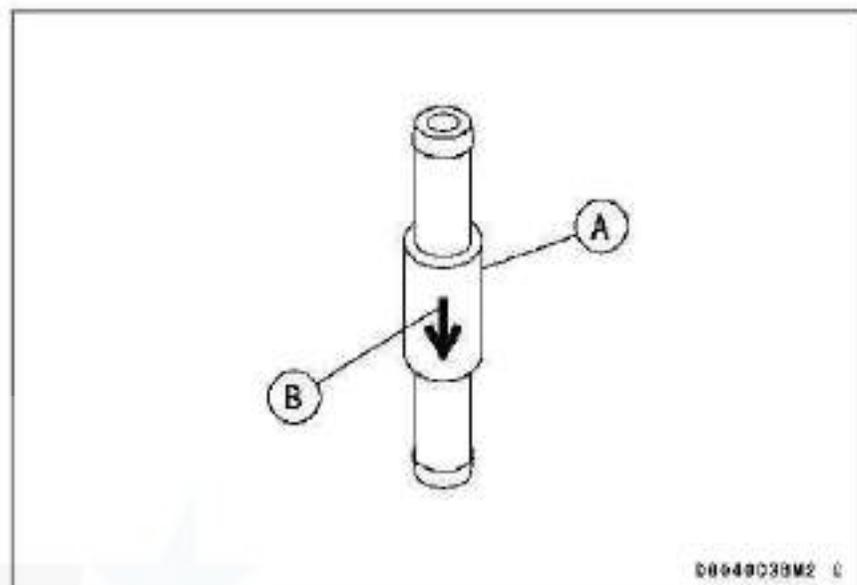
陸上……約1 300 ±100 rpm

高地でウォータクラフトを使用する場合でもECU（電子制御ユニット）が自動的に燃料／空気の混合を調整するため特別な調整は要りません

燃料ベントチェックバルブ

燃料タンクにはベントホースが設けられています。ベントホースの中間にチェックバルブが取り付けられ、ウォータクラフトが転覆したときの燃料流出を少なくし、かつ燃料タンクへ空気が入るようになっています。

「定期点検整備表」の規定に従って、チェックバルブの検査を「ジェットスキーARK」で受けてください。



- A. チェックバルブ
- B. 流れの方向

燃料ポンプスクリーン

ウォータクラフトには燃料系統に汚物や異物が入らないように、燃料ポンプにスクリーンが設けられています。

「定期点検整備表」の規定に従って、スクリーンの検査を「ジェットスキーARK」で清掃してもらってください。

燃料ホース

ゴム部品であるホースは年月がたつと劣化します。長期保管前および長期保管後乗る前には「ジェットスキーARK」で燃料系統の点検を受けてください。

警告

燃料は非常に引火性が強く、一定の条件下では火災や爆発の可能性があります。運転中は燃料ホースには常に高圧がかかっています。そのため劣化による割れやホース接続部に緩みがあるとガソリンが噴出し、火災や爆発の原因となる可能性があります。燃料ホースに異常があるとき、あるいはホース接続部に緩みがあるときはウォータクラフトを運転しないでください。

エンジンオイル系統

エンジンには適量のエンジンオイルを保つことが不可欠です。「定期点検整備表」にしたがってエンジンオイルおよびオイルフィルタを交換してください。エンジンオイルにはごみ等が溜まる他、長時間使用によりオイル自体が劣化します。

エンジンオイルおよびオイルフィルタの交換

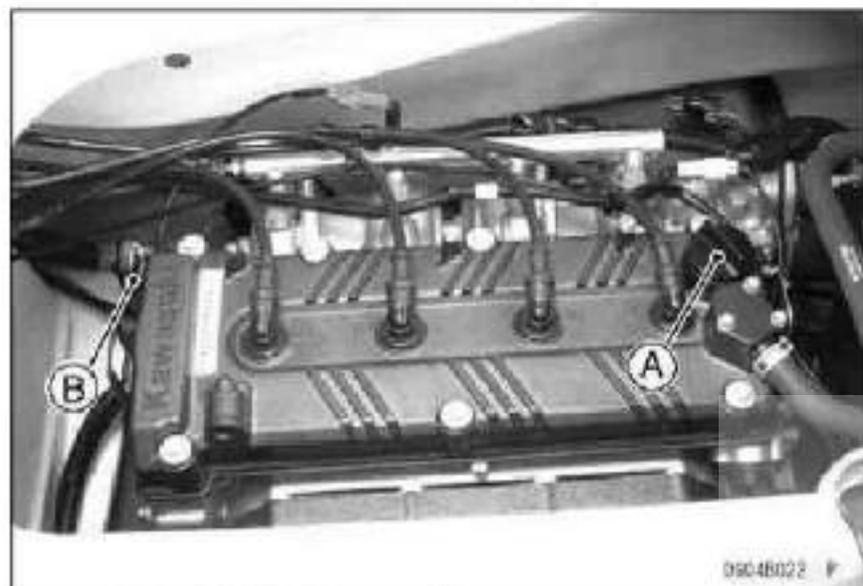
下記の要領にしたがってエンジンオイルおよびオイルフィルタを「定期点検整備表」に記載されている時期に交換してください。

- ウォータクラフトを前後・左右方向に極力水平に据付けます。
- 十分に換気された区画で冷却水を送りながらエンジンを始動します。

注意

エンジンは冷却水を出す前に始動し、エンジンを停止するときは先に冷却水を止めてください。また、冷却水無しではエンジンは15秒以上運転をしないでください。

- エンジンを暖気し、その後停止します。
- オイル注入孔キャップおよびレベル計測ゲージを外します。



A. オイル注入孔キャップ
B. レベル計測ゲージ

注意

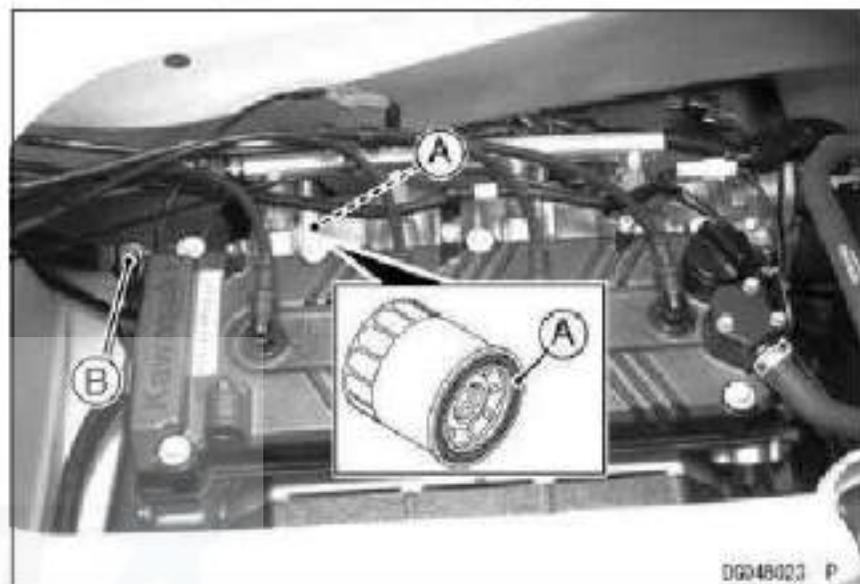
エンジンの中にゴミ等が入ると、エンジンの寿命を縮める可能性があります。エンジンの中にゴミ等が入らないよう注意してください。

- レベル計測ゲージパイプからバキュームポンプ等を利用してオイルを排出します。

要点

- エンジンオイル等の廃液は法令で適切な処置を行うことが義務づけられていますので、「ジェットスキーARK」にご相談ください。
- こぼれ出る油を受けるため、布きれ等を下部に敷きます。

- オイルフィルタを外します。



A. オイルフィルタ
B. レベル計測ゲージ

- オイルフィルタのガスケット部に薄くエンジンオイルを塗り、規定のトルクで締めつけます。

フィルタ締めつけトルク

18 N·m (1.8 kgf·m)

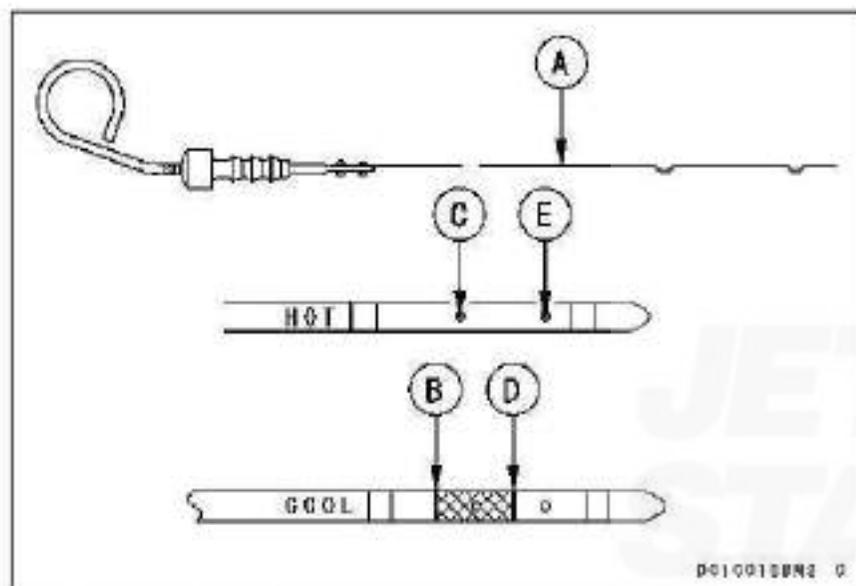
- 下の表に指定されているオイルを計測ゲージの“H”（ハイレベル）の線まで注入します。（冷間用のマークを使用します。）

要点

- オイルを“H”（ハイレベル）以上に入れ過ぎないように注意します。入れ過ぎたらオーバーした分を排出してください。

注意

正しいオイル油面の測定方法については、「一般事項」の章の「エンジンオイル」の節の「エンジンオイルレベルの計測」の項を参照してください。



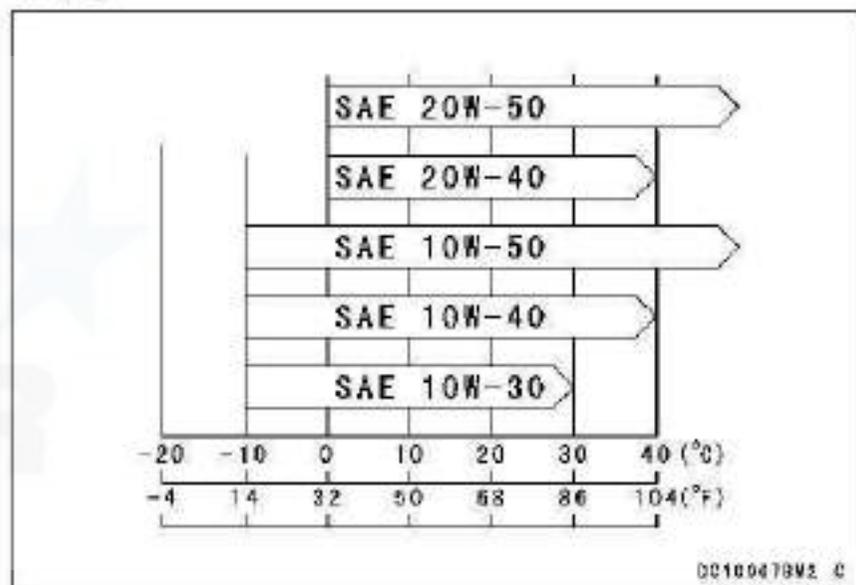
- A. 計測ゲージ
- B. 冷間時の“H” (ハイレベル)
- C. 温間時の“H” (ハイレベル)
- D. 冷間時の“L” (ローレベル)
- E. 温間時の“L” (ローレベル)

タイプ	API SG、SH、SJ、SLまたはSM (JASO MA、MA1またはMA2) SAE10W-40
必要量:	4.0 L (オイルのみ交換時) 4.2 L (オイルフィルタ交換時) 5.0 L (エンジンを完全に空にした時)

要点

- エンジンの性能、耐久性に悪影響を与えることがあるので、エンジンオイルに摩擦を低減させる添加物は加えないでください。

通常10W-40が推奨オイルですが、使用状況によってはオイル粘度を次の表により変える必要があります。



- オイル注入孔キャップおよびレベル計測ゲージをしっかりと締めつけます。
- 冷却水を接続し、供給しながらエンジンを数分間始動します。(冷却水の供給のしかたは本章の「冷却システムの洗浄」の項を参照してください。)

注意

エンジン停止中に冷却水を供給するとシリンダ内に水が入る可能性がある。シリンダ内に水が入った状態でエンジンを始動すると、ハイドロリックロックを起こしてエンジンに重大な損傷を与える。冷却水の供給なしにエンジンを15秒以上、特に高回転で運転させると、エンジンや排気系統に重大な損傷を与える。

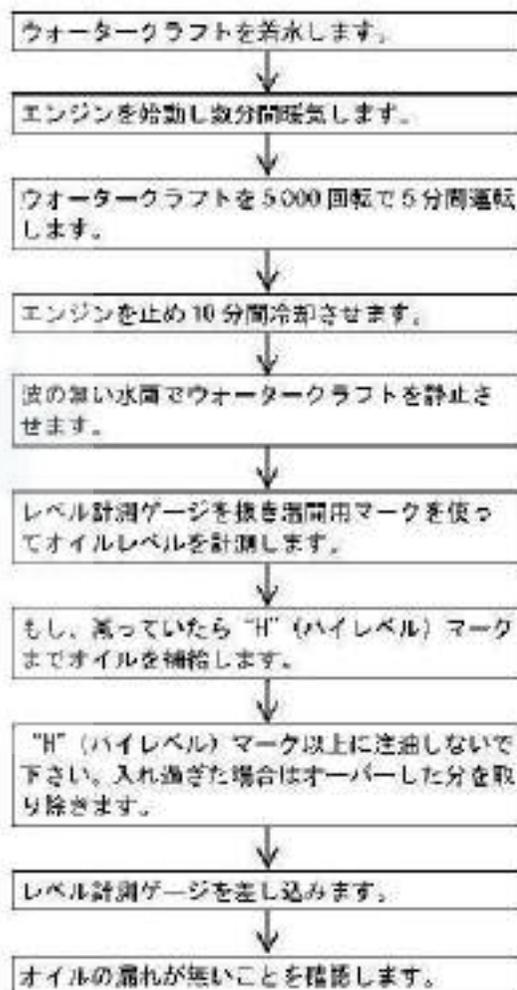
エンジンが損傷しないようにするため、エンジンを始動してから、冷却水を流し始める。冷却水を止めてからエンジンを停止すること。ただし、冷却水がない状態でエンジンを15秒以上回さないこと。

- 再度オイルレベルを計測し、“H”（ハイレベル）と“L”（ローレベル）の間にあることを確認します。
- エンジン室内にオイルの漏れがないか確認します。

要点

- この作業は適切な技術と工具が要ります。必要な時には、「ジェットスキーARK」にご相談ください。

エンジンオイルが注入された後、次に示す手順でオイルレベルを注意深く計測してください。



要点

- ◎ オイルレベルを計測する時に、ウォータクラフトの前後方向のトリムおよび左右方向の傾斜はオイルレベルに大きな影響を与え、正確な計測ができません。計測は搭乗者および荷物がウォータクラフトに載っていない状態で行ってください。また、燃料タンクはフルの状態ですべて計測をしてください。
- ◎ このオイルレベルを水上で計測する方法はオイル量が不足して補給した場合でも行ってください。

バルブクリアランス

バルブクリアランスはバルブやバルブシートの摩耗によって小さくなり、バルブタイミングを不適切にします。

注意

バルブクリアランスの調整をしないとバルブが完全に閉じなくなり、パワーがロスするだけでなく、バルブやバルブシートが焼けてエンジンが損傷するおそれがあります。

- 定期点検表に従ってバルブクリアランスを点検し、調整してください。
- バルブクリアランスの点検と調整は「ジェットスキーARK」で行ってください。

バルブクリアランス

吸入側	0.15 ~ 0.24 mm
排気側	0.22 ~ 0.31 mm

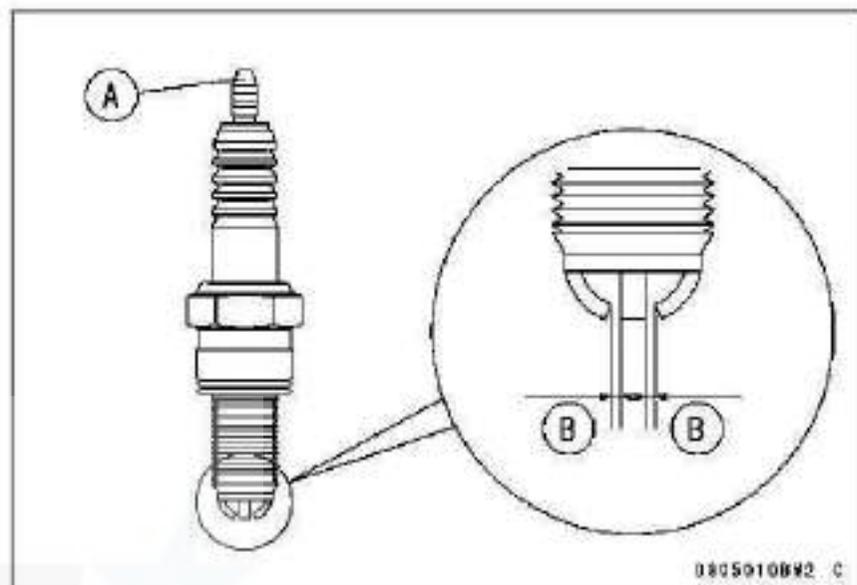
スパークプラグ

「定期点検整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

ウォータクラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンダヘッドの温度は比較的安定しています。従って、エンジンの調子がよく、調整も適切であれば、熱価の異なったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱価のスパークプラグを使用すると、エンジンの広範な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用してください。

標準のスパークプラグ

標準プラグ:	NGK CR9EK
ターミナル(端子):	ねじ型端子
プラグギャップ:	0.7 ~ 0.8 mm
締付トルク:	13 N·m (1.3 kgf·m)



- A. ターミナル
B. プラグギャップ

スパークプラグの検査および交換:

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を検査します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁碍子が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。「トラブルシューティング」の章を参照してください。

注意

過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正してください。

絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物があるときは、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。スロットルコントロールケーブルが正しく調整されているか点検してください。「トラブルシューティング」の章を参照してください。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗浄油で清掃します。ギャップが広がっていれば、調整します。電極が腐食または焼損していれば、プラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷があるときは、いつでもプラグを交換してください。

スパークプラグ締付トルク:

13 N·m (1.3 kgf·m)

スパークプラグの取付け

- スパークプラグをプラグホールへ差込みます。
- 規定トルクでプラグを締め付けます。
- プラグキャップをプラグに取付け、充分差し込みます。

要点

- プラグキャップに過度の荷重が掛からないよう、プラグケーブルがエンジンの中心線に対して直角になるようプラグキャップを取り付けてください。



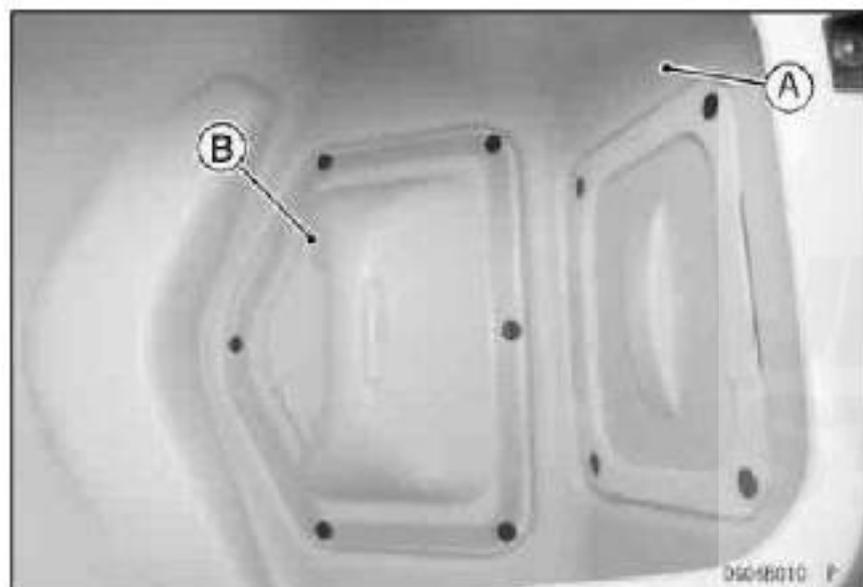
A. プラグキャップ

- 最後にプラグキャップを軽く引っ張って、キャップの取付けが良好であることを確認します。

バッテリー

バッテリーは船首の格納スペースの中にあります。

- 備品入れを取り出して、バッテリー格納スペースのふたを外してください。



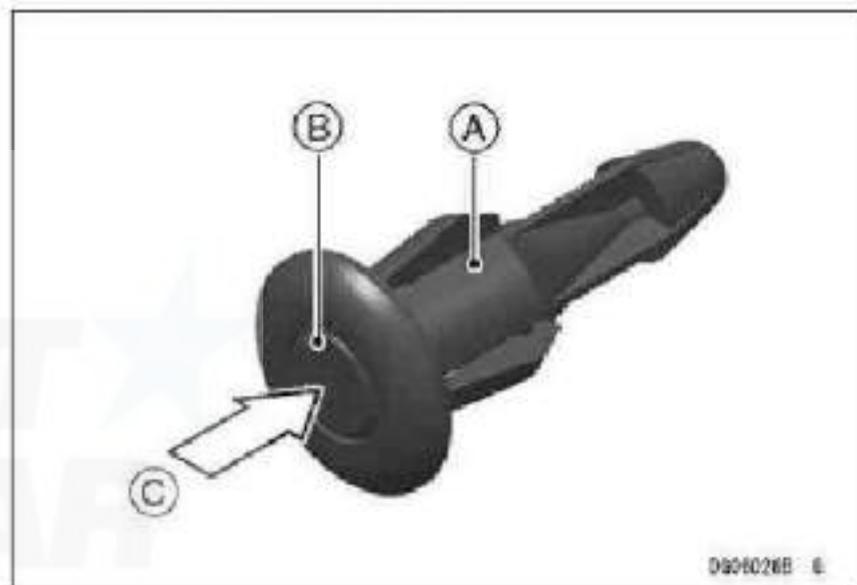
- A. 船首格納スペース
- B. バッテリー格納スペースふた

要点

- バッテリー格納スペースのふたはクイックリベットで止められています。クイックリベットを外すにはリベット

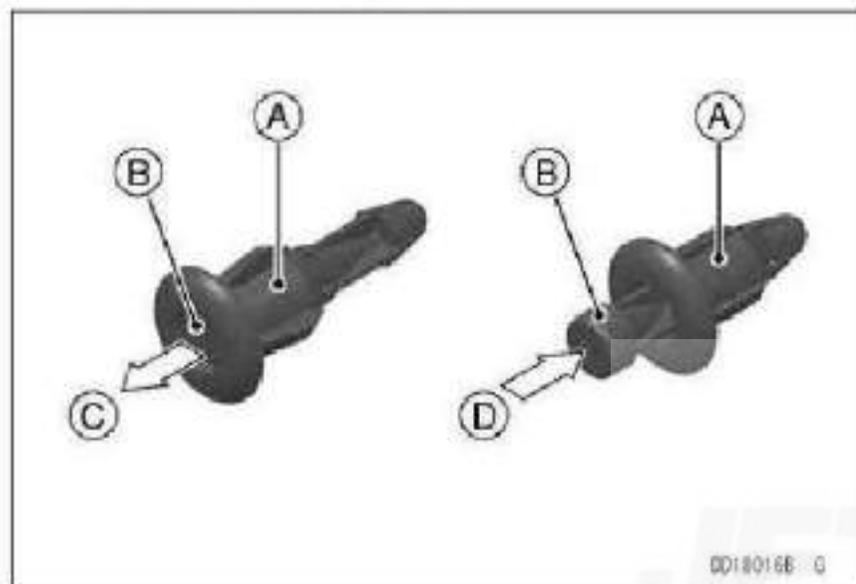
中央のピンを押し込んでください。取り付けるときはまず中央のピンを引っ張り出した状態でリベット本体を取り付け、その後にピンを押し込みます。

クイックリベットの取り外し:



- A. クイックリベット
- B. ピン
- C. ピンを押し込む。

クイックリベットの取り付け:



- A. クイックリベット
- B. ピン
- C. ピンを引っ張り出す。
- D. ピンを押し込む。

このウォータクラフトは密閉型バッテリーを使用しています。従って、バッテリー液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリーにバッテリー液がいったん入れられたら、密封栓を外さないでください。また、このウォータクラフトは、密閉型バッテリーのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリーと交換しないでください。

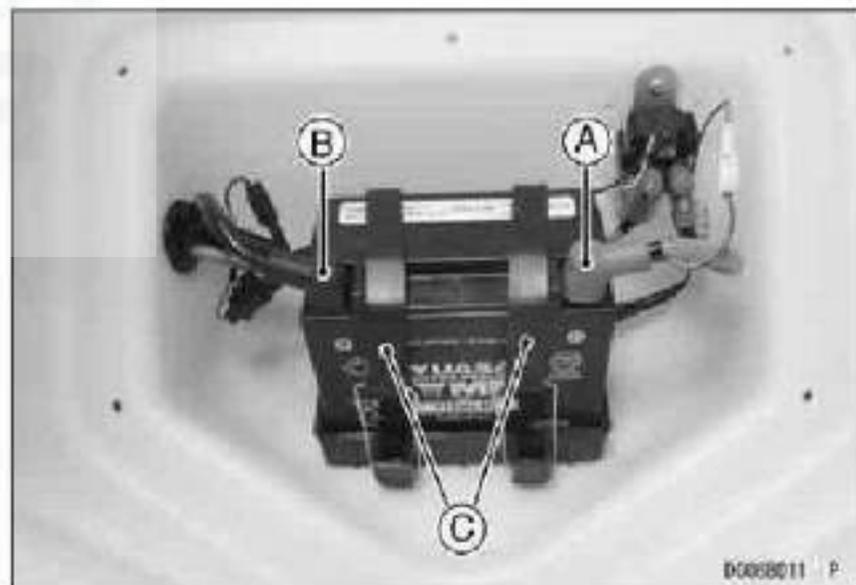
注意

密封栓は絶対に外さないでください。バッテリーが損傷します。
 バッテリーを交換する場合は、必ず同型式のバッテリーをご使用ください。違う型式のバッテリーを使用すると、電気系統が正しく機能しません。
 使用済みのバッテリーを廃却する場合は、「ジェットスキーARK」にご相談ください。

要点

- 密閉型バッテリーを補充電する時は、バッテリーのラベルの指示に必ず従ってください。

バッテリーの取り外し:



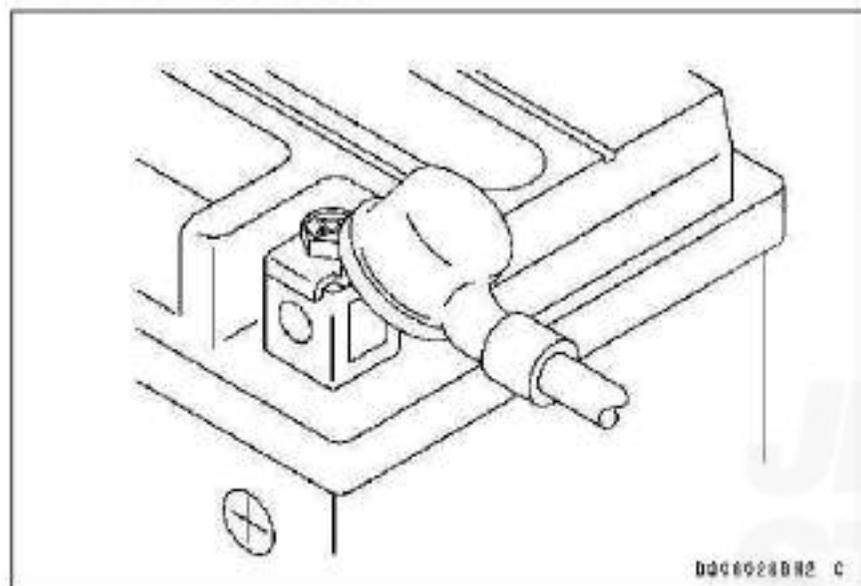
- A. 赤ケーブル
- B. 黒ケーブル (アース)
- C. バンド

124 整備と調整

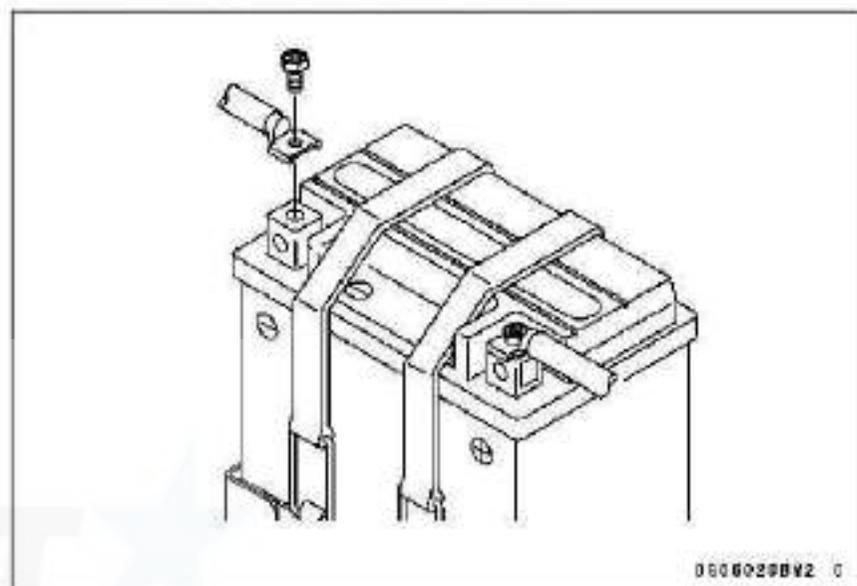
1. バッテリーケーブルの取り外し

- 必ず艇のイグニッションキーを抜いてから実施してください。

(1) キャップをずらす。

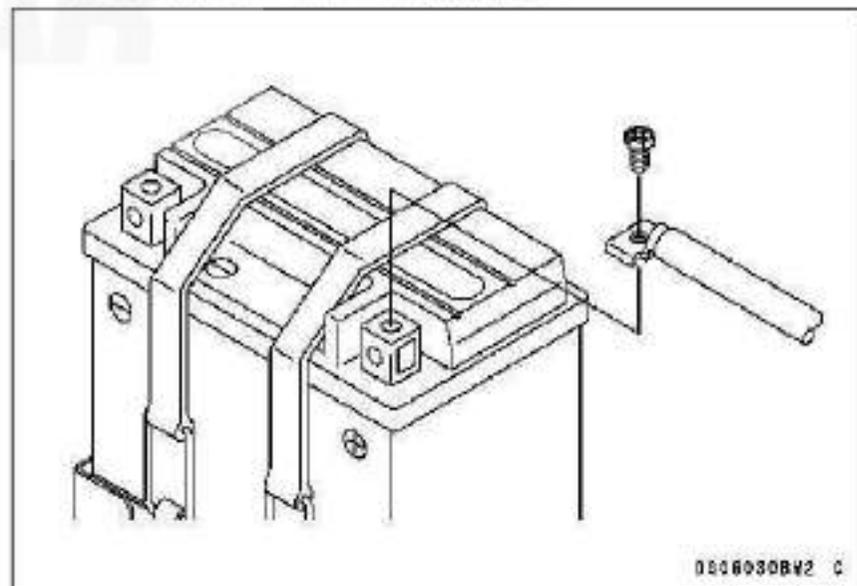


(2) マイナス側ケーブルの取り外し



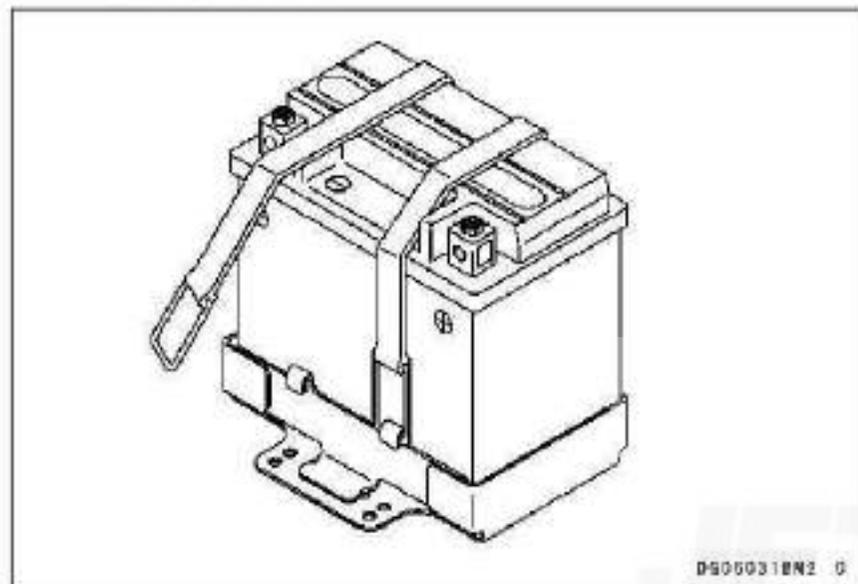
- 必ずマイナス (-) 側を先にはずす。

(3) プラス側ケーブルの取り外し



- 次に (+) 側をはずす。

2. バッテリ取り外し

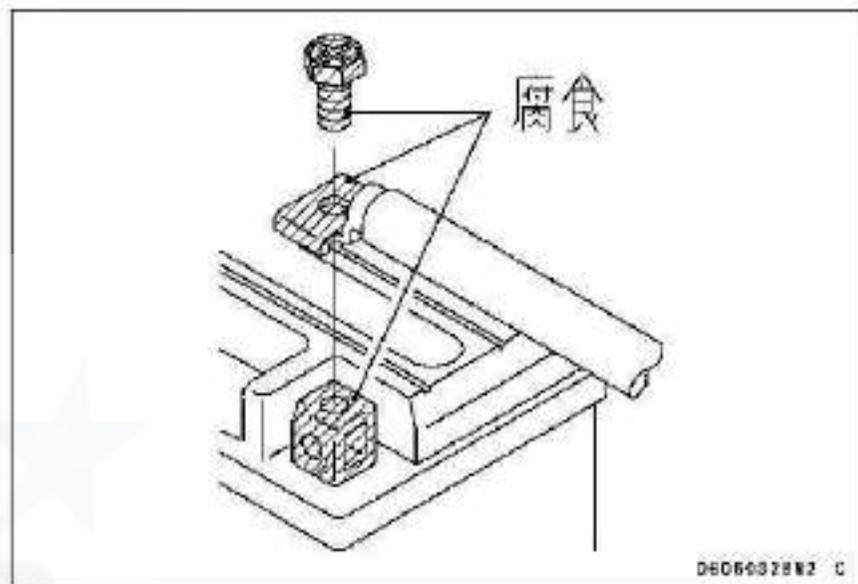


D6060318N2 C

- 固定バンドの金具をフックより取りはずす。

バッテリーの点検、処置:

(1) バッテリ端子部の酸化・腐食(緑青の発生、白い粉吹き等)



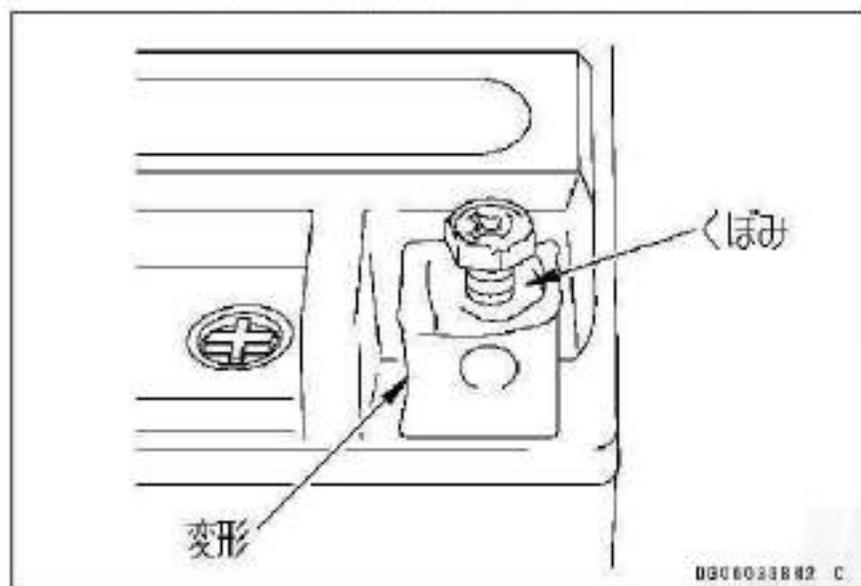
D6060328N2 C

<クリーニング方法>

1. 浸透潤滑剤スプレーを塗布する。
2. 5分間放置する。
3. 布で拭きとる。またはサンドペーパー、ワイヤブラシで磨く。

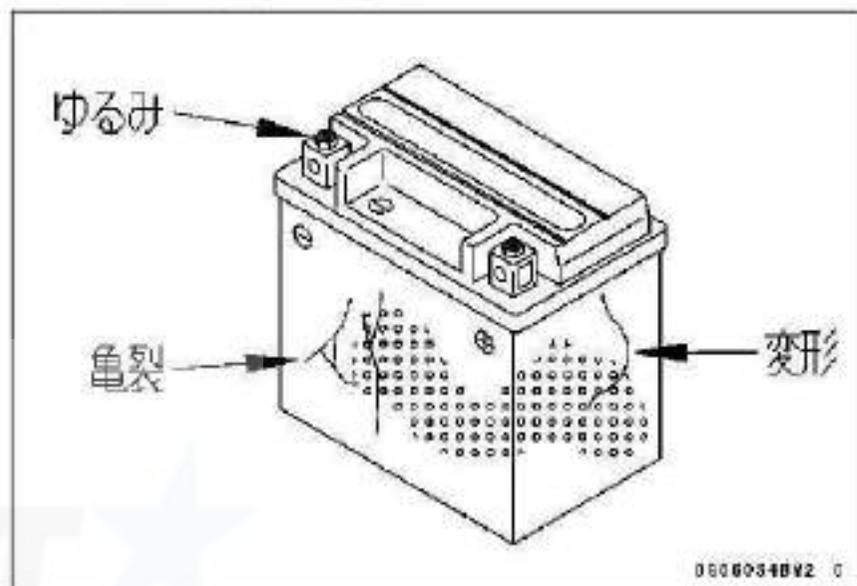
126 整備と調整

(2) バッテリー端子の損傷(変形、割れ、くぼみ)



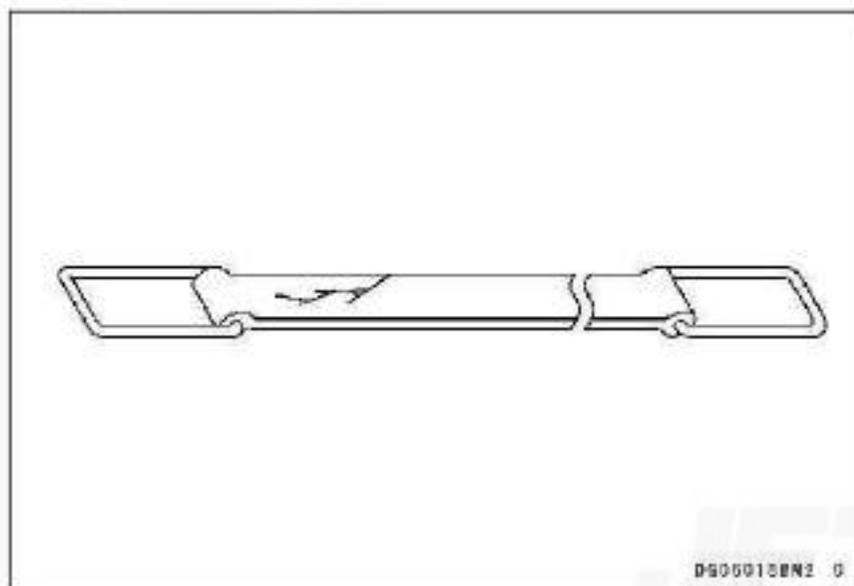
- 変形、割れ、くぼみがあればバッテリーを交換する。

(3) バッテリー本体の点検



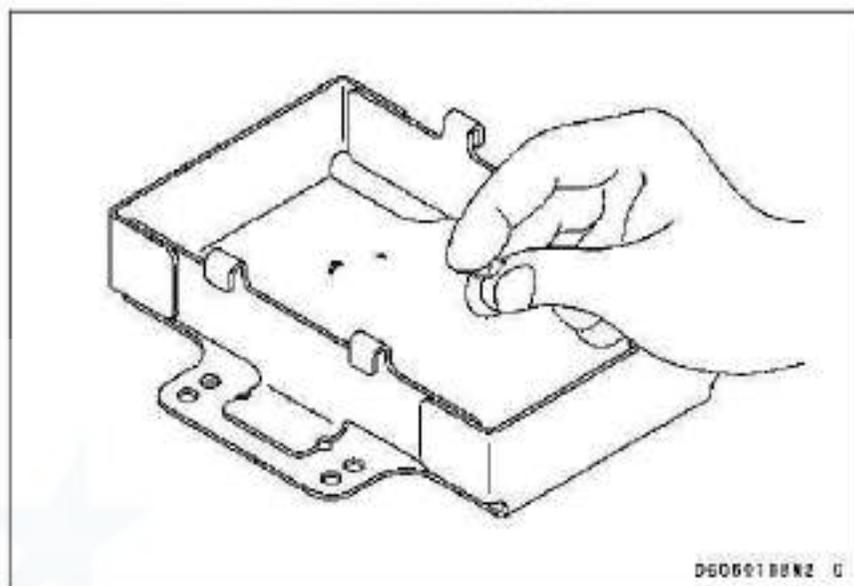
- 変形、割れ等のダメージがないことを確認する。

(4) 固定バンドの点検



- 切れ、割れ、伸びなどの劣化がないことを確認する。

(5) バッテリ取り付けケースの清掃

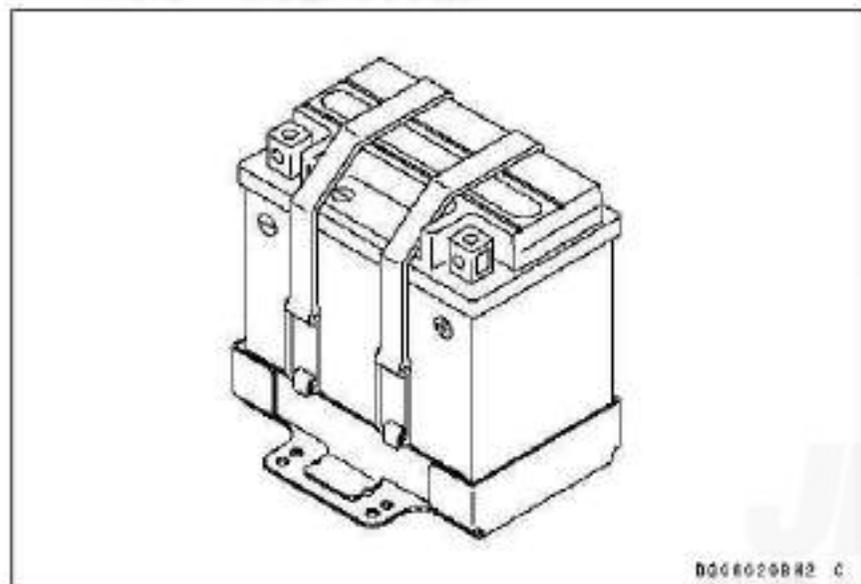


- 取り付けケースを確認し、ゴミなどがあれば除去する。

128 整備と調整

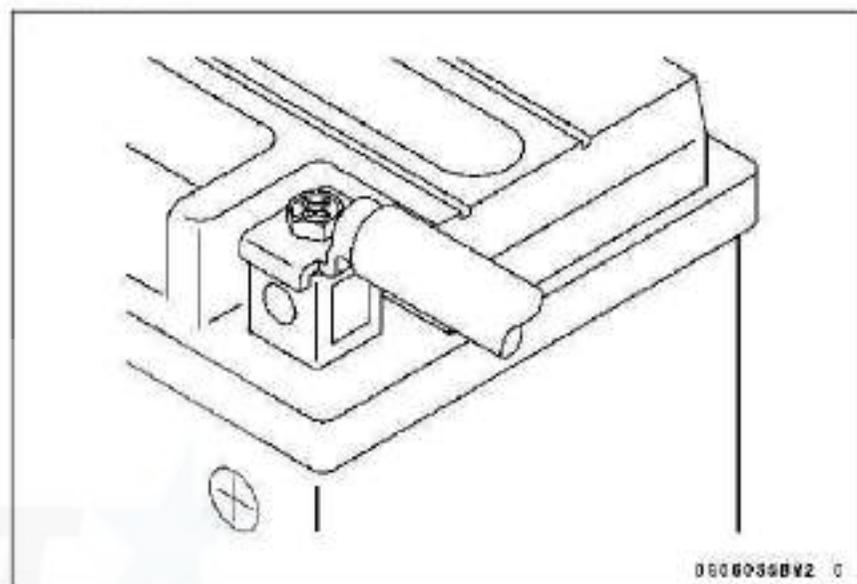
バッテリーの取り付け:

1. バッテリーの取り付け、固定



- バッテリーをバンドで固定し、バッテリーにガタが無いことを確認する。
- #### 2. ケーブル組み付け
- ケーブルは必ずプラス側を先に取り付けてください。

(1) 仮締め

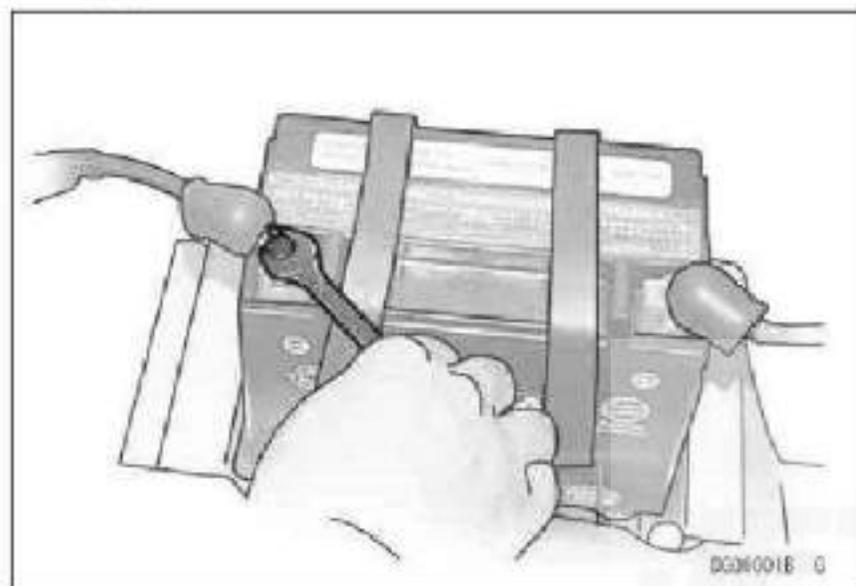


- ケーブル端子の向きに注意し、バッテリー端子とケーブル端子が密着するように取り付ける。

注意

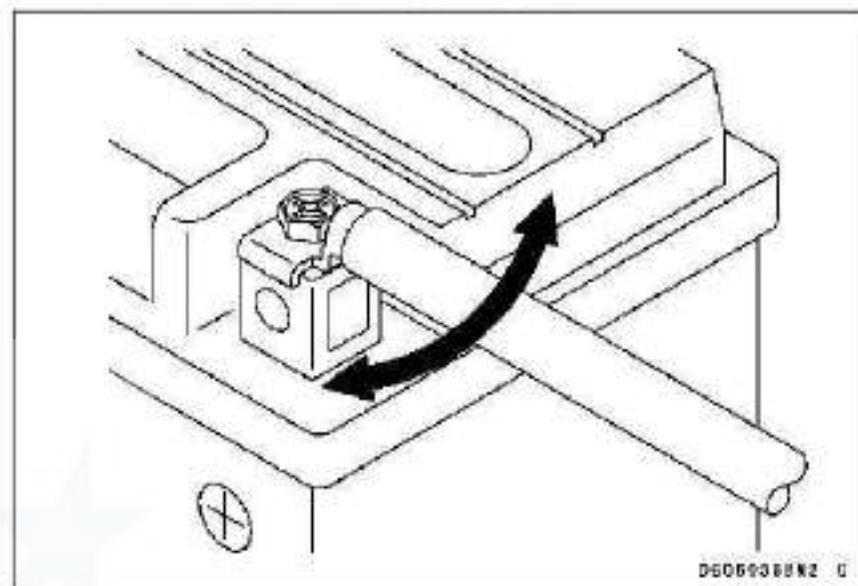
バッテリーの(+)と(-)を逆に接続しないでください。レギュレータや整流器が損傷します。

(2) 本締め



- スパナを使用し、規定トルクで締め付ける。規定トルク：3 N・m (0.3 kgf・m)
- プラス側を本締めした後、マイナス側を取り付ける。

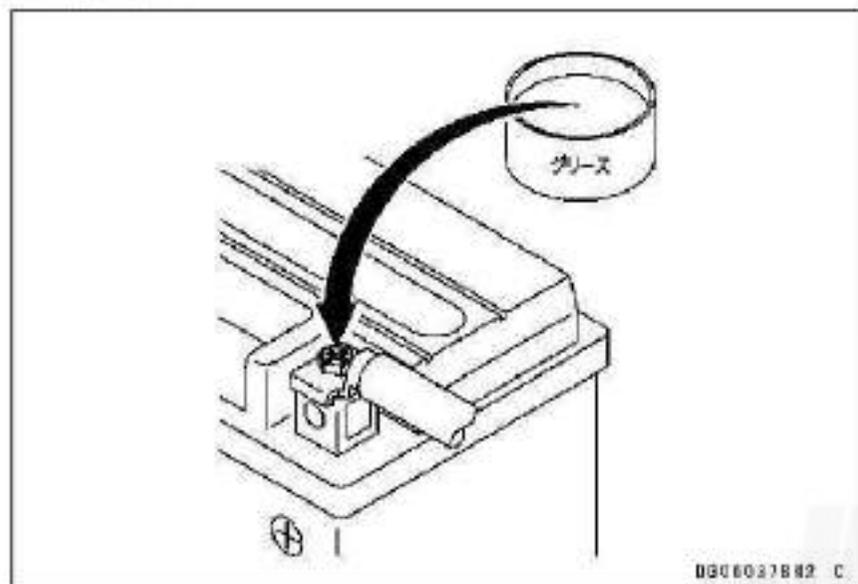
(3) バッテリケーブルの固定確認



- 両側とも本締めした後、ケーブル端子を左右方向に動かし、ケーブルが動かないことを確認する。

130 整備と調整

(4) 防錆処理



- グリースまたは浸透潤滑剤を塗布する。

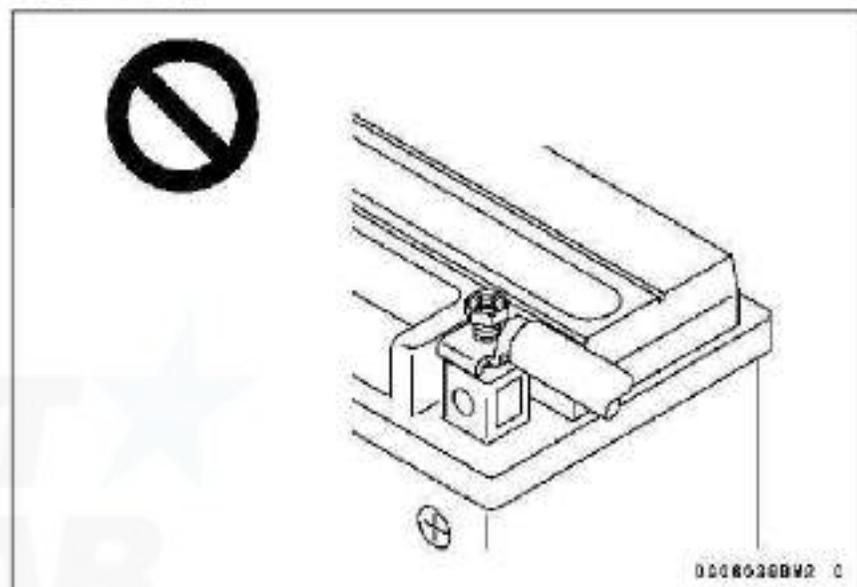
(5) 端子キャップ取り付け



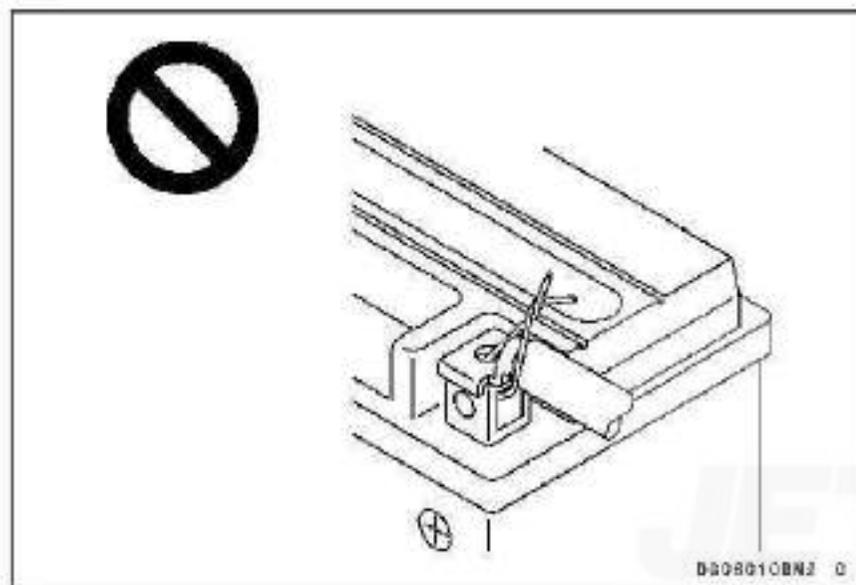
- 端子部を端子キャップで確実にカバーする。

ケーブル取り付け時の注意事項

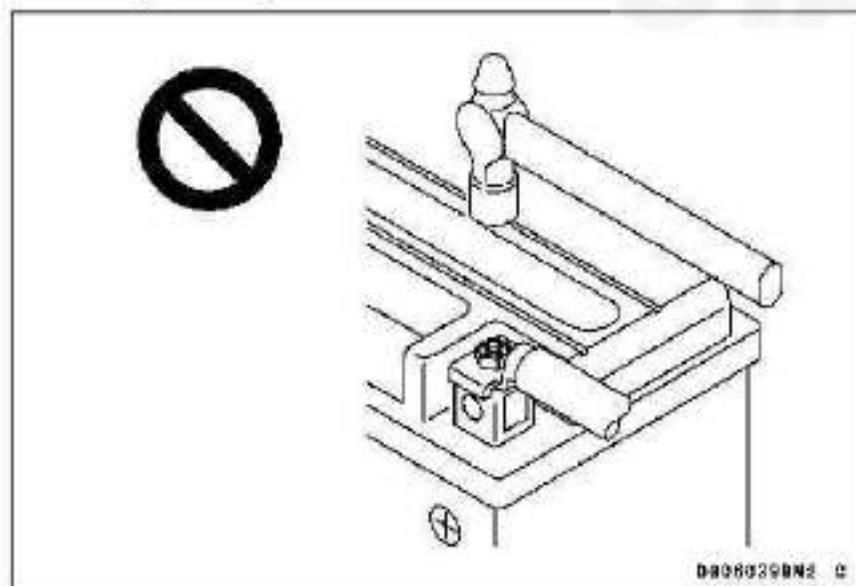
- (1) 取付が不十分になるため、長過ぎるボルトは使用しないこと。



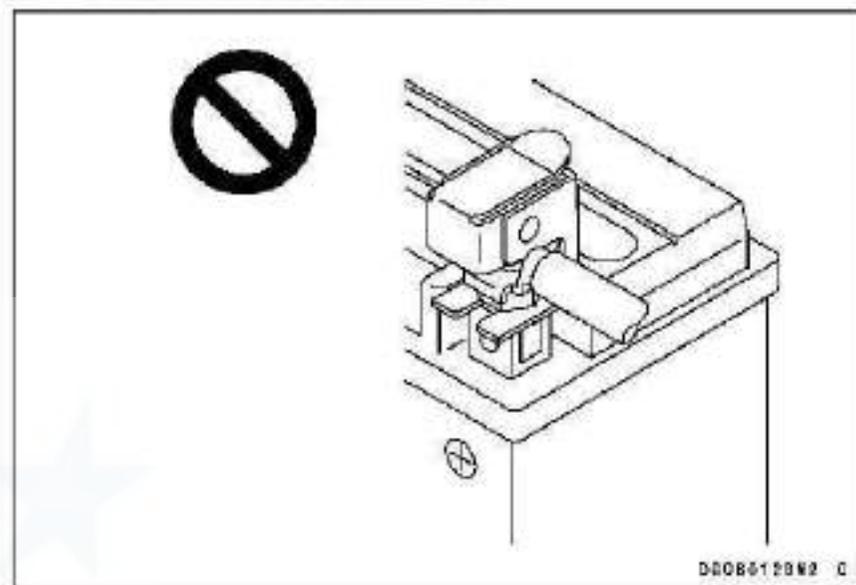
(2) 接触が不十分になるため、針金等で接続しないこと。



(3) 端子が変形・破損するため、端子部をハンマーでたたかないこと。



(4) 航行時の振動で外れるおそれがあるため、ワンタッチ式カプラは使用しない。



(5) 複数のケーブル端子を接続する場合端子間にスキマがないように確実に締め付ける。

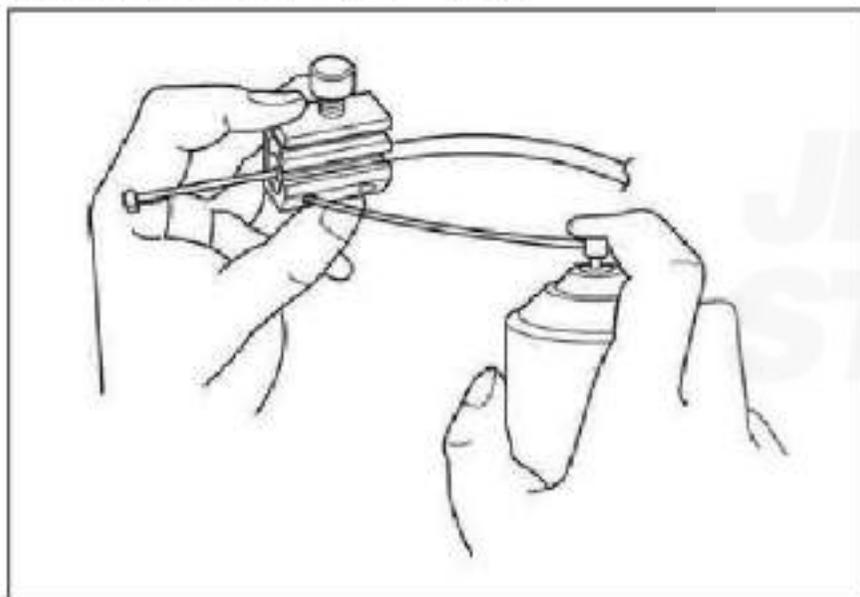
警告

バッテリーケーブルの取り付けがゆるむとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡する可能性がある。バッテリーの端子のスクリュはしっかり締め付け、カバーを端子にかぶせてください。

潤滑

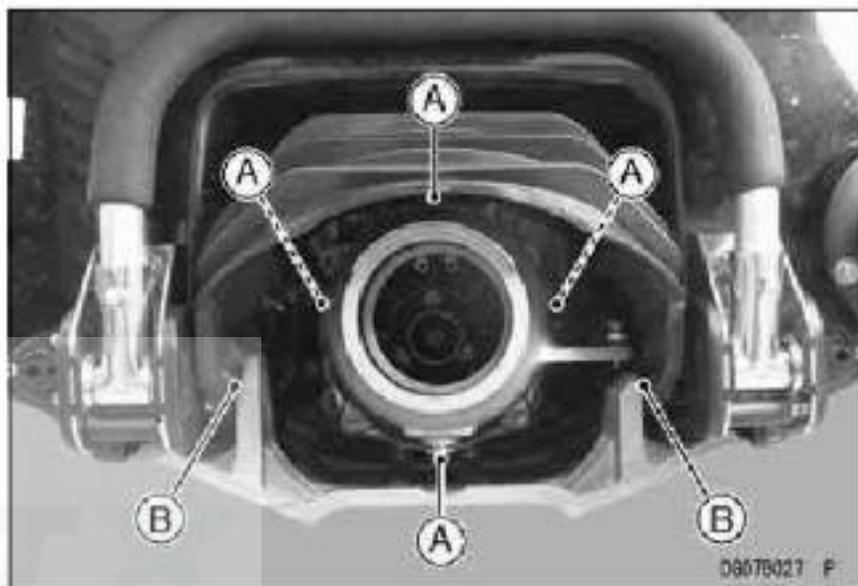
すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータクラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑頻度については、「定期点検整備表」および「乗る前の点検項目」を参照してください。

- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレします。
スロットルコントロールケーブル



ケーブルルーバを使ってケーブルの潤滑をする

ステアリングノズル、リバースバケットのピボット



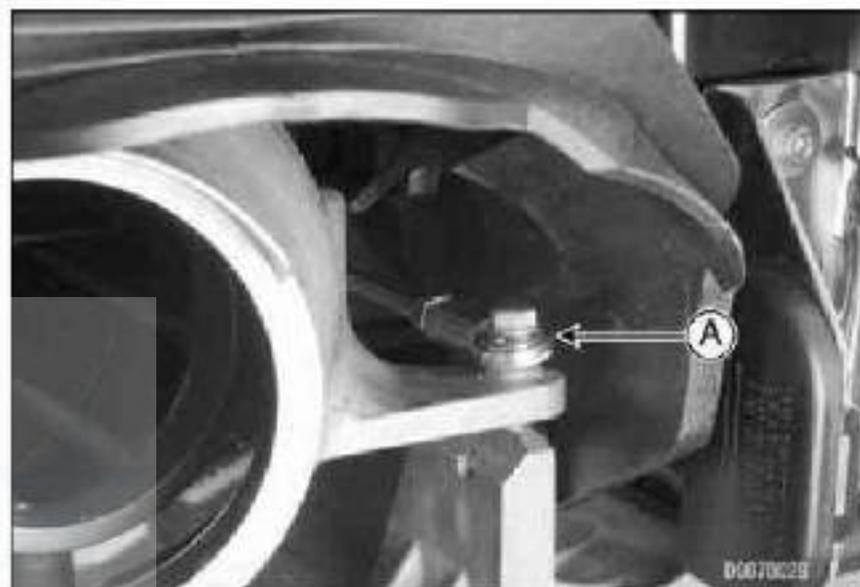
- A. ステアリングノズルピボット
- B. リバースバケットピボット

- 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。
シフトリンクのボールジョイント



A. ボールジョイント

- ステアリングケーブルジョイント(ステアリングシャフトの下部)



A. ステアリングジョイント

- この作業は「ジェットスキーARK」で実施してください。

スロットルレバーの取り付け部



A. グリースを塗布

要点

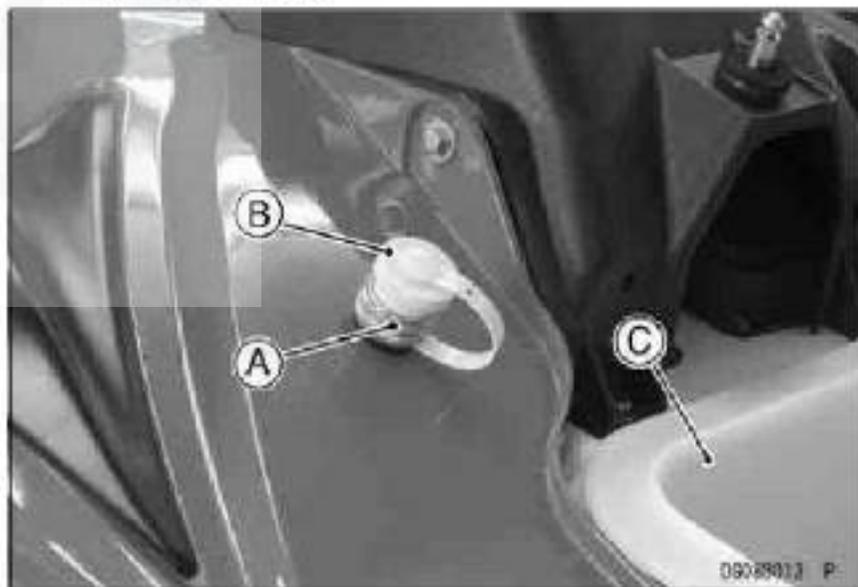
- ハンドルパーピボットの分解と潤滑は「ジェットスキー ARK」で行ってもらってください。

冷却システムの洗浄

冷却システムに砂や塩分が堆積するのを防ぐため、ときどき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期点検整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水の量が減ったときはすぐに行ってください。

また、この方法は、陸上の整備でエンジンに冷却水を送る必要のあるとき（例えばエンジンオイルの交換）にも使われます。

- 冷却水の接続口が前部備品入れのふたを開けた右側にあります。



- A. 接続口
- B. キャップ
- C. 前部備品入れ

エンジン冷却システムの洗浄

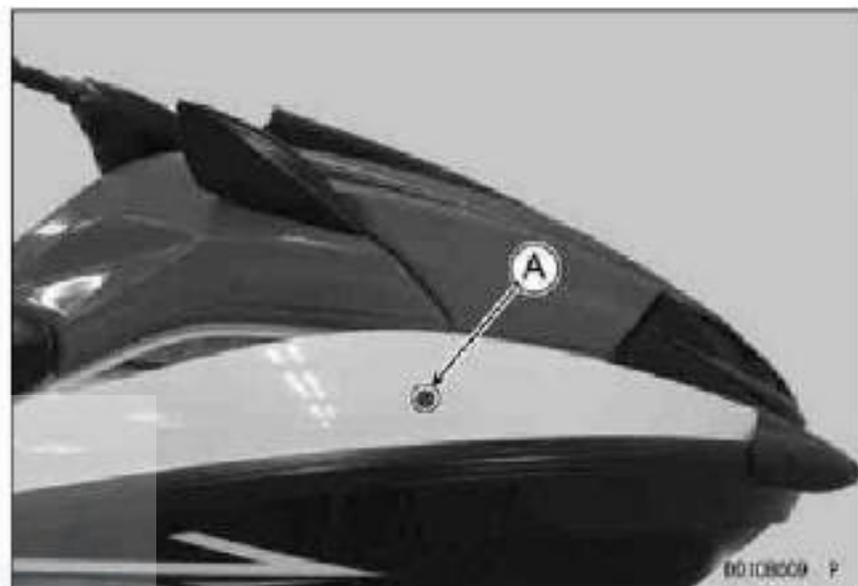
- キャップを外し、接続金物を取り付けた水道ホースを接続口に接続します。
- 水道の蛇口を開ける前に、エンジンをかけ、アイドリングさせます。

注意

エンジン停止中に冷却水を供給するとシリンダ内に水が入る可能性がある。シリンダ内に水が入った状態でエンジンを始動すると、ハイドロリックロックを起こしてエンジンに重大な損傷を与える。冷却水の供給なしにエンジンを15秒以上、特に高回転で運転させると、エンジンや排気系統に重大な損傷を与える。

エンジンが損傷しないようにするため、エンジンを始動してから、冷却水を流し始める。冷却水を止めてからエンジンを停止すること。ただし、冷却水がない状態でエンジンを15秒以上回さないこと。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船体の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節してください。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回吹かせて排気系統から水を排出します。

注意

冷却水の供給なしにエンジンを15秒以上、特に高回転で運転させると、エンジンや排気系統に重大な損傷を与えます。エンジンの損傷を避けるため、十分な冷却水の供給がない状態でエンジンを運転しないでください。

- エンジンを止め、ホースを外してください。
- 元通りにキャップを取り付けて、しっかりと締めます。

ビルジ系統の洗浄

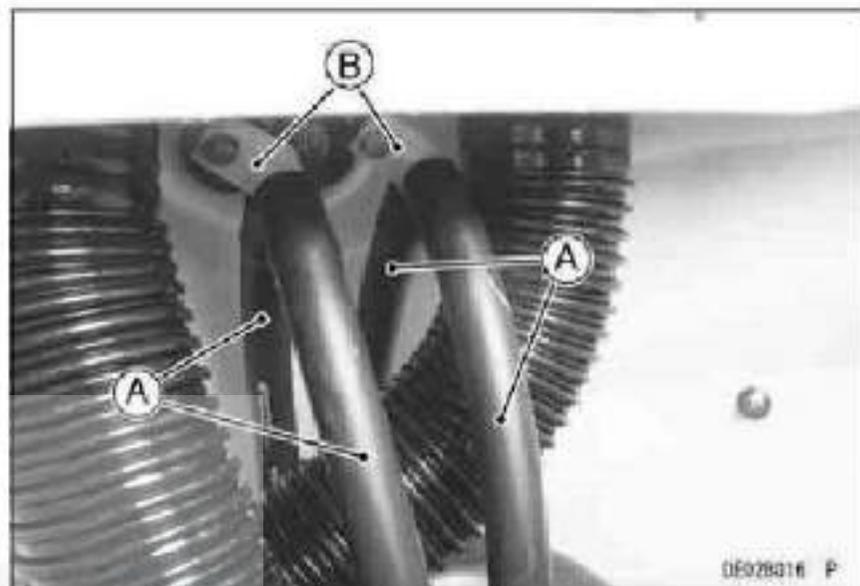
詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期点検整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われるときはすぐに洗浄してください。

- ハンドレールプレートを外すため、ナットとボルトを外してください。



- A. ナット
- B. ボルト
- C. ハンドレールプレート

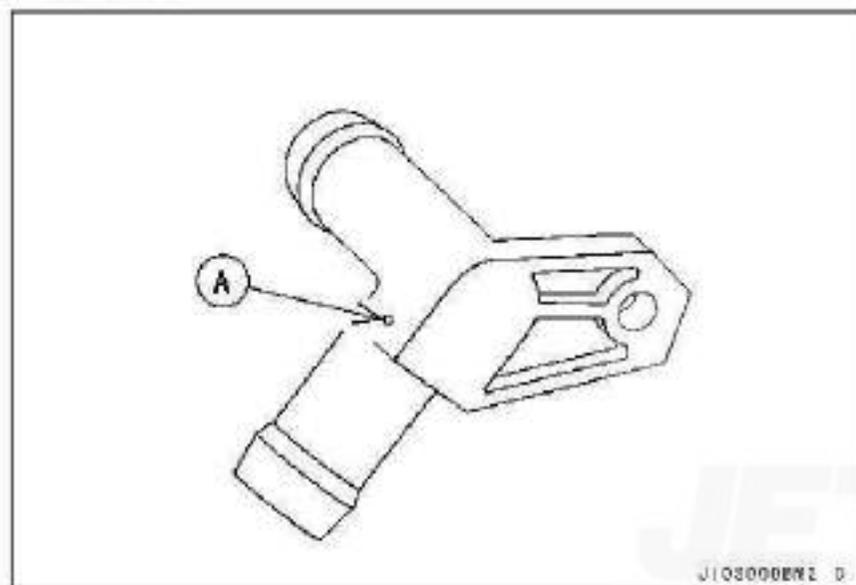
- それぞれのプラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外してください。ブリーザはエンジンルームの後方上側にあります。



- A. ビルジホース
- B. ブリーザ

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。スターン（船尾）のドレンプラグを外してエンジンルームの水を出します。
- 反対側のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。4本のホース全てについて洗浄します。
- プラスチックのブリーザにそれぞれのホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな穴が詰まっていないか確かめてください。もし、穴が詰まっていれば、エンジンが停止したときやアイドリング状態のとき、ホースを通して水がどンドンエンジンルームに入ってくるこ

ります。ブリーザをはずす必要があるかも知れません。



A. ブリーザの穴

- すべてのビルジホースをもと通りに接続します。

要点

- ウォータクラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧搾空気を吹き込んでください。(「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。)

ジェットポンプベアリング/シール

注意

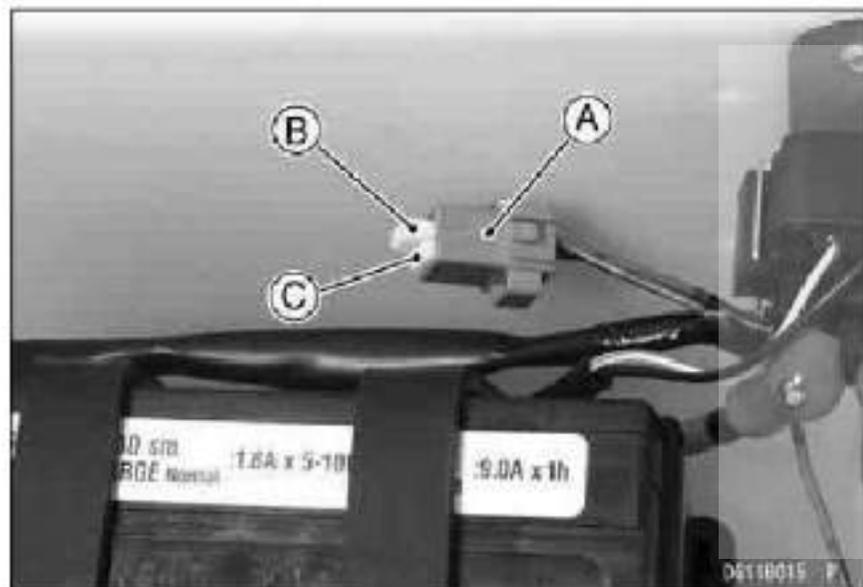
ジェットポンプベアリングとシールは定期的に整備してください。整備が不十分な場合、ジェットポンプベアリングが破損し、エンジンの重大な損傷の原因となります。

ジェットポンプベアリングとシールは、初回は25時間航走時または1年のどちらか早い方、以後は50時間航走毎または1年毎のどちらか早い方に「ジェットスキーARK」で定期点検を受けてください。また、長期間保管する前に、ジェットポンプベアリングの整備を実施し、ジェットポンプ内に残った水を抜いてください。水がポンプ内に残っていると、ジェットポンプベアリングが腐食したり、早期破損の原因になります。

ヒューズ

20 Aのメインヒューズが船首バッテリー格納スペースにあるヒューズケースに入っています。

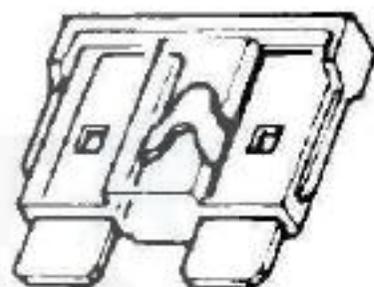
操作中にヒューズが切れたら、その原因となった電気システムを点検し、適切な容量の新しいヒューズに交換してください。



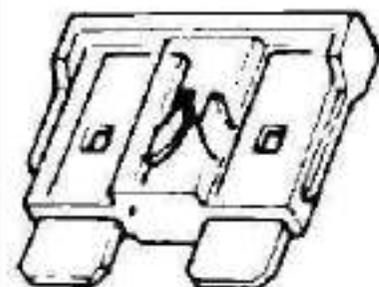
- A. ヒューズケース
- B. メインヒューズ
- C. スペアヒューズ

注意

ヒューズの代用品を使用すると、電気システムの故障の原因となったり火災の原因となる可能性があります。ヒューズの代用品は使用しないでください。切れたヒューズはヒューズケースに表示されている容量のヒューズと交換してください。



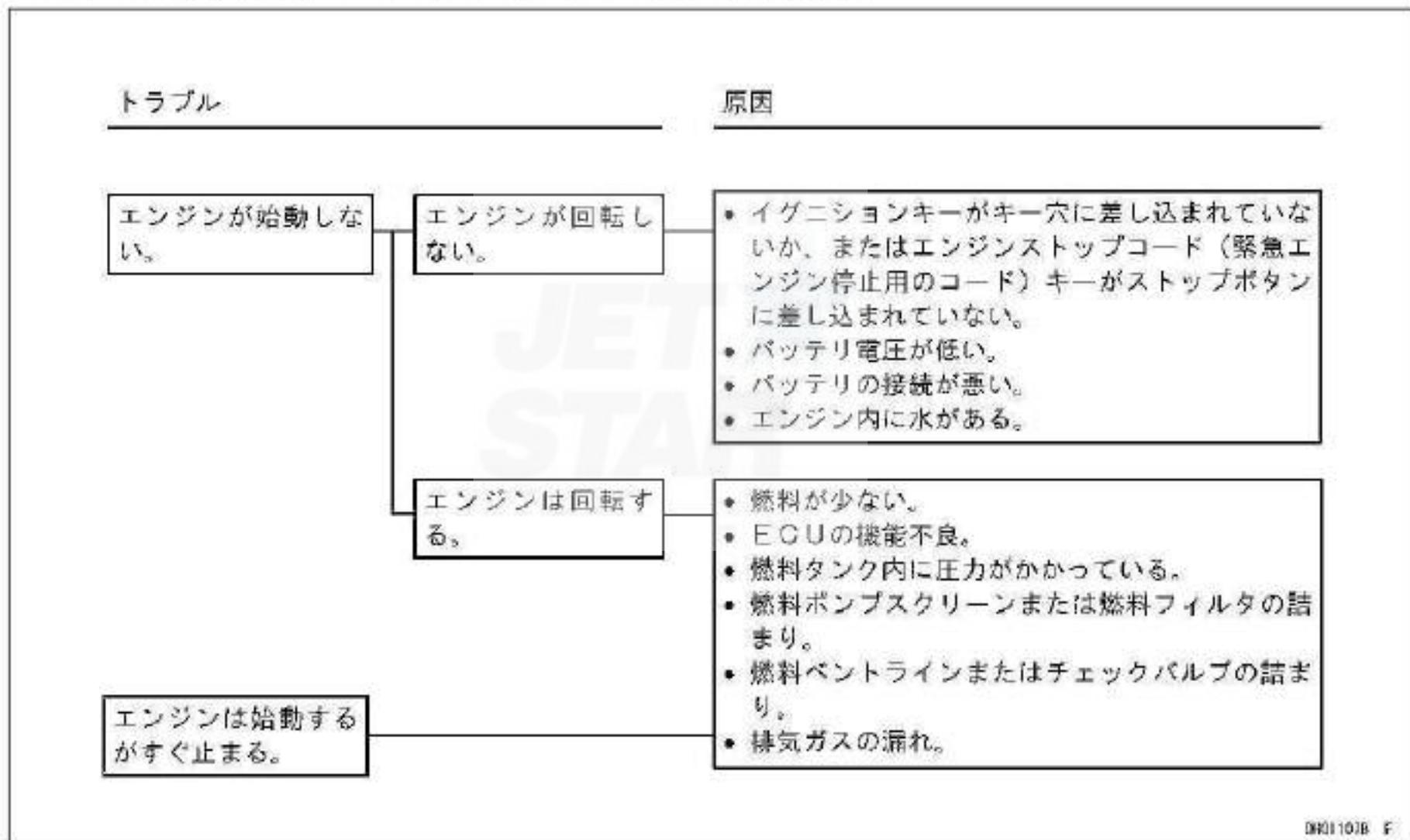
正規なもの

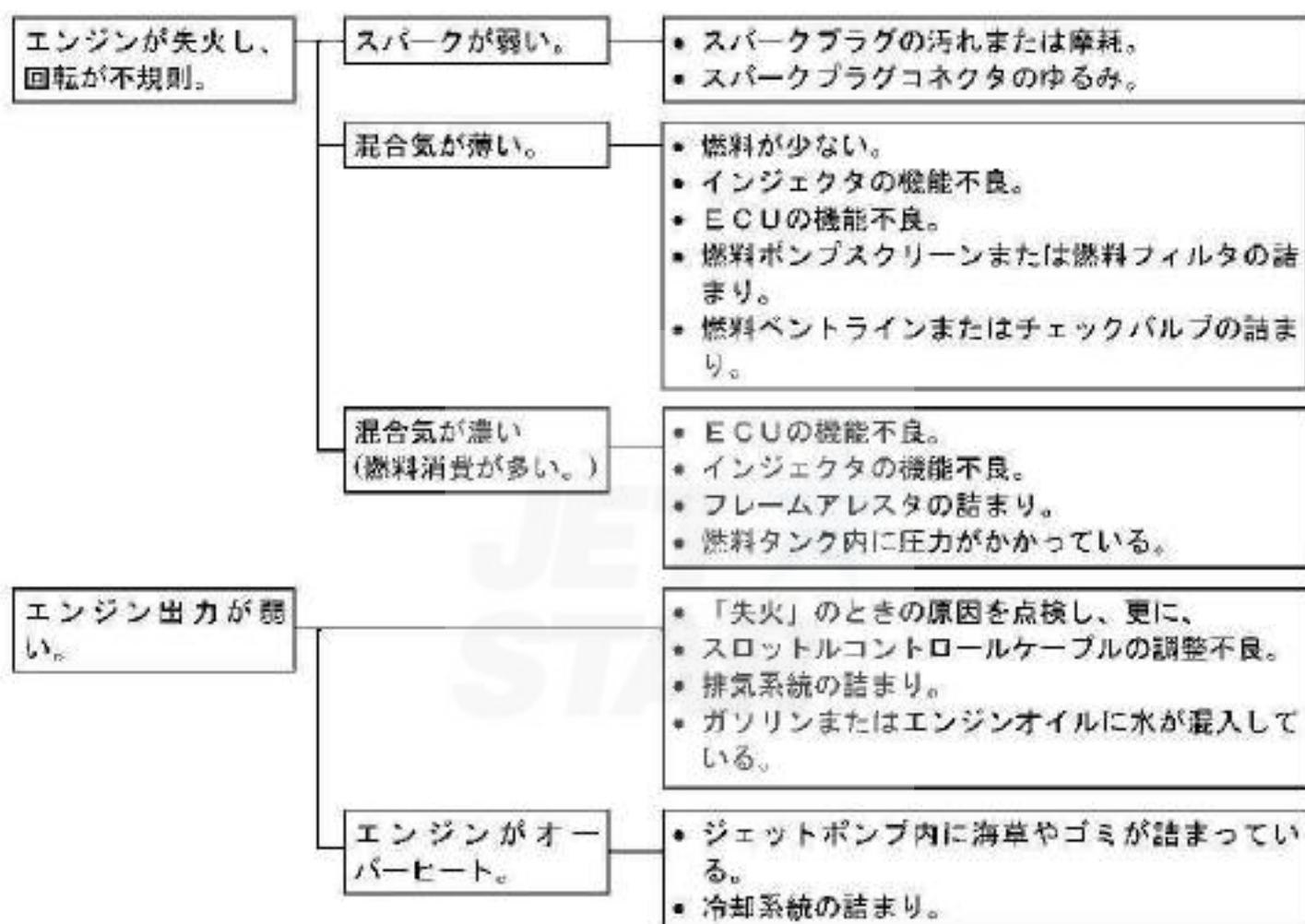


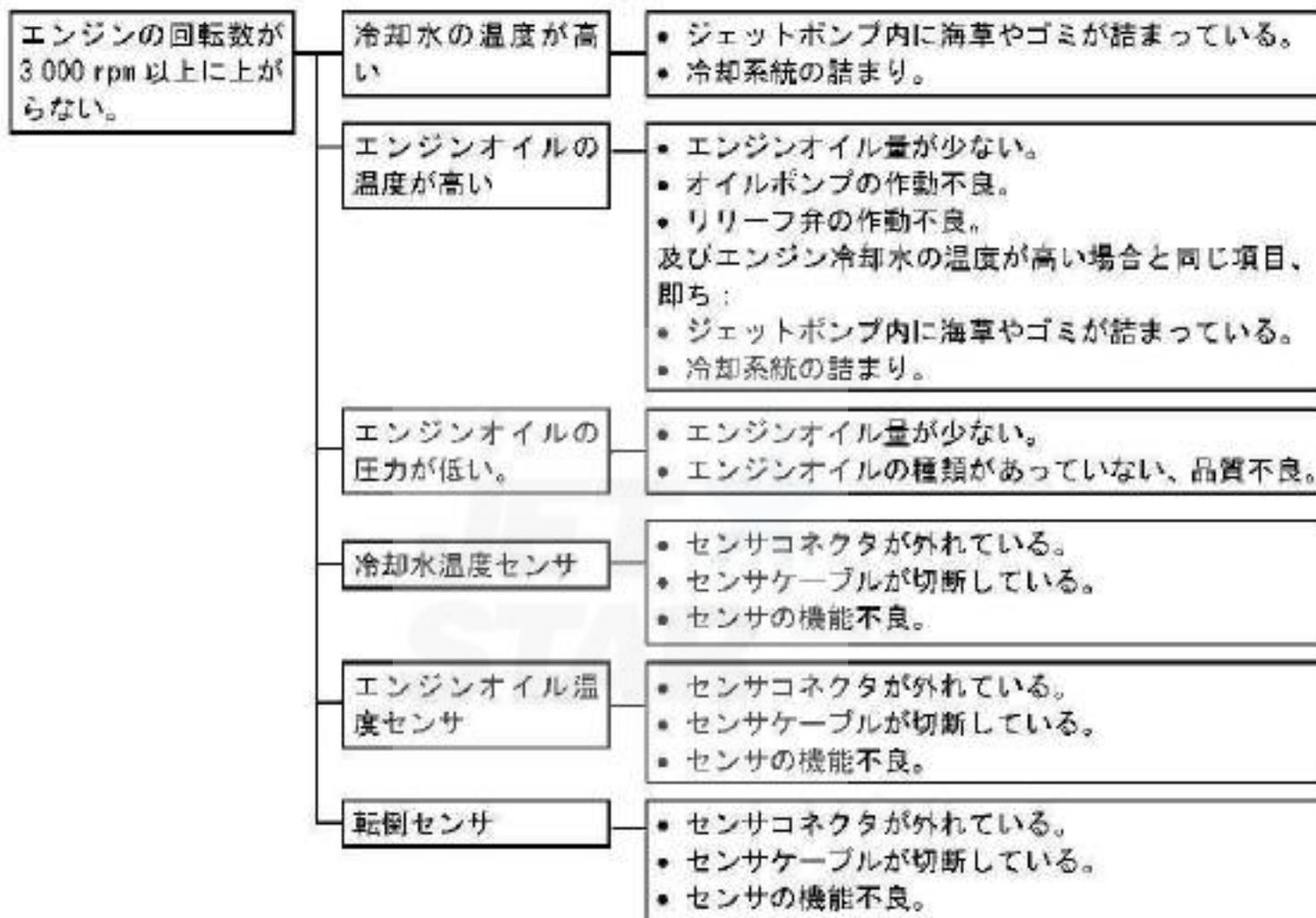
切れたもの

トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータクラフトのトラブルが確定できないときは、「ジェットスキーARK」に相談するか、サービスマニュアルを参照してください。







ノッキングを起こす。

• ガソリンの品質不良。

ステアリングがかた
い、または調子が悪
い。

• ステアリングピボットの油切れ。
• ステアリングケーブルが損傷、または取り回しが
不適當。

JET★
STAR

⚠ 警告

ステアリング装置の故障は事故の原因となり、死亡または重大の障害を受ける可能性があります。事故を避けるため、ステアリング装置に少しでも異常があるときは、「ジェットスキーARK」で点検を受けてください。

JET ★
STAR



船舶検査

船舶検査

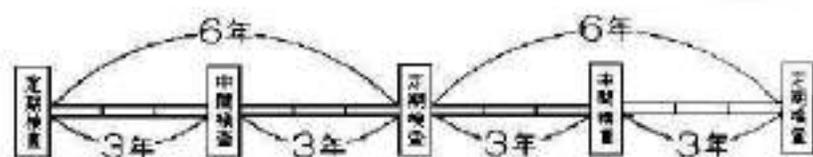
ウォータクラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類：

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中間の3年毎に行う中間検査があります。

- 定期検査
定期的に行う精密な検査
- 中間検査
定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1カ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

船舶検査証書など合格証書類

1. 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、(1) 船舶検査証書 (2) 船舶検査手帳 (3) 船舶検査済票 (年票と番号票を各2枚) が渡されます。

上記 (1) および (2) の証書類は、ウォータクラフトを使うときには必ず船内に備えてください。

また、(3) の検査済票 (通称「船検ナンバー」) は、ウォータクラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼り付けてください。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

2. 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返されるときに、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼ってください。

航行区域

航行区域

法律（船舶安全法）により、ウォータクラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

注：

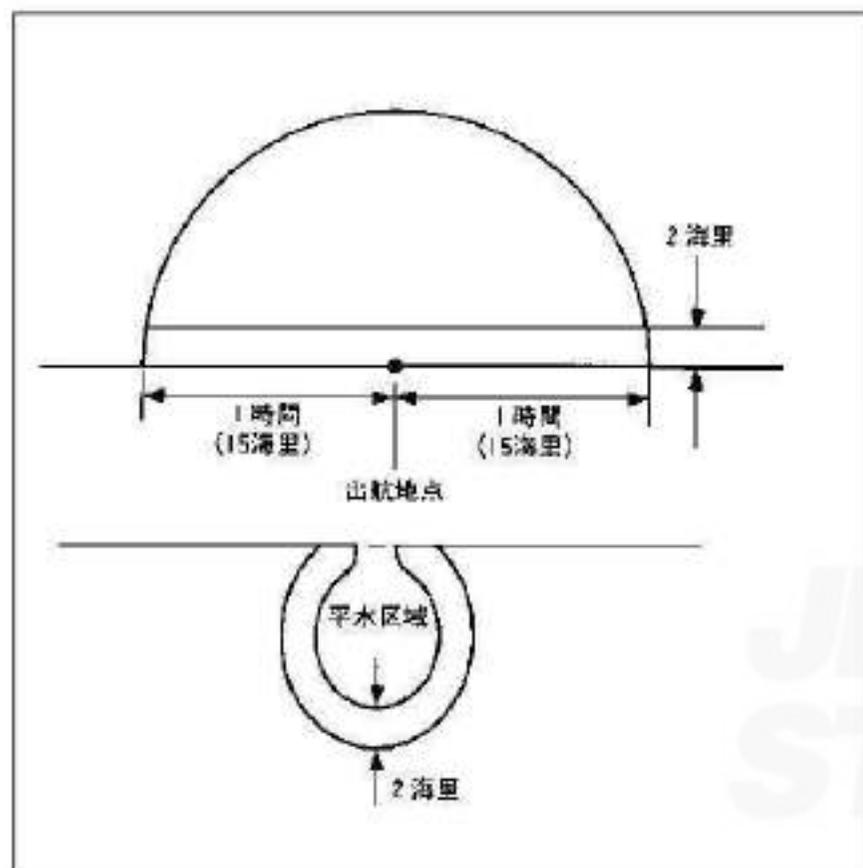
- 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
- 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

1. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸か2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

JET★
STAR





母船に乗せて使用する場合

1. 沿海区域で、母船から半径2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。
3. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

要点

- 母船に搭載してウォータクラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

* 周辺の人たちに迷惑をかけないために、次の事を守ってください。

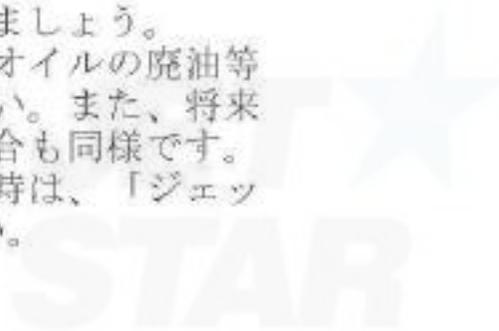
- 遊泳者のいる近くでは乗らないでください。
- 人家の近くでは乗らないでください。
- 他の人に迷惑をかける騒音は出さないでください。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないように注意してください。
- 航走中の船に近づかないでください。
- 漁場へは乗り入れないでください。また、作業中の漁船には近づかないでください。
- 乗り入れ禁止区域には入らないでください。
- 指定区域内では制限速度を守ってください。

環境保護

環境保護

いつまでもきれいな環境を保つために、次の事を守ってください。

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。
(不法投棄は絶対しないでください。)
- 燃料、オイル等で浜辺や海岸、そして水を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や、生物を大切にしましょう。
- 使用済みのバッテリーやエンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。また、将来ジェットスキーを廃棄される場合も同様です。もし、これらのものを廃棄する時は、「ジェットスキーARK」にご相談ください。



お客様の相談窓口

あなたのカワサキウォータークラブ“ジェットスキー”について、ご不明な点や、サービス面のことで、ご意見やご質問がございましたら、お買いあげいただきました「ジェットスキーARK（正規取扱店）」または下記の相談窓口にお申しつけください。

株式会社カワサキモータースジャパン
ジェットスキー営業部

〒673-8666 兵庫県明石市川崎町1番1号 Tel.078(921)2491代表

*平成23年4月1日現在

JET★
STAR



警告

重要安全事項



JCI認定のライフジャケット、身体を保護できる衣服（ウェットスーツ/パンツ等）、保護具を着用してください。



飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。



- ・ウォータークラフトの背後に入っているときは、スロットルを開けないでください。ジェットノズルから排出される水や異物でけがをする恐れがあります。
- ・エンジン運転中はジェットポンプの吸水口に近づかないでください。長い髪、衣服、紐等が巻き込まれて、けがをしたり溺れたりする恐れがあります。

取扱説明書を必ず読んで、よく理解してからご使用ください。



- ・死傷につながる衝突を防止するために、周囲の遊泳者、障害物、船舶に絶えず注意し、回避できる安全な速度、距離を保って航行してください。早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータークラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- ・障害物を避けるときはスロットルレバーを戻さないでください。方向を変えるためには、スロットルレバーを操作して推力を確保することが必要です。

- ・エンジンを始動する前に、エンジンルームの換気をして下さい。気化したガソリンがエンジンルーム内にたまると、火災や爆発の原因となることがあります。
- ・操縦者が落水したときにエンジンが停止するよう、エンジンストップコードを手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。
- ・自分の操縦技量をよく知り、無理な航走はしないでください。急旋回や波のジャンプは、背骨/脊椎等を負傷する恐れがあります。
- ・航海法規、地域の条例や規則を必ず守ってください。

DA019138 3



* 9 9 9 2 1 - 0 1 9 7 *

 **Kawasaki**

川崎重工業株式会社

モーターサイクル&エンジンカンパニー

Part No. 99921-0197

JT1500KD

Printed in Japan